

令和4年度 総合的な探究の時間 真庭トライ&レポート (TR) まとめ冊子



岡山県立真庭高等学校 (落合校地)

2022/07/14 14

【目次】

1. 巻頭言	1
2. 真庭トライ&レポート 全体計画(県提出)・評価表・ポンチ絵	2~5
・令和4年度 総合的な探究の時間 全体計画	
・令和5年度 総合的な探究の時間 全体計画	
・評価表	
・ポンチ絵(概念図)	
3. 令和4年度真庭トライ&レポート成果発表会【令和5年2月4日(土)】	6~12
・レジュメ	
・プログラム	
・講師の先生からのおことば	
・研究協議まとめ	
・中山先生による発表「新学科1年生の取組と R05R06 展望」(パワーポイント資料)	
4. 総合的な探究の時間で育った学力についてのアンケート集計結果	13
5. その他資料	14~23
・プレゼンスライド作成講習会資料	
・まとめ冊子原稿A作成マニュアル(パワーポイント用・クロームブック用)	
・まとめ冊子原稿B作成マニュアル(クロームブック用)	
・真庭SDGsパートナー関係資料(登録書・ポスター・一覧)	
1. 第1学年	24~67
・年間活動計画	
・エモ-1グランプリ要項	
・1年生TR中間発表会プログラム	
・全20班資料 【原稿A(左ページ):スライド・メモ、原稿B(右ページ):学び・講評】	
7. 第2学年	68~95
・年間活動計画	
・2年生TR中間発表会プログラム	
・2年生TR学年発表会プログラム	
・全12班資料 【原稿A(左ページ):スライド・メモ、原稿B(右ページ):学び・講評】	
8. 第3学年	96~97
・年間活動計画	

本校の総合的な探究の時間「真庭トライ&レポート」は平成22年度から始まり、本年度13回目の成果発表会を行うことができた。

「真庭トライ&レポート」では地域をフィールドにして、地域で行動し、地域と連携し、地域に貢献することを目指して様々な探究活動に取り組んでいる。そして、活動の中で地域の皆様方に色々と御協力いただき、生徒を育てていただいている。発表会では1年生が10教室に分かれて発表し、2年生の代表が落合総合センターでステージ発表を行った。



これらの発表を見ると、1年生は探究活動を通して論理的思考力や仲間と協働する姿勢をしっかりと身につけており、2年生はさらに表現力を高め課題解決に向けて地道な努力をしてきたと感じた。

3年前から1・2年生共通のテーマに「SDGs（持続可能な開発目標）」を取り上げて取り組んできた。そもそも、SDGsは自分達の生活とどのような関係があるのだろうか。国連は、今地球上にどのような課題があるかを考えて17の目標を定め、その下に169の具体的な行動目標をおいた。物質的だけでなく精神的にも豊かに暮らしていくためには、その行動目標に照らし合わせながらどのように生きてゆけばよいのか、さらに、今だけではなくて将来にわたって、すなわち自分達だけでなく自分達の子孫の時代も豊かに暮らしていくためにはどうあればよいのかを生徒諸君が考えていくことこそSDGsの最終的な目標だと考える。生徒諸君は、現在、具体的な答えを持っていないかもしれないし、何をしてよいかわからないかもしれない。そこで、自分たちでしっかりと課題を把握し、どうしていけばよいのかを考え、さまざまな人達と協働しながら行動を行っていくことこそが大切である。この探究活動の中で、自分たちの日々の行動が自分たちの豊かな未来を作り上げることを考えてもらいたい。

令和3年1月に、岡山県教育委員会は、「岡山県の教育でこれから進めていかなければならない新しい3つの柱」を公表している。この中に「地域学」がある。これは、「地域課題」をテーマにして課題解決型学習を行い、その中で「非認知能力」を身につけていこうというものだ。「非認知能力」とは、近年、若者に身につけてもらいたい力の一つとされ、学校のテストのように数値化できる力（「認知能力」）以外のものとされる。つまり、様々な活動のプロセスの中で見えてきた「自分自身の変化」を確認し、地域の方々や先生方からアドバイスをもらいながら「自分を高めていく力」を身につけていって欲しいということである。併せて、活動を通じて「自制心」や「忍耐力」などの「自分と向き合う力」や、「協調性」や「コミュニケーション能力」などの「他者とつながる力」も身につけてもらおうとも考えている。私は、生徒諸君にも、「真庭トライ&レポート」の学習・活動を通じて、このような力を身につけて欲しいと考えている。

最後に、御指導・御助言をくださった大学の先生方や、各行事に御協力くださった保護者・地域の皆様に厚く感謝を申し上げ、巻頭言としたい。

令和4年度 総合的な探究の時間(落合校地) 全体計画

岡山県立真庭高等学校(落合校地)

生徒の実態

純朴で素直な生徒が多い。学習面に苦手意識を持つ生徒が多いが、授業態度は総じて真面目であり、部活動や清掃などの諸活動に誠実に取り組むことができる。
近年、県北中山間地域の急激な少子化により志願者が減少している。入学してくる生徒の進路希望も多様化している。

地域・社会の実態

真庭市は、少子高齢化という問題を抱える一方で、国内外でバイオマスタウンとしての先進的な取組が目立っており、「地域エネルギー自給率100% 2030"SDGs"未来都市真庭の実現～持続的に発展する農山村のモデルを目指して(私がわたしらしく生きるまち)～」をタイトルとして、SDGs未来都市選定都市29の1つに選ばれている。
学校近隣に垂水向津矢住民会メンバーで構成される「まにわ・しめムプロジェクト」がある。

学校の実態

Think Globally Act Locally - 地球的な視野で考え、地域で行動する - を本校のミッションに掲げ、高い志を持ち、広く郷土の自然や伝統・文化・産業に学び、学力を高め、探究的・体験的な学習を通して、創造力にあふれ、たくましく豊かな人間性や社会性を育て、地域や社会の発展に貢献できる実践力を身に付けた若者を育成している。

学校における教育目標

- (1) 知識や技術を確実身に付け、思考力、判断力、表現力等を養い、主体的に課題を解決する資質能力を持った人間を育成する。
- (2) 生涯にわたって自ら進んで学び、絶え間なく変化する社会に対応できる人間を育成する。
- (3) 社会規範を尊重し、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付け、心身ともに健康でたくましい人間を育成する。
- (4) 郷土の伝統や文化、産業に学び、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。

学校において定める目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
- (4) 2年生では、学校設定教科「課題探究サポート(1学年・2学年)」での学びと結びつけて、「探究のプロセス」(①課題設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現)と「思考のスキル」を身に付ける。

保護者の願い

(普通科)進学・就職と多様な進路実現に向けて、生徒一人ひとりを支援して欲しい。
(食農生産科)(経営ビジネス科)地域を支える人材として育てて欲しい。
(看護科)一人前の看護師になれるようしっかりサポートして欲しい。
社会人になるための基礎力を養成して欲しい。
挨拶・服装・言葉遣い・時間を守ることなど、生徒の品位を向上させて欲しい。

地域の願い

進学実績を上げて欲しい。
地域で活躍する人材を養成して欲しい。
優秀な看護師を養成して欲しい。
地域外へ進学しても、最終的には地元で働く人材を育成して欲しい。
地域に根ざした学校であって欲しい。

教職員の願い

確かな学力を獲得させ、進路希望を実現させたい。
自己指導能力を育成したい。
持続可能な地域社会をつくるユネスコスクールとしてのグローバルな人材を育成したい。
安全で安心な学習環境を整備したい。

学校において定める内容

名称「真庭トライ&レポート(略称:TR)」 トライ:実体験を重視する、レポート:必ず発表に結びつける(成果発表会・まとめ冊子・外部コンテストやイベントへの参加)

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力			
<p>地域の課題に対して、五感を通じた体験活動を積み重ねることによって、改善策・解決策について考える。 体験活動においては、質と量の向上を心がける。(体験の量を増やして質の向上を図る)</p> <p>1学年: 課題別グループ探究活動 学校周辺の地域の課題について考える。</p> <p>2学年前期: 修学旅行を利用した職場体験学習 2学年後期: 課題別グループ探究活動 真庭市全体の地域の課題について考える。</p> <p>3学年: 進路別課題探究活動 進路希望に応じて、地域(学校周辺・真庭市・岡山県・日本・アジアなど)の課題について考える。</p>	<p>論理的思考力</p> <p>インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。</p> <p>「聞いたり読んだりしたこと」を、分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。</p>	<p>協働性</p> <p>みんなで協力できる。</p> <p>各自の強みを生かして分担できる。</p> <p>集団で意見を出し合える。</p>	<p>ねばり強さ</p> <p>〈失敗=×〉ではないことを理解する。 (失敗から学び、改善策を考えて次ににつなげる)</p> <p>試行錯誤を前向きに繰り返し、PDCAサイクルをまわすことができる。</p> <p>積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。 [「?」→「体験」→「!」]</p>	<p>地域参画力</p> <p>(=地域貢献力)</p> <p>地域課題解決の担い手として、地域と積極的につながることができる。</p> <p>地域に関心を持つ。</p> <p>地域の課題を知る。</p> <p>地域の人と協働する。</p>

学習活動

週1時間(1・3年生…月曜日6限、2年生…金曜日6限)

1学年: ものごとを調べ、まとめる方法を学習する。

2学年: 自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表する方法を学習する。

3学年: 自らの進路実現に向けて、具体的に必要な内容を学習する。

指導方法

HR担任の枠を越え、各学年団全教員で指導にあたる。

少人数グループを編成し、各担当教員の指導のもと、学習に取り組む。

外部講師招聘や企業訪問など、校外へ積極的に赴く体験的な学習場面を設けるように配慮する。

指導体制

TR推進リーダー、TR推進チーム、TR総務からなる実施組織を中心に指導体制を構築する。

TR・カリマネ委員会が全体計画・年間指導計画を作成する。

全体計画に基づき、各学年団で具体的な学習活動計画を作成し、実施する。

共有サーバーを利用し、ワークシートなど各学年間・過年度の資料を有効活用する。

学習の評価

TR・カリマネ委員会で作成する。

学習の過程での取組や、完成したレポート・プレゼンテーションなどから総合的に評価する。

生徒一人ひとりの個人内で、能力や態度に伸長が見られたかどうかを中心に評価する。

評価規準をもとに、観点別に評価を行う。

各教科等との関連

シンキングツールを活用して、論理的思考力を育成する。
各教科指導において、表現活動(スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッションなど)を積極的に取り入れ、TRと関連づけて指導する。

コンピュータや本・新聞・テレビなどを通して情報を収集する方法だけでなく、五感を通してアンケートやインタビューなど直接情報を収集する方法についても、TRと関連づけて指導する。

地域や大学との連携

病院・福祉施設・こども園・市役所などの地域の施設を活用する。

卒業生・保護者を含めた地域の人材も活用する。

落合・久世を中心とした真庭市という地域だけでなく、津山市・新見市といった近隣の地域にも目を向けて広く地域との連携を求めてゆく。

小・中学校や他の高等学校との連携

平常の取組については適宜HP上のブログを通じて各方面に発信していく。

年度末に学習活動の集大成の場として、成果発表会を行い、近隣小・中学校や他の高等学校の教職員を招待し、活動内容について知らせる。また、地域の方々(卒業生の就職先企業など)を招待し、活動内容について知らせる。[1学年・2学年]

令和5年度 総合的な探究の時間(落合校地) 全体計画

岡山県立真庭高等学校(落合校地)

<p>生徒の実態</p> <p>純朴で素直な生徒が多い。学習面に苦手意識を持つ生徒が多いが、授業態度は総じて真面目であり、部活動や清掃などの諸活動に誠実に取り組むことができる。近年、県北中山間地域の急激な少子化により志願者が減少している。入学してくる生徒の進路希望も多様化している。</p>	<p>学校における教育目標</p> <p>(1) 知識や技術を確実に身に付け、思考力、判断力、表現力等を養い、主体的に課題を解決する資質能力を持った人間を育成する。</p> <p>(2) 生涯にわたって自ら進んで学び、絶え間なく変化する社会に対応できる人間を育成する。</p> <p>(3) 社会規範を尊重し、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付け、心身ともに健康でたくましい人間を育成する。</p> <p>(4) 郷土の伝統や文化、産業に学び、広く社会の発展に貢献できる人間を育成する。</p>	<p>保護者の願い</p> <p>(普通科)進学・就職と多様な進路実現に向けて、生徒一人ひとりを支援して欲しい。(食農生産科)(経営ビジネス科)地域を支える人材として育てて欲しい。(看護科)一人前の看護師になれるようしっかりサポートして欲しい。社会人になるための基礎力を養成して欲しい。挨拶・服装・言葉遣い・時間を守ることなど、生徒の品位を向上させて欲しい。</p>
<p>地域・社会の実態</p> <p>真庭市は、少子高齢化という問題を抱える一方で、国内外でバイオマススタウンとしての先進的な取組が目立っており、「地域エネルギー100% 2030“SDGs”未来都市真庭の実現～永続的に発展する農山村のモデルを目指して(私がわたしらしく生きるまち)～」をタイトルとして、SDGs未来都市選定都市29の1つに選ばれている。学校近隣に垂水向津矢住民会メンバーで構成される「まにわ・しめ山プロジェクト」がある。</p>	<p>学校において定める目標</p> <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p> <p>(4) 1年生では、ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ。【探究のプロセス】①課題設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現の理解。2年生では、自分で課題を設定し、調べることができるようになる。【探究のプロセス】①課題設定、②情報収集、③整理・分析、④まとめ・表現の習得。3年生では、進路実現・卒業後の生活のために学ぶ。【探究のプロセス】と「思考のスキル」の習得。</p>	<p>地域の願い</p> <p>進学実績を上げて欲しい。地域で活躍する人材を養成して欲しい。優秀な看護師を養成して欲しい。</p> <p>地域外へ進学しても、最終的には地元で働く人材を育成して欲しい。</p> <p>地域に根ざした学校であって欲しい。</p>
<p>学校の実態</p> <p>Think Globally, Act Locally -地球的な視野で考え、地域で行動する-を本校のミッションに掲げ、高い志を持ち、広く郷土の自然や伝統・文化・産業に学び、学力を高め、探究・体験的な学習を通して、創造力にあふれ、たくましく豊かな人間性や社会性を育て、地域や社会の発展に貢献できる実践力を身に付けた若者を育成している。</p>	<p>教職員の願い</p> <p>確かな学力を獲得させ、進路希望を実現させたい。自己指導能力を育成したい。持続可能な地域社会をつくるユネスコスクールとしてのグローバルな人材を育成したい。安全で安心な学習環境を整備したい。</p>	

学校において定める内容

名称「真庭トライ&レポート(略称:TR)」 トライ:実体験を重視する、レポート:必ず発表に結びつける(成果発表会・まとめ冊子・外部コンテストやイベントへの参加)

<p>目標を実現するにふさわしい探究課題</p> <p>学校探究テーマ:SDGs。地域の課題に対して、五感を通じた体験活動を積み重ねることによって、改善策・解決策について考える。体験活動においては、質と量の向上を心がける。(体験の量を増やして質の向上を図る)</p> <p>1学年:課題別グループ探究活動 学校周辺の地域の課題について考える。</p> <p>2学年前期:修学旅行を利用した職場体験学習 2学年後期:課題別グループ探究活動 真庭市全体の地域の課題について考える。</p> <p>3学年:進路別課題探究活動 進路希望に応じて、地域(学校周辺・真庭市・岡山県・日本・アジアなど)の課題について考える。</p>	<p>探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力</p>			
<p>論理的思考力</p> <p>インプット(聞く・読む)時・アウトプット(話す・書く)時に、シンキングツールを積極的に活用できる。</p> <p>聞いたり読んだりしたこと、を、分かりやすくまとめて、論理的に伝えることができる。</p>	<p>協働性</p> <p>みんなで協力できる。</p> <p>各自の強みを生かして分担できる。</p> <p>集団で意見を出し合える。</p>	<p>ねばり強さ</p> <p>〈失敗=×〉ではないことを理解する。(失敗から学び、改善策を考えて次につなげる)</p> <p>試行錯誤を前向きに繰り返す、PDCAサイクルをまわすことができる。</p> <p>積極的に疑問を持ち、体験を通して疑問を解決できる。(『?』→『体験』→『!』)</p>	<p>地域参画力</p> <p>(=地域貢献力)</p> <p>地域課題解決の担い手として、地域と積極的につながることができる。</p> <p>地域に関心を持つ。</p> <p>地域の課題を知る。</p> <p>地域の人と協働する。</p>	

<p>学習活動</p> <p>週1時間(全学年…火曜日5限)</p> <p>1学年: ものごとを調べ、まとめる方法を学習する。</p> <p>2学年: 自ら課題を設定し、調べ、まとめ、発表する方法を学習する。</p> <p>3学年: 自らの進路実現に向けて、具体的に必要内容を学習する。</p>	<p>指導方法</p> <p>HR担任の枠を越え、各学年団全教員で指導にあたる。</p> <p>少人数グループを編成し、各担当教員の指導のもと、学習に取り組む。</p> <p>外部講師招聘や企業訪問など、校外へ積極的に赴く体験的な学習場面を設けるように配慮する。</p>	<p>指導体制</p> <p>TR推進リーダー、TR推進チーム、TR総務からなる実施組織を中心に指導体制を構築する。</p> <p>TRカリマネ委員会で全体計画・年間指導計画を作成する。</p> <p>全体計画に基づき、各学年団で具体的な学習活動計画を作成し、実施する。</p> <p>共有サーバーを利用し、ワークシートなど各学年間・過年度の資料を有効活用する。</p>	<p>学習の評価</p> <p>TR・カリマネ委員会で評価規準を作成する。</p> <p>学習の過程での取組や、完成したレポート・プレゼンテーションなどから総合的に評価する。</p> <p>生徒一人ひとりの個人内で、能力や態度に伸びが見られたかどうかを中心に評価する。</p> <p>評価規準をもとに、観点別に評価を行う。</p>
--	--	--	--

<p>各教科等との関連</p> <p>シンキングツールを活用して、論理的思考力を育成する。各教科指導において、表現活動(スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッションなど)を積極的に取り入れ、TRと関連づけて指導する。</p> <p>コンピュータや本・新聞・テレビなどを通して情報を収集する方法だけでなく、五感を通してアンケートやインタビューなど直接情報を収集する方法についても、TRと関連づけて指導する。</p>	<p>地域や大学との連携</p> <p>病院・福祉施設・こども園・市役所などの地域の施設を活用する。</p> <p>卒業生・保護者を含めた地域の人材も活用する。</p> <p>落合・久世を中心とした真庭市という地域だけでなく、津山市・新見市といった近隣の地域にも目を向けて広く地域との連携を求めてゆく。</p>	<p>小・中学校や他の高等学校との連携</p> <p>平素の取組については適宜HP上のブログを通じて各方面に発信していく。</p> <p>年度末に学習活動の集大成の場として、成果発表会を行い、近隣小・中学校や他の高等学校の教職員を招待し、活動内容について知らせる。また、地域の方々(卒業生の就職先企業など)を招待し、活動内容について知らせる。[1学年・2学年]</p>
---	--	---

学年	時期	柱 つけたい力 探究活動 7つのプロセス	五感を通じた実体験を！ (体験の質・量の向上) ※以下はABC3段階評価で『A』◎の姿を表します。			地域参画力 ・地域の人・機関とつながる ・地域に貢献する
			論理的思考力	協働性	ねばり強さ	
1年時	4月～5月 6月～12月 1月～3月	<p>①HOW TO LEARN</p> <p>ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ (課題別グループ学習)</p> <p>※担当教員主導・グループ単位</p>	★シンキングツールの活用 ・インプット【聞く・読む】 ・アウトプット【話す・書く・行動する】	★グループが「チーム」になるために ・グループで1つのことに取り組む ・グループで複数のことに役割分担をする	★PDCAサイクル Plan計画 Do実行 Check評価 Act改善 ★OODAループ Observeみる Orientわかる Decideきめ Act行う Lookしよめ見直す ★「失敗コース」ではない！ →成功へのステップ！	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用する考えを持つことができる。 ・地域の課題に対して知ろうとする。
			・インプット(講義・講演会・資料集め・情報収集)の場面で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用しようとする。	・グループ内で自分の意見を発言できる。 ・グループ内で他者の意見を尊重できる。	・失敗を恐れず、積極的に行動(体験活動)することができる。 ・失敗を前向きに捉え、次につなげることができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・インプット(資料集め・情報収集)の場面で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用しようとする。(グループワーク)の場面で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用しようとする。	・グループ内で自分や他者の考えをまとめて行動(体験活動)に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・アウトプット【話す・書く(発表・PPT作成・まとめ冊子)】の場面で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で役割分担を意識して発表準備に取り組むことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
2年時	4月～5月 6月～12月 1月～3月	<p>②WHAT TO LEARN</p> <p>グループで課題を設定し、調べる (課題別グループ学習)</p> <p>※生徒主体・グループ単位</p>	・インプット【聞く・読む】の場面で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で自分の意見を積極的に発言できる。 ・グループ内で他者の意見を積極的に尊重できる。	・失敗を恐れず、積極的に行動(体験活動)することができる。 ・失敗を前向きに捉え、次につなげることができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・インプット(資料集め・情報収集)の場面で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動(体験活動)に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・アウトプット【話す・書く(発表・PPT作成・まとめ冊子)】の場面で、シンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に役割分担を意識して発表準備に取り組むことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
			・インプット(資料集め・情報収集)の場面で、ワークシートにしたがってシンキングツールを活用できる。	・グループ内で積極的に自分や他者の考えをまとめて行動(体験活動)に移すことができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・地域の課題解決に向けて考えを提案できる。
3年時	4月～5月 6月～12月	<p>③HOW TO LIVE</p> <p>個々の進路整理・卒業後のために学ぶ (進路別課題学習)</p> <p>※進路実現に直結・個人単位</p>	・インプット【聞く・読む】の場面で、自ら考えてシンキングツールを活用できる。	・自分の進路に関わる他者他機関との、臨時的な探究活動計画を立てることができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・自分の進路に関わる他者の進路解決に向けて具体的な考えを提案できる。
			・インプット(資料集め・情報収集)の場面で、自ら考えてシンキングツールを活用できる。	・自分の進路に関わる他者他機関との、臨時的な探究活動計画を立てることができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・自分の進路に関わる他者の進路解決に向けて具体的な考えを提案できる。
			・アウトプット【話す・書く(発表・PPT作成・まとめ冊子)】の場面で、自ら考えてシンキングツールを活用できる。	・自分の進路に関わる他者他機関との、臨時的な探究活動計画を立てることができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・自分の進路に関わる他者の進路解決に向けて具体的な考えを提案できる。
			・インプット(資料集め・情報収集)の場面で、自ら考えてシンキングツールを活用できる。	・自分の進路に関わる他者他機関との、臨時的な探究活動計画を立てることができる。	・活動に対する思い入れ・情熱をもつことができる。 ・ゴールの見通しを持って取り組むことができる。 ・活動の社会的意義を理解することができる。	・周囲のサポート(友人・家族・先生・地域住民など)を活用できる。 ・自分の進路に関わる他者の進路解決に向けて具体的な考えを提案できる。



岡山県立真庭高等学校

総合的な探究の時間

■2019年5月～真庭SDGsパートナー ⇒ Think Globally, Act Locally

真庭トライ&リポート (TR)

H22、H23 岡山県学方向上プロジェクト「高等学校教科指導パワーアップ事業」研究指定
H24、H25 教育課程研究指定校事業「思考力・判断力・表現力」
R3～R5 次世代地域産業人材育成刷新事業
マイスター・ハイスクール指定校

トライ：五感を通しての実体験重視

リポート：必ず発表に結びつける姿勢（まとめ冊子・発表会・外部コンテストなど）



五感を通じた実体験

3年生：HOW TO LIVE

進路実現・卒業後の生活のために学ぶ

※進路実現に直結・個人

2年生：WHAT TO LEARN

自分で課題を設定し、調べる

※生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN

ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ

※担当教員主導・グループ単位

1年生 食農生産科・経営ビジネス科・看護科 木曜5限

2年生 普通科・看護科 木曜5限

3年生 普通科 月曜6限

質・量の向上

TRを通して身につけさせたい4つの力

論理的思考力

ねばりの強さ

協働性

地域参画力

シンキングツール活用 (OUTPUT書く話す行動する ⇒ INPUT聞く読む)

【失敗＝×じゃない！】 ⇒ 失敗体験 (試行錯誤) からの気づき

【集団がチームになるまで】 ⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで役割分担

【＝地域貢献力】 ⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域の人との協働

令和4年度 真庭トライ&レポート (TR) 成果発表会

令和 5年 2月 4日 (土)
岡山県立真庭高等学校落合校地

【受付】 9:00～ 9:30

- 1 日程説明 (中山) <応接室> 9:30～ 9:35
講師案内 (事務室) 資料配付・日程説明 (中山)
1・2年生共通: 課題別グループ探究活動・学校全体テーマ「SDGs」
教室等へ移動
(住野先生-校長→1-1へ、酒井先生-副校長先生→1-2へ、斉藤先生-教頭先生→1-3へ)

- 2 1年生発表会 <教室棟1～3階> 9:45～10:35

~~~~~ 落合総合センターへ移動 (講師送迎-中山) ~~~~~
  
- 3 2年生発表会 <落合総合センター> 11:05～12:25
  
- 4 指導・講評 <落合総合センター> 12:25～12:40  
  
~~~~~ 学校へ移動 ~~~~~

- 5 アンケート forms 入力・担任講評 <各HR> 13:30～14:00

- 6 研究協議会 <会議室> 司会進行 (教頭) 14:10～15:30
(1) 開会挨拶 (校長)
(2) 発表 (中山) 新学科1年生TRと令和5年度TRについて
(3) 指導・助言 中国学園大学 副学長 住野 好久 氏
武庫川女子大学 教授 酒井 達哉 氏
高知大学 准教授 斉藤 雅洋 氏
(4) その他
(5) 閉会挨拶 (副校長)

- 7 閉会挨拶 (教頭) 15:30～

※令和5年度TR成果発表会は令和5年2月3日(土)の予定です。

令和4年度 真庭トライ&レポート 成果発表会 プログラム

R05.02.04

■ 1年生発表会 【50分】 (9:45-10:35) 課題別グループ探究活動 学年テーマ『SDGs』
 【MANIWA:01-15班】 【こち防:16-18班】 【聞き書き:19,20班】 3チャンネルの番組をそれぞれお楽しみください。

【11分(発表8分+質疑応答3分)】 → 【教室内待機2分】 → 【11分(発表8分+質疑応答3分)】
 ----- 次の会場に移動してください。(生徒が案内) 【移動2分】 -----
 【11分(発表8分+質疑応答3分)】 → 【教室内待機2分】 → 【11分(発表8分+質疑応答3分)】

※会場間の移動については、生徒がご案内いたします。(タイムキーパー:本郷・杉)

| 会場【会場担当教員】 | テーマ | 生徒(司会進行・教室移動ご案内も) |
|-------------|---|---------------------------|
| ①1年1組HR【中山】 | 04班: Sすぐできる Dだれでもできる Gがんばれば sっす | 武田雄大・野島聡太・福山大翔・森脇悠斗 |
| | 11班: 真庭イベント! ~元気フェスタをとおして~ | 澤本拓海・前田波音・有馬莉羅・二若智帆 |
| ②1年2組HR【谷口】 | 08班: 真庭の自然を生かした農業開発 | 小林日菜姫・檜本温陽・牧朋美 |
| | 19班: 地域医療と介護 | 奥田莉那・佐田愛香・岡本亜美・横川乃歩 |
| ③1年3組HR【常本】 | 03班: 真庭の自然を体験して | 中元亜祇・中山大夢・村上廊磨・山口丈 |
| | 16班: 我が家の備えが地域の備え | 小柳翔夢・片山莉音・藤井祐也・藤本煌生・石井海希 |
| ④3年講義室【石井】 | 05班: S自然の世界へ D出かけて G学習している s生徒たち | 山口湮駆・稲田涼佑・山口愛乃・山根椋菜・吉田百合香 |
| | 15班: 高齢者と高校生Win-Winで! ~真庭の高齢者の思い~ | 池田莉子・井上舞・河本桜香・酒井結愛 |
| ⑤3年1組HR【松本】 | 09班: 竹の花壇作り | 岩浅春花・黒瀬叶美・難波勇次 |
| | 18班: 消防士の仕事 | 前田祥起・前本裕月・磯田悠貴・森岡志琉 |
| ⑥3年2組HR【杉】 | 13班: それ! 捨てるのもつたいない! ~減らそう野菜のフードロス~ | 小松奈々美・平尾來未・金田暉弘・小林駿斗 |
| | 17班: 災害時の備え | 須々木陸斗・酒井陽菜・福井太河・市愛望 |
| ⑦3年3HR【永田】 | 01班: 食べものから食べられるものを通して | 岡本航・先原紫悠・柴山智暉・中山大暉 |
| | 07班: 竹林を整備して利用しよう! | 金崎心哉・河島遥輝・森数要也・柳田智行 |
| ⑧2年1組HR【清本】 | 02班: キャンプに行って気付いたこと | 田口風我・東院河成・難波李企・松岡悠太 |
| | 20班: 地域農業とこれからの農業 | 布野未彩・福島悠斗・福本和也・屋敷太陽 |
| ⑨2年2組HR【杉本】 | 06班: S消化って Dどういうことか G学校で学んだことを sすみそ工場見学で理解を深める! | 竹下美羽・藤村百花・柳本蒼妃・山本菜穂 |
| | 14班: 観光地湯原の「住み続けられる街づくり」 | 金丸楓果・福島春美・岡山楓真・中村玲士 |
| ⑩2年3組HR【宮本】 | 10班: 真庭について知り、もっと有名に! ~インまにコラボ~ | 小原凜太郎・兵江芳太・入澤楓・西原千乃 |
| | 12班: インスタを使って町おこし~真庭の魅力を全国へ~ | 建城佑実・成田理穂・岩本涼翔・河本賢知 |

□落合総合センターへ移動 【30分】 (10:35-11:05) 徒歩で西門から・会場座席誘導着席指示(森腰・中山)

講師の先生方(中山送迎)、生徒は10:45生徒昇降口集合→まとまって移動(1年担任は生徒と同行、2年団②高橋・高田サンブラ交差点)

■ 2年生発表会 【80分】 (11:05-12:25) 課題別グループ探究活動 学年テーマ『SDGs』

1. 校長挨拶(5分) 2. 発表(8分×8組=64分) 司会: 藤井 智己・沼 桃香

| 順 | テーマ | 代表生徒 |
|---|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | LGBTQの人が生活しやすい社会の実現に向けて | 鈴木 奈々子、宮内 鈴奈、矢田部 心鈴、後河 彩染、大家 沙織 |
| 2 | 障害のある人に対する偏見をなくすために~今の私たちにできること~ | 秋田 美有、岩本 瑞稀、馬坂 歩来和、春木 葵、平尾 彩乃、船木 愛結花 |
| 3 | 真庭市の高齢者と長生きについて | 池田 啓人、藤久 愛、香川 朔太郎、東谷 結美佳 |
| 4 | 運動をして健康になる | 宮本 千愛、小林 春翔、盛永 啓太、新田 陽菜、三澤 禪乃 |
| 5 | 郷土料理について | 近藤 直哉、福嶋 太一、中西 美咲 |
| 6 | 真庭市の魅力紹介 | 中村 綾那、松永 知子、山中 愛望、平井 歩未 |
| 7 | 災害時に活用できる防災ノート | 竹原 諒、草地 志帆、池本 優生、宮島 世莉羽 |
| 8 | 農業と私たち(鳥取中央育英高校) | 多月 萌々菜、中原 しおり、衣笠 美夢 |

■ 指導講評 【15分】 (12:25-12:40)

中国学園大学副学長 住野好久先生 / 武庫川女子大学文学部教育学科 酒井達哉先生 / 高知大学地域協働学部 斉藤雅洋先生

□学校へ移動(1年生は教室棟片付け)・昼食(各HRにて)・休憩 【50分】 (12:40-13:30)

■ TRアンケートforms入力+担任講評【30分】 (13:30-14:00) @各HR

□SHR【10分】 (14:00-14:10) @各HR

■ 研究協議 【80分】 (14:10-15:30) @会議室

①校長挨拶(5分)→②TR研究成果発表(中山15分)→③指導・助言(住野先生・酒井先生・斉藤先生)→④副校長挨拶(5分)

令和4年度真庭トライ&レポート成果発表会 講師の先生からのおことば

■高知大学地域協働学部 斉藤雅洋先生より(平成27年度から5回目)

4年ぶりに見て、変わらない真庭高校の探究活動のすごさ・活気を感した。真庭高校の取組は「ザ・探究」で、学校での調べ学習にとどまらず、地域に出て行って調査・交流を行い、自分たちにできることを考えて実践している。学習から行動につなげていて、レベルの高い探究活動を展開している。鳥取中央育英高校の取組は、高校生アルバイトのマッチングアプリ開発・政策提携までして真庭高校を超える探究活動であったと言える。講評として2つのキーワード「変革」と「斬新さ」：①変革：探究活動を通して自分自身の変革を感じるか。さらに、地域社会の変革につなげていけるか。SDGsの国連文書でも「我々の世界を変革する」とある。2年生のLGBTQや障害の発表を例に挙げると、そこに対する偏見に気づき、その偏見をなくしていくことで、一人一人が変わり地域が変わり日本が変わり世界が変わるとい根本的な「変革」につながる内容だった。②斬新さ(新しさ)：キャラクターデザインによる真庭市PRや防災ノートの発表のように、新しいものを作っている。いきなり新しいものが生まれているのではなく、地道な調べ学習を積み重ねたその先に新しいものを生み出していた。地道なコツコツと学習を積み重ねることが実は近道だと分かったのではないか。



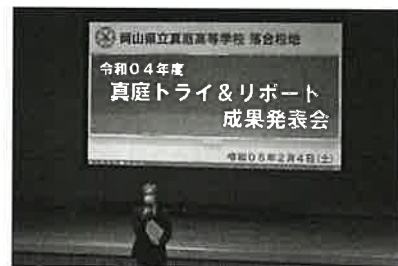
■武庫川女子大学文学部教育学科 酒井達哉先生より(平成26年度から7回目)



1年生の発表：ギガスクール構想において、すべてのことがネット上で解決するという誤りに至ることなく、体験を重視している点に感銘を受けた。課題意識を高めるためには、まず皆さん自身が体験をすることが大切だ。2年生の発表：これまで「もうちょっと、ここまで!」という残念に思っていた最後のトライの部分が進んでいた。①LGBTQ：アンケートで課題を把握して提案していた。②障害：アンケートからマイナスのイメージの部分をフォーカスして、その解決に向けて地域団体と交流していた。③高齢者：現状を聞き、具体的なデータから課題を明確にして自分たちと関係のある人と交流した。④運動健康：実際に自分たちで体操をして地域の人と一緒にやっていた。⑤郷土料理：観光の視点からという予想をいい意味で裏切り、まず自分たちという視点で動画にまとめていた。⑥真庭市の魅力：これも予想を裏切るキャラデザインという視点からの魅力発信でよかった。⑦防災ノート：これまで提案で終わっていたような活動だが、今回は地域でも今日の参加者にも配布されてトライの部分が進んでいた。⑧鳥取中央育英高校：他者他校と交流することで自分たちと共通する部分・異なる部分がはっきりと分かる。高校生アルバイト・アプリで地域農業を盛り上げるというのはこれまでの真庭高校にはない新しい発想だったはずだ。

■中国学園大学副学長 住野好久先生より(2010-H22年度から13年連続)

長年にわたってTR成果発表会に参加しているが、毎回新しい気づき・学びを与えてもらっていて、今日は、長生きしたい理由の男女の違いにとっても刺激を受けた。みなさんの発表については、これまで二人の先生が話されてきたので、私からはTRの学びの意義2点についてお話しする。①高等学校での学び：基礎的な教養を身に付けるという小中の義務教育での学びとは違い、自分の進路をふまえて、社会に役立つために必要な力を獲得していくのが高校での学びであり、机についてノートを写しているだけの学びでは足りない。社会のことを知らなければならない、社会に出ていかなければならない、社会とつながることで自分に足りていない必要な力を自覚しながら学んでいくのが高校での学びである。そう考えると、真庭高校のTRというのは、高校での学びのあり方・必要な部分を担っていると思う。みなさんは本校のTRを通して、高校生としての学びというのを実現できているのだと胸を張って自信を持って学び続けてもらいたい。②真庭という地域の現状や抱えている課題について新しい知識を得るだけにとどまらず、この真庭をより住みやすい地域にしていくために自分たちにできることを考えて探究している。【このTRの学びを通してみなさんが得たであろう2つの気づき】(1) 当時者性：自分たち高校生でも地域を変えることができるんだという気づき。(2) 人の役に立つ楽しさ。自分のために学ぶのではなく、人のために生きる、社会の役に立つために学ぶという大切さに気づいたのではないか。





■高知大学地域協働学部 齊藤雅洋先生より

【グループ活動の意義】クラスによってなのか班編制によってなのか、自分の意見が言える班とそうでない班との差が以前よりも大きくなっていった。かなりの量の情報を吸収し、自分たちの中で咀嚼して、自分やチームで編集しながら、自分たちの考えをまとめるというのは、そもそも高度なことで簡単ではない。しかし、探究活動の中で意見をまとめるというのはとても重要なワークである。自分の意見を持つための突破口の一つとして、グループで活動していることの意義を考えることだ。探究活動は極論一人でできるし、一人の方がいい場合もある。それをあえてグループにしているという意味を考えるとよい。グループ活動のメリットを考えてみると、意見をまとめる際に独りよがりにならずいろいろな角度から考えることができる、一人の意見をみんなの意見にしていこうという、生徒一人の声がどんどん大きくなっていくグループのパワーというのもグループであることの醍醐味である。

■武庫川女子大学文学部教育学科 酒井達哉先生より

【探究のプロセス】探究的な学びは全国的に注目されているが、真庭高校TRでは、探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）の中で、特に（課題の設定）において、まず体験を通して課題意識を持たせて、そこからアンケートをとったり地域の方と交流したりしてデータを得るという丁寧なステップを踏んでいる。ギガスクール構想の時代に、多くの高校ではこの「体験」を避ける傾向が見受けられるが、真庭高校では体験を重視している。次に、これまで時間が足りていない印象だった最後の部分について、防災ノートを配布するという例のように、（まとめ・表現）の部分が進んでいた。提案して終わりではなく、もう一步踏み込んで、社会に働きかける・参画するところまでできていた。【今後の課題3点】①ねばり強さについて、一年生ではほとんど教員が関わるが、二年生では教員がくさび（教師の指導）を打つタイミングを大切にしたい。教師の適切適宜な指導によって、生徒はさらに高い意欲を持って主体的に探究活動に取り組み、学習調整力を伸ばしていくことになる。②教員の負担減の視点から、専門家の方々の協力・指導を仰ぐ。③1年生ではもう少し絞って狙いをはっきりさせた上で体験させてみる。体験の部分のスリムにすることで残りの活動時間を生み出すことができる。④令和の新しい学校教育で求められている「個別最適化な学び」についてTRに置き換えてみる。郷土料理の発表でプレゼンで輝く生徒がいた。あのように、集団としてのテーマの追求の中に、個が活躍できる・個が没頭できる場を与えていって、集団としても個としても探究をどんどん深めていける・力をどんどん伸ばしていけるように、協働的な学びと個の学びとの案配を大切にしてほしい。将来的には一人一人が個の追求の時間が一部あるというのもよいかもかもしれない。

■中国学園大学副学長 住野好久先生より

【リサーチクエスト】郷土料理の班だけが「仮説」ということばを使っていた。それは仮説ではなく、「リサーチクエスト」ではないかと思った。探究において、何を明らかにしたいのかというリサーチクエストがあり、そのために仮説を立てて検証していく。このリサーチクエストと仮説によって、やみくもに試行錯誤を繰り返すこともなく、効率的に探究活動が行われる。1・2年生の発表において、このリサーチクエストの部分で自覚が十分ではなかった。TRでは試行錯誤を繰り返させることを大切にしているがゆえに、このリサーチクエストの部分も弱いとも言える。試行錯誤を繰り返していけば、その都度、新たな問いが生まれていくはずだが、問いを見つけようとせず、答えを見つけようとすぎている。新たな疑問に目を向けず、みんなが納得しそうな答えを見つけてそれで探究したことにしてしようとしているのかもしれない。特に1年生では、やってみてもっと知りたくなったことを調べる活動や問いを立てることに時間を多く割くとよい。【仮説】仮説を立てさせると、論理的思考力の育成につながるのでもっと仮説を重視してもよい。その際に、各教科で学んだこととの結びつきを担当者がアドバイスしてやると、各教科で育成された論理的思考力がTRという場で発揮されることになっていく。【ねばり強さを育むための仕掛け】1年生の発表で失敗したことや困ったことを述べていた。失敗したことを自覚化し、それを乗り越えてきたと表現することで、自信がつきねばり強さがつく。その自覚のためにも、自分の学びを振り返るリフレクションの機会が重要である。友人に声をかけられてがんばれたというのもあるので、人間関係作りも大切だ。【ループリックの必要性】ここ数年ずっとこの場で言っている。【新しいTRのあり方】新教育課程で、各専門学科の探究科目との横断的なものとしてTRも改革が必要かも知れない。「こんな楽しい学びがいっぱいできるぜ！」というのが真庭高校のPRにもなる。これまで積み上げてきたTRに固執する必要はない。

※『学習調整力（自己調整力）』 主体的に学習に取り組む態度＝（1）ねばり強さ（2）自己調整力

①動機付け・②学習方略・③メタ認知

という3つの要素をとおして自らの学習に能動的に関わっていくことで、主体的な学びを実現する。

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

総合的な探究の時間
真庭トライ&リポート (TR)

R04新学科1年生の取組と
R05R06展望

— 真庭高校 — (R05.02.04土)

岡山県立真庭高等学校落合校地
中山 順 充 1

岡山県立真庭高等学校 総合的な探究の時間
R04真庭トライ&リポート (TR)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

2019年5月〜真庭SDGs1-11へ → Think Globally, Act Locally

トライ：五感を通して学びを体験
リポート：探究発表(成果)のまとめと振り返り(感想、気づき、学びなど)

五感を通しての実体験

3年生：HOW TO LIVE
進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
※進路実現に個人

2年生：WHAT TO LEARN
自分で課題を設定し、調べる
※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN
ものごとを調べる、まとめる方法を学ぶ
※3学科ミックス・担当教員主導・グループ単位

1年生 食糧生産・経営ビジネス・看護 木曜6限
2年生 普通・看護 木曜6限
3年生 普通 月曜6限

TRを通して身につけさせたい4つの力

論理的思考力
ねばり強さ
協働性
地域参画力

シンキングツール活用 (OUTPUTを思考に促す) → 思考力(書く力)

【失敗=×じゃない!】 → 失敗体験 (執行困難) からの気づき

【異団がチームになるまで】 → みんなで一つのこと・各自の強みで役割分担

【=地域参画力】 → 地域に関心、地域課題の理解、地域の人との協働

1年生80名 (食糧生産科37名、経営ビジネス科31名、看護科12名)

テーマSDGs 導入部分4時間録画→定例化

4/28TRって何? 5/12探究って何? 5/26エモ-1グランプリ説明

6/2エモ-1グランプリ (地域散策・写真撮影・なぜこの写真なのかを言語化)

⇒ 6/9班編成 ①MANIWAch ②こち防ch ③聞き書きch

1年TR ①MANIWAチャンネル 59人 (4人×15班)

■ 1人の教員 - 3つの班 3班まとめて体験活動 → 各班探究活動

◎ しめ山プロジェクト 竹ゲット

竹ぼうき → 落合小学校へ 竹パウダー

流しそうめん

竹の灰 → 焼き芋

岡山県探究フォーラムへ

1年TR ①MANIWAチャンネル 59人(4人×15班)

■1人の教員・3つの班
アウトドア活動

3班まとめて体験活動 → 各班探究活動

キャンプ場経営

姫新線線路危機 → 追分駅周辺活性化

看護の学び → 地域で深める

1年TR ②こち防チャンネル 13人(4人×3班)

■これまでの活動とのつながり (お見米プロジェクト、旧職員)

地域協働活動コーディネーター
常本先生は元真庭高校校長

元真庭高校教員 → OB池本さん地域防災活動

1年TR ③聞き書きチャンネル 8人(4人×2班)

■真庭市郷育魅力化コーディネーター吉野さんによる聞き書き

聞き書きのハウツーだけでなく
地域の人のつながりも

■成果

- ①専門3学科が一緒に取り組む活動
- ②広報としてのTR (YouTube)

■課題 (共通理解の深み)

- ①Try (まず『やってみよう!』『体験』)
- ②Report (話す・書くの「アウトプット」)
- ③身につけさせたい4つの力
- ④各学年と3年間の見通し(代替?)

新学科1年生の取組とR0506展望 岡山県立真庭高等学校 令和5年2月4日(土)

岡山県立真庭高等学校 創名的な探究の時間
 ■2019年5月→真庭SDGsm「付」 → Think Globally Act Locally
R05 真庭トライ&リポート (TR)
 トライ：五感を通じた実体験を題材
 リポート：実体験に基づいた学び・考察・発見(探究)のまとめ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

TRを通して身につけさせたい4つの力

五感を通じた実体験

3年生：HOW TO LIVE
 進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
 ※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位

2年生：WHAT TO LEARN
 自分で課題を設定し、調べる
 ※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN
 ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ
 ※3学科ミックス・担当教員主導・グループ単位

1年生 食糧生産・経営ビジネス・看護 火曜5限
 2年生 食糧生産・経営ビジネス 火曜5限
 3年生 書道 火曜5限

【集団がチームになるまで】 ⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで課題を担

【一地域貢献力】 ⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域のひととの協働

■R05 - 2年生TR(食糧生産科37・経営ビジネス31)

■2学科ミックスで4人1班をベースに構成。
 看護科担任以外の学年団教員全員で担当する。
 生徒68名→4人1班構成で全16班。教員8名×2班。(15,16班は6名ずつ?)

■探究テーマ(例) CLTベンチ作成、CLT建材銘建工業・大越先生)
 竹チップ、竹パウダー、姫新線を救え追分駅周辺活性化、聞き書き

★マイスターHSでR05取り組みたい内容について食農・経ビから具体的テーマと協働先を出してもらい、上記テーマに加える。【農業系・商業系・聞き書き・フリー】

★2年では探究テーマを設定させていたが、テーマは与えられることになる。担当教員はやるべきことが具体的にわかりやすくなるので伴走しやすくなる。

11

■R05 - 1年生TR(食糧生産科・経営ビジネス科・看護科)

■令和4年度1年生TRを参考に計画する。

動画もあります。

■3学科ミックスで4人1班をベースに構成。
 学年団教員全員で担当する。

□1 教員3班担当は大変→6人で1班構成で1 教員2班担当

□必要に応じて教頭副校長にもサポートしてもらおう。

10

岡山県立真庭高等学校 創名的な探究の時間
 ■2019年5月→真庭SDGsm「付」 → Think Globally Act Locally
R06 真庭トライ&リポート (TR)
 トライ：五感を通じた実体験を題材
 リポート：実体験に基づいた学び・考察・発見(探究)のまとめ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

TRを通して身につけさせたい4つの力

五感を通じた実体験

3年生：HOW TO LIVE
 進路実現・卒業後の生活のために学ぶ
 ※2学科ミックス?・進路実現に直結・個人

2年生：WHAT TO LEARN
 自分で課題を設定し、調べる
 ※2学科ミックス・生徒主体・グループ単位

1年生：HOW TO LEARN
 ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ
 ※3学科ミックス・担当教員主導・グループ単位

1年生 食糧生産・経営ビジネス・看護 火曜5限
 2年生 食糧生産・経営ビジネス 火曜5限
 3年生 食糧生産・経営ビジネス 火曜5限

【集団がチームになるまで】 ⇒ みんなで一つのこと・各自の強みで課題を担

【一地域貢献力】 ⇒ 地域に関心、地域課題の理解、地域のひととの協働

| 岡山県立真庭高等学校(落合校地) 総合的な探究の時間 アンケート集計 | | | 肯定的回答 | | | | 肯定的回答 | | | | 肯定的回答 | | | | | |
|------------------------------------|------|--|--|---------|---------|-----------|-------------------------|---------|---------|---------|-------------------------|---------|---------|---------|-------|--|
| 視点 | 観点 | NO. | R04 | | | | R03 | | | | R02 | | | | | |
| | | | 全生徒
1ACN
2FN
3F | 3年
普 | 2年
普 | 1年
食経普 | 全生徒
1FN
2FN
3F | 3年
普 | 2年
普 | 1年
普 | 全生徒
1FN
2FN
3F | 3年
普 | 2年
普 | 1年
普 | | |
| 令和4年度全体集計 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学習意欲に関すること | 課題設定 | 1 | 日常生活の中で「知りたいな」と思うことや「不思議だな、なぜだろう」と思うことがある。 | 86.0 | 85.7 | 94.0 | 78.4 | 88.8 | 97.2 | 83.0 | 88.9 | 89.4 | 97.4 | 92.6 | 80.0 | |
| | 課題設定 | 2 | 何か分からないことや困ったことがあった時に、どこに問題があるかを考えることができる。 | 86.3 | 92.5 | 88.0 | 78.4 | 88.1 | 91.7 | 86.8 | 87.0 | 88.2 | 94.7 | 88.2 | 83.6 | |
| | 課題設定 | 3 | 課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる。 | 80.4 | 82.9 | 84.0 | 74.3 | 83.2 | 83.3 | 86.8 | 79.6 | 81.9 | 92.1 | 82.1 | 74.5 | |
| | 収集分析 | 4 | 解決したいことを、書籍やインターネット等を使って調べることができる。 | 95.3 | 100.0 | 98.0 | 87.9 | 99.3 | 100.0 | 98.1 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | |
| | 収集分析 | 5 | 解決したいことを、電話やメール、インタビューでたずねることができる。 | 65.2 | 60.0 | 76.0 | 59.5 | 72.0 | 77.8 | 73.6 | 66.7 | 67.7 | 71.1 | 72.1 | 60.0 | |
| | 収集分析 | 6 | 収集した情報が正しいかどうかについて考えることができる。 | 87.8 | 94.3 | 88.0 | 81.1 | 95.1 | 100.0 | 92.5 | 94.4 | 93.1 | 94.6 | 95.6 | 88.9 | |
| | 収集分析 | 7 | 課題の解決に役立つ情報かどうかを考えながら、情報を集めることができる。 | 91.7 | 100.0 | 94.0 | 81.1 | 92.3 | 94.4 | 94.3 | 88.9 | 92.5 | 94.7 | 92.6 | 90.9 | |
| | 思考判断 | 8 | 収集した情報を関連づけて、比較したり、推測したりして考えを広げることができる。 | 82.5 | 88.6 | 86.0 | 73.0 | 93.0 | 97.2 | 92.5 | 90.7 | 81.4 | 84.2 | 82.4 | 78.2 | |
| | 思考判断 | 9 | 課題の原因や現状を理解して、自分の考えを持つことができる。 | 88.4 | 88.6 | 94.0 | 82.5 | 96.5 | 94.4 | 96.2 | 98.1 | 91.9 | 92.1 | 94.1 | 89.1 | |
| | 思考判断 | 10 | 課題を解決する時に、何から始めれば良いか優先順位を付けることができる。 | 84.4 | 91.4 | 86.0 | 75.7 | 92.3 | 88.9 | 96.2 | 90.7 | 88.2 | 92.1 | 85.3 | 89.1 | |
| | 思考判断 | 11 | 課題の解決のために、複数の方法を考えることができる。 | 80.6 | 80.0 | 86.0 | 75.7 | 86.7 | 80.6 | 84.9 | 92.6 | 81.4 | 86.8 | 85.3 | 72.7 | |
| | 表現観察 | 12 | 相手や目的に合わせて、自分の考えの根拠を明確に整理して表現することができる。 | 78.9 | 85.7 | 82.0 | 68.9 | 83.2 | 80.6 | 81.1 | 87.0 | 75.0 | 78.9 | 72.1 | 75.9 | |
| | 表現観察 | 13 | 学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かすことができる。 | 88.2 | 85.7 | 98.0 | 81.0 | 90.9 | 91.7 | 86.8 | 94.4 | 85.7 | 89.5 | 85.3 | 83.6 | |
| 自分自身に関すること | 意思決定 | 14 | 人とは異なる意見でも、自分の考えを状況に応じて伝えることができる。 | 82.6 | 80.0 | 88.0 | 79.7 | 86.0 | 88.9 | 84.9 | 85.2 | 83.2 | 86.8 | 80.9 | 83.6 | |
| | 意思決定 | 15 | 自分の考えに責任を持ち、自分がすべきことを決定できる。 | 90.0 | 97.1 | 96.0 | 77.0 | 88.8 | 80.6 | 88.7 | 94.4 | 83.0 | 84.2 | 83.6 | 81.5 | |
| | 計画実行 | 16 | 課題解決に向けて、見直しをもって行動できる。 | 81.3 | 82.9 | 88.0 | 73.0 | 87.9 | 80.6 | 86.5 | 94.3 | 81.4 | 81.6 | 77.9 | 85.5 | |
| | 計画実行 | 17 | 自分の役割を自覚し、計画的に行動できる。 | 84.8 | 91.4 | 90.0 | 73.0 | 90.2 | 88.9 | 86.8 | 94.4 | 84.4 | 81.6 | 86.6 | 83.6 | |
| | 計画実行 | 18 | 失敗しても、もう一度挑戦したり、最後までやり遂げたりしようとする。 | 89.5 | 94.3 | 96.0 | 78.3 | 93.0 | 94.4 | 92.5 | 92.6 | 93.2 | 92.1 | 92.6 | 94.5 | |
| | 自己理解 | 19 | 自分の良いところや得意なことをあげることができる。 | 81.9 | 91.4 | 88.0 | 66.2 | 78.9 | 80.6 | 75.5 | 81.1 | 74.5 | 81.6 | 72.1 | 72.7 | |
| | 自己理解 | 20 | 自分は、地域や社会から必要とされていると思う。 | 73.9 | 82.9 | 74.0 | 64.9 | 74.1 | 77.8 | 73.6 | 72.2 | 75.0 | 84.2 | 72.1 | 72.2 | |
| | 自己理解 | 21 | 学習や生活での気付きを、自らの改善につなげている。 | 88.4 | 88.6 | 94.0 | 82.5 | 87.4 | 86.1 | 83.0 | 92.6 | 83.9 | 89.5 | 86.8 | 76.4 | |
| | 将来展望 | 22 | 自分の将来について考えることがある。 | 92.0 | 94.3 | 98.0 | 83.7 | 96.5 | 100.0 | 96.2 | 94.4 | 96.9 | 100.0 | 95.6 | 96.4 | |
| | 将来展望 | 23 | 興味や関心のある職業をいくつかあげることができる。 | 88.8 | 91.4 | 94.0 | 81.1 | 93.0 | 97.2 | 84.6 | 98.1 | 88.8 | 89.5 | 91.2 | 85.5 | |
| | 将来展望 | 24 | 人の役に立てる人になりたいと思う。 | 93.6 | 94.3 | 96.0 | 90.5 | 97.9 | 97.2 | 96.2 | 100.0 | 97.5 | 100.0 | 95.6 | 98.2 | |
| 他者や社会に関すること | 他者理解 | 25 | 異なる立場や考えを受け入れ、理解しようと思う。 | 93.4 | 97.1 | 94.0 | 89.1 | 98.6 | 97.2 | 98.1 | 100.0 | 96.9 | 100.0 | 95.6 | 96.3 | |
| | 他者理解 | 26 | 異なる立場や考え方の良いところを見付けることができる。 | 91.7 | 91.4 | 96.0 | 87.8 | 94.4 | 94.4 | 92.5 | 96.3 | 91.3 | 94.7 | 89.7 | 90.9 | |
| | 協同 | 27 | 話し合いの時に、班やクラスの意見をまとめることができる。 | 70.4 | 65.7 | 78.0 | 67.5 | 77.5 | 77.1 | 73.6 | 81.5 | 66.5 | 68.4 | 64.7 | 67.3 | |
| | 協同 | 28 | お互いの良いところや違いを認め、協力することができる。 | 92.5 | 94.3 | 94.0 | 89.1 | 96.5 | 94.4 | 94.3 | 100.0 | 95.0 | 94.7 | 95.6 | 94.5 | |
| | 協同 | 29 | 異なる意見から得た気付きを生かして、考えを発展させることができる。 | 89.5 | 88.6 | 96.0 | 83.8 | 88.7 | 88.9 | 83.0 | 94.3 | 82.5 | 84.2 | 85.3 | 77.8 | |
| | 共生 | 30 | 環境への影響を考えて、行動することができる。 | 92.1 | 88.6 | 100.0 | 87.8 | 89.5 | 91.7 | 86.8 | 90.7 | 90.1 | 89.5 | 92.6 | 87.3 | |
| | 共生 | 31 | 人や生き物の生命を守り、ともに生きようと思う。 | 96.6 | 97.1 | 98.0 | 94.6 | 97.2 | 97.2 | 96.2 | 98.1 | 96.3 | 100.0 | 95.6 | 94.5 | |
| | 共生 | 32 | 自分の生活だけでなく、社会全体のことを考えたいと思う。 | 88.8 | 91.4 | 94.0 | 81.1 | 88.8 | 91.7 | 81.1 | 94.4 | 87.6 | 92.1 | 88.2 | 83.6 | |
| | 社会参画 | 33 | 地域社会の一員として、自分にできることはないかと考えたことがある。 | 82.2 | 82.9 | 88.0 | 75.7 | 85.3 | 88.9 | 79.2 | 88.9 | 74.5 | 78.9 | 75.0 | 70.9 | |
| | 社会参画 | 34 | 社会や地域の課題解決に向け、主体的に活動したいと思う。 | 82.1 | 77.1 | 88.0 | 81.1 | 86.0 | 91.7 | 77.4 | 90.7 | 79.9 | 84.2 | 77.6 | 79.6 | |
| 学習活動に関すること | 社会関心 | 35 | 日本国内で起きている出来事について、自分で調べたり、考えたりすることがある。 | 84.9 | 85.7 | 86.0 | 83.0 | 79.6 | 80.6 | 78.8 | 79.6 | 75.2 | 76.3 | 79.4 | 69.1 | |
| | 社会関心 | 36 | 世界で起きている出来事について、自分で調べたり、考えたりすることがある。 | 76.8 | 68.6 | 86.0 | 75.7 | 74.1 | 77.8 | 64.2 | 81.5 | 67.1 | 76.3 | 70.6 | 56.4 | |
| | 価値認識 | 37 | TRは生きていく上で大切なことを学んでいると思う。 | 88.1 | 88.6 | 92.0 | 83.8 | 92.3 | 97.2 | 86.8 | 94.4 | 93.2 | 100.0 | 95.6 | 85.5 | |
| | 価値認識 | 38 | TRは楽しい。 | 81.8 | 74.3 | 90.0 | 81.0 | 90.8 | 91.4 | 88.7 | 92.6 | 88.8 | 86.8 | 91.2 | 87.3 | |
| | 価値認識 | 39 | TRは、何を勉強しようとしているのかわからない。(反転項目) | 35.1 | 28.6 | 32.0 | 44.6 | 22.4 | 25.0 | 17.0 | 25.9 | 16.3 | 18.9 | 13.2 | 18.2 | |
| | 学習意欲 | 40 | TRに一生懸命取り組んでいる。 | 95.8 | 94.3 | 100.0 | 93.2 | 97.2 | 94.3 | 96.2 | 100.0 | 96.9 | 97.4 | 95.6 | 98.2 | |
| | 学習意欲 | 41 | 教科で学習したことを生かして、TRで調査や分析をしている。 | 84.2 | 82.9 | 90.0 | 79.7 | 83.9 | 88.9 | 83.0 | 81.5 | 82.0 | 86.8 | 82.4 | 78.2 | |
| | 学習意欲 | 42 | TRでは、今まであまり考えなかった問題に取り組んでいる。 | 90.2 | 91.4 | 90.0 | 89.2 | 95.8 | 91.7 | 96.2 | 98.1 | 93.8 | 92.1 | 94.1 | 94.5 | |
| 価値認識 | 43 | 教科の学習とTRはつながっていると感じるがある。 | 79.7 | 80.0 | 82.0 | 77.0 | 83.2 | 86.1 | 75.5 | 88.9 | 82.6 | 86.8 | 86.8 | 74.5 | | |
| 価値認識 | 44 | TRで学んだことは、普段の自分の生活や将来に役立つと思う。 | 87.9 | 91.4 | 90.0 | 82.4 | 93.0 | 97.2 | 86.8 | 96.2 | 93.2 | 97.4 | 94.1 | 89.1 | | |
| 学習意欲 | 45 | 家族とTRについて話すことがある。 | 56.1 | 42.9 | 70.0 | 55.4 | 62.9 | 61.1 | 58.5 | 68.5 | 49.1 | 57.9 | 48.5 | 43.6 | | |
| 学習意欲 | 46 | TRで取り組んでいる課題について、新聞やテレビなどで見たり聞いたことがある。 | 63.6 | 51.4 | 76.0 | 63.5 | 64.3 | 72.2 | 54.7 | 68.5 | 58.4 | 76.3 | 63.2 | 40.0 | | |

プレゼンスライド作成講習会資料（令和4年度1年生中間発表会に向けて作成したものを編集）

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

1. TR1年生中間発表会<11月1日(木)>

3チャンネル全20班

（7分発表+2分質疑応答）3教室に分かれるよ。

- ・プレゼン形式（googleスライド/パワーポイント）
- ・観覧者を意識して、原稿なしで大きな声でハッキリとユックリと
- ・伝わりやすいスライド作成を心がけて

※最終の発表会⇒TR成果発表会 令和5年2月4日（土）
8分発表+3分質疑応答、10教室で全20班発表
（2年生参観・大学・高校・地域の方々が来校→質疑あり!）

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

3. 発表用スライドの流れ（例）

※発表スライドは1枚（タイトル・メンバー）+6枚の合計7枚で作るのがオススメ！
まとめ冊子原稿作成時に、この順初の一枚を削除するだけでよいので楽！。年度末原稿提出の頃は忙しいぞ！

活動の目的・きっかけ

取り組んだ内容(過去)

結果に対する考察・気づき(現在)

成果・今後の課題(未来)

まとめ・感想・SDGs17のアイコンの図2、3枚

※この流れが絶対ではないが、主要ポイントは外さないように！

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

4. 発表用スライドのラストに

自分たちの取り組みのこと
が17の目標の何につながる
と考えたが、
最後のまとめ・感想のス
ライドに2、3枚のアイコン
を選んでね！

SDGs⇔TR
Think globally, Act locally
つながりの実感

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

5. まとめ冊子（成果報告書）原稿作成

スライド6枚（手書きの解説）モノクロ

①活動の目的・きっかけ
（タイトル・メンバーはページ上に入力）

②～⑤取り組んだ内容・考察

⑥成果・今後の課題・まとめ

12月作成スタート→2月末提出が切

スライドに加えて、必要な情報・
解説をスライド下に入力。

※だから、発表スライドは1枚（タイ
トル・メンバー）+6枚の合計7枚で
作るのがオススメ！

※別紙まとめ冊子作成マニュアルあり

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

6. スライド作成上の注意① 伝わりやすいスライドとは

- 文字の大きさ(大きすぎず、小さすぎず)
- 文字の量(少なめで。口頭で伝えれば良い)
- 色使い(スクリーン映り具合も要確認)
- アニメーション(むやみに使わない)
- イラスト・写真・図・表(伝わりやすい)

6

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

6. スライド作成上の注意⑥ 写真を使うと

- ① Aさんの畑は1ヘクタールもあります！（1ヘクタールって伝わる？）
- ② 1ヘクタール＝100m × 100m
- ③ Aさんの畑は1ヘクタール
ちよど落合校地のグラウンドくらい
(伝わるでしょ！)



11

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

6. スライド作成上の注意⑦ 写真を使うと

自分たちが写っている
→ 実体験している様子が伝わる

写真選びのポイント

- ◎ 何をしているかよく分かる
- ◎ 関係ない人が写っていない
- ◎ 伝えたい部分だけを切り取る

校外に出て行ったときの記録など、
頻繁に写真を撮っておくべき！
★ 恥ずかしいと言って写真に写らない人がいると、チームみんなが最終的に困るぞ！



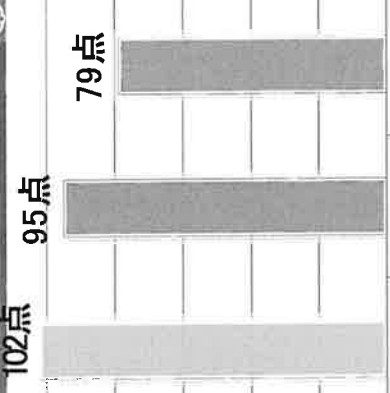
12

OKAYAMA Prefectural MANIWA HIGH SCHOOL

6. スライド作成上の注意⑧ 図や表を使うと

- ① 体育祭の順位は、1位A組102点、
2位B組95点、3位C組79点でした。
- ② 体育祭の順位

| | | |
|----|----|------|
| 1位 | A組 | 102点 |
| 2位 | B組 | 95点 |
| 3位 | C組 | 79点 |



A組 B組 C組

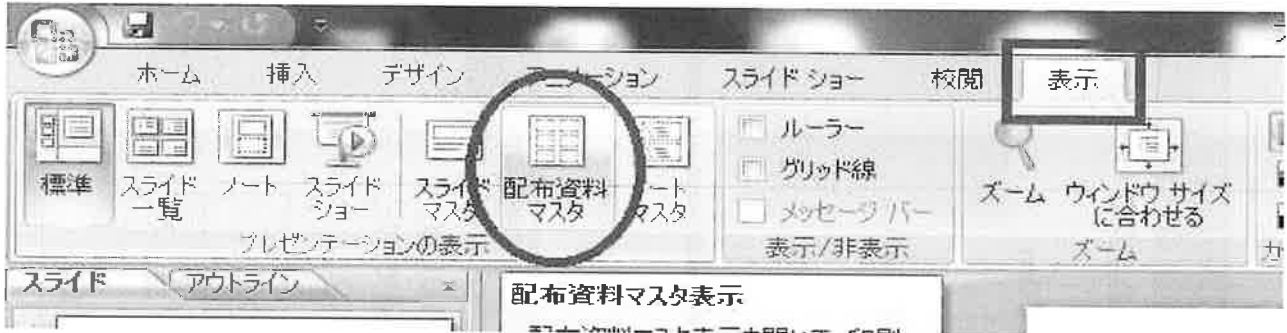
13

まとめ冊子原稿A 作成マニュアル 印刷前の設定！！

¥WS5420DN611D¥otiai_terastation¥2021¥T_TR¥000.作成マニュアル(PPT・まとめ冊子原稿 AB)

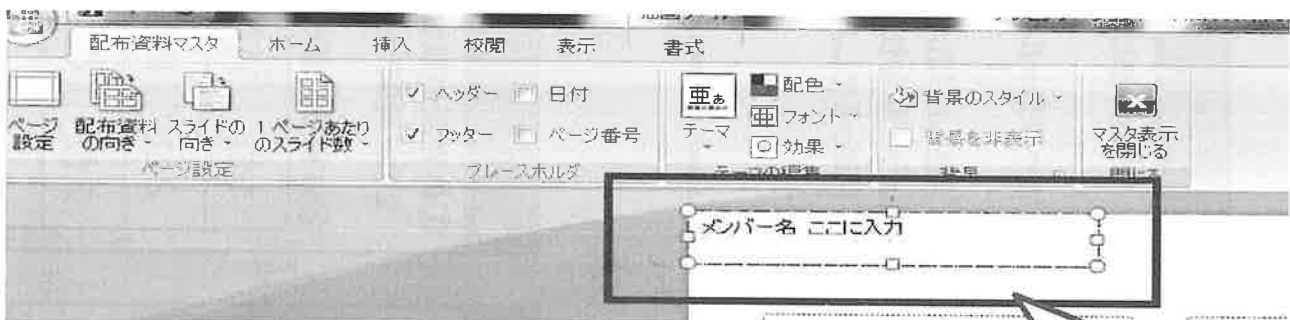
☆設定する手順

「表示」タブの「配布資料マスタ」をクリック



①発表者名の入力

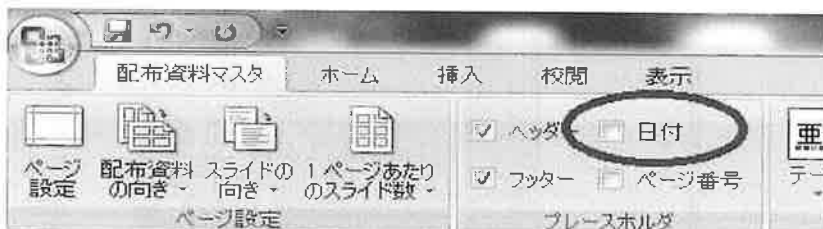
左上のヘッダーに名前を入力



入力範囲を広げること
もできます!!

②日付の削除

日付のチェックをはずす



③ページ番号の削除

ページ番号のチェックをはずす



一応・・・
フッターもチェッ
クをはずしておい
てください！

④挿入

横書きテキストボックス

フォントサイズ10で160文字以内

☆ 印刷手順 ☆

① 「印刷」もしくは「印刷プレビュー」画面にする。

The screenshot shows the 'Print' menu in a presentation software. The menu items are:

- 印刷 (Print)
- すべてのスライドを印刷 (Print all slides) - プレゼンテーション全体を印刷します
- スライド指定 (Slide selection) - 6 スライド (横) 配布資料 (6 スライド/ページ)
- 片面印刷 (Print one side) - ページの片面のみを印刷します
- 部単位で印刷 (Print by section) - 1,2,3 1,2,3 1,2,3
- 縦方向 (Vertical) - グレースケール (Grayscale)

【完成イメージ】
 網掛けの部分にコメントを書く。
 詳しくは前年度冊子を参照。

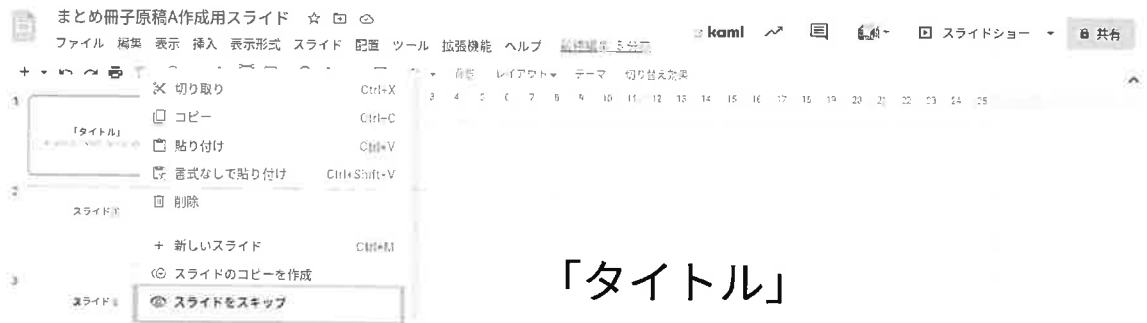
The image shows a grid of presentation slides for a '土砂災害実験' (Sand Disaster Experiment). The slides include:

- Title slide: 土砂災害実験
- 実験の目的 (Purpose of the experiment): 土質、粒径によっての崩れ方の違いを調べる
- 実験の準備 (Preparation for the experiment): 40° and 60°
- 実験の分析 (Analysis of the experiment): 結果について, 実験について
- 岡山大学訪問 (Visit to Okayama University): 岡山大学訪問

令和4年度 まとめ冊子原稿A 作成マニュアル

1. スライドをPDFで出力する。 右クリック:Chromebookでは二本指でタップ

- ①タイトルスライド(1枚目)で右クリックし、
「スライドをスキップ」をクリックする。



- ②「ファイル」リボンから「印刷プレビュー」を起動する。

以下のように印刷設定を行う。

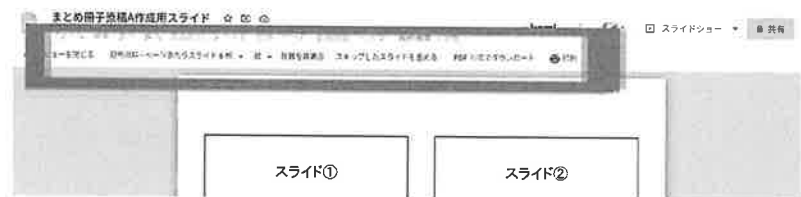
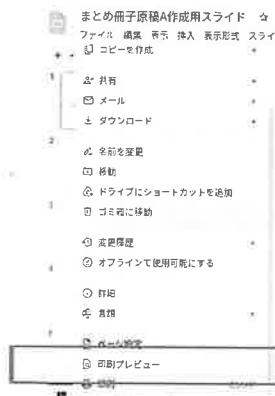
「1枚のスライド(ノートなし)」の設定を変更
⇒「配布資料—ページあたりスライド6枚」

「横」の設定を変更 ⇒「縦」

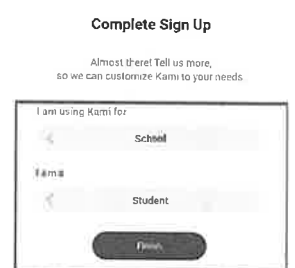
「背景を非表示」⇒黄色にする

「スキップしたスライドを含める」解除⇒黄色にしない

⇒設定ができれば「PDF形式でダウンロード」をクリックする。



2. 「kami」アプリの確認(以前に使用したことがある場合は設定済み)



- ①ブラウザの右上にある「拡張機能」(パズルのマーク)から
「kami for Google Chrome」を選択する。
②「kami」アプリを起動し、初期設定を行う。
③Googleアカウントでログインし「Student」の設定を選択する。

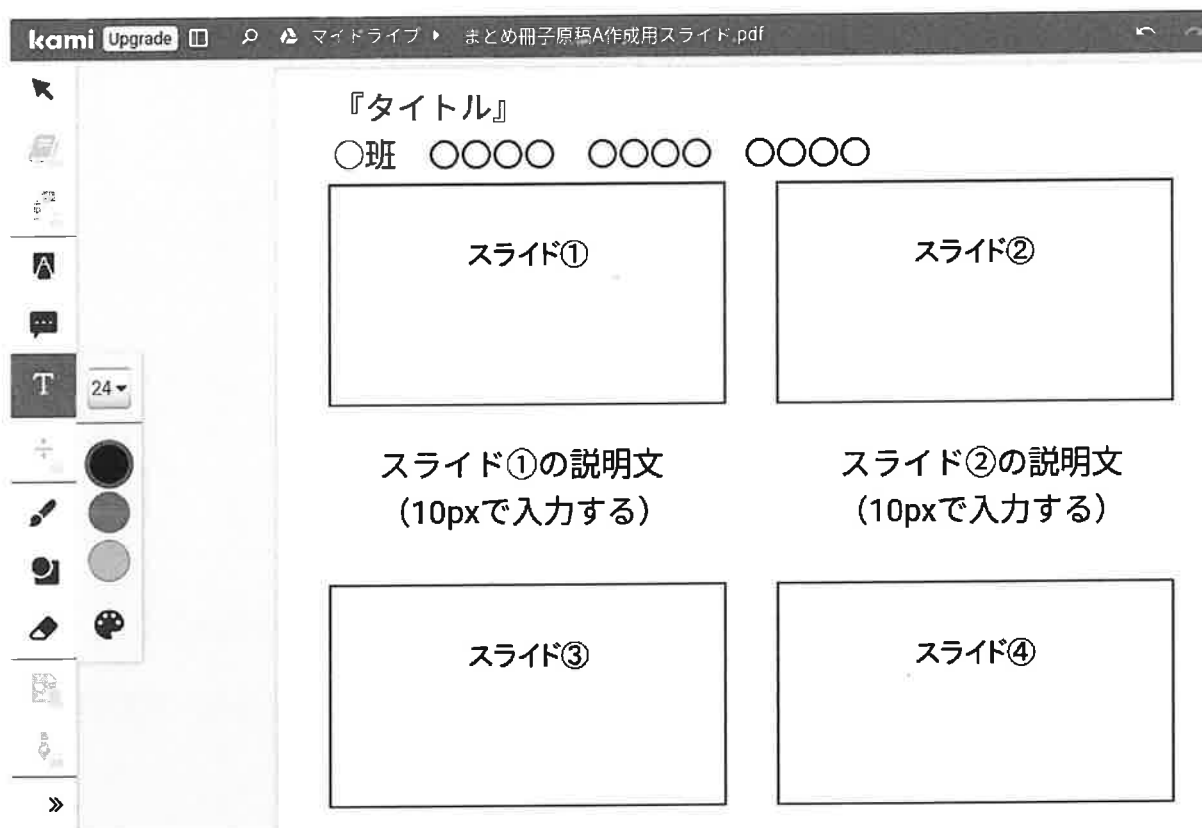
3. PDFファイルを「kami」アプリで編集する。

- ①マイドライブを開き、保存されたPDFファイルをクリックし、開く。
「アプリで開く」から「Annotate with kami」を選択する。



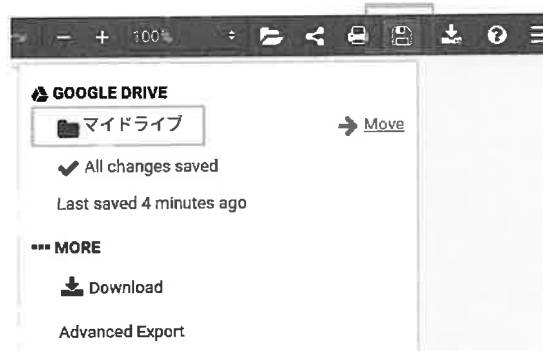
- ②ページの上部にテキストボックスを挿入し、入力する。
「タイトル」と「班番号」、「メンバーのフルネーム」を24pxで入力する。

- ③各スライドの下部にテキストボックスを挿入し、入力する。
それぞれのスライドの説明文を10pxで入力する。



- ④入力が完了したらマイドライブに保存する。

- ⑤編集したPDFファイルをTRのクラスルームに提出する。



<まとめ冊子 B のひな形を自身のマイドライブに保存する方法>

- ①TR 担当者のマイドライブを開く。
- ②左上の【+新規】からグーグルドキュメントを作成する。
- ③タイトルを「まとめ冊子 B (○班)」に変更する。
- ④共有ドライブ __R4共有__2_各学科・教科__TR 中にある「まとめ冊子原稿 B (年 班)」を開く。
- ⑤<Ctrl+A>をクリックし、<Ctrl+C>をクリックする。
- ⑥先ほど作成した「まとめ冊子 B (○班)」を開き、<Ctrl+V>をクリックする。
(これで自身のマイドライブに 1 班分が完成する。)

<ひな形を自身が担当する班の数だけ複製する>

- ①マイドライブを開き、先ほど作成した「まとめ冊子 B (○班)」を右クリック。
- ②【コピーを作成】をクリックし、担当する班の数だけ複製する。
- ③コピーしたファイル名を「まとめ冊子 B (▲班)」「まとめ冊子 B (★班)」・・・に変更する。

<各班にひな形を配信する>

- ①各班の classroom を開く。
- ②【授業】→【+作成】→【課題】をクリックする。
- ③タイトルに「まとめ冊子 B (右側ページ) の作成」と記入する。
- ④添付内【ドライブ】をクリックし、マイドライブ内に作成した各班のまとめ冊子 B ひな形を追加する。
- ⑤添付された課題の【生徒がファイルを閲覧できる】をクリックし【生徒がファイルを編集できる】に変更する。
- ⑥画面右側の点数を【採点なし】に変更する。
- ⑦画面右上の【割り当て】をクリックし、配信する。
- ⑧他の班に対しても、①～⑦を繰り返す。

真庭SDGsパートナー登録書

岡山県立真庭高等学校 殿

貴殿を真庭SDGsパートナーに登録しました。

貴殿の宣言内容

真庭SDGsパートナー宣言書

1 関係するSDGs目標（ゴール）

| | | | | | | | |
|------------|---|----------|--|----------|---|-----------|---|
| (1)貧困 | | (2)飢餓 | | (3)保健 | ○ | (4)教育 | ○ |
| (5)ジェンダー | | (6)水・衛生 | | (7)エネルギー | | (8)成長・雇用 | |
| (9)イノベーション | | (10)不平等 | | (11)都市 | | (12)生産・消費 | |
| (13)気候変動 | | (14)海洋資源 | | (15)陸上資源 | ○ | (16)平和 | |
| (17)実施手段 | ○ | | | | | | |

2 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する内容

Think Globally Act Locally

- ユネスコスクールとしてSDGs目標達成に向けて学校全体で取り組みます。
- 【学校全体】こちら高校市民課防災係『通称こち防』で地域と協働して防災活動に取り組みます。
- 【普通科・看護科】真庭トライ&リポート『通称TR』（総合的な学習の時間、総合的な探究の時間）の取組を通して、SDGsについて学び、高校生にできることを地球的な視野で考え、地域で行動します。
- 【生物生産科・食品科学科】真庭市と連携・協働しジビエを活用した商品開発や、バイオ液肥実証研究に取り組みます。
- 落合校地が中心となり、真庭市内2校4校地で真庭いきいきテレビ『SDGsって何？』番組協働制作。（令和元年5月～令和2年3月）

真庭市



岡山県立真庭高等学校



【代表者(校長)】豊田 涼 【担当者】中山 順充
【住所】落合校地：〒719-3144真庭市落合垂水448-1 / 久世校地：〒719-3202真庭市中島143

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



団体の概要

机に向かうだけでなく、地域をフィールドに活動する、それが真庭高校です。

【落合校地普通科】21世紀を生き抜くための「新しい学力」を育み、あなたの夢を咲かせます！

【落合校地看護科・専攻科】看護師資格取得への最短コース！5年一貫教育で専門知識を身に付け、看護の心を育てます！

【久世校地生物生産科】緑を育み、人とふれあい、社会で輝く実践力を身に付けます！

【久世校地食品科学科】地産地消を実現する“職のスペシャリスト”を目指します！

宣言内容

Think Globally Act Locally

『真庭高×地域』動かすのは、ペンだけじゃない

【学校全体】こちら高校市民課防災係『通称こち防』で地域と協働した防災活動、ユネスコスクールとしてESD（持続可能な社会開発のための教育活動）に取り組みます。

【普通科・看護科】真庭トライ&レポート（TR）SDGsを全体テーマとして、高校生にできることを地球的な視野で考え、地域で行動します。

【生物生産科・食品科学科】真庭市と連携・協働して、ジビエを活用した商品開発やバイオ液肥実証研究に取り組みます。

SDGsに関する特徴的な取組

真庭トライ&レポート（TR）令和2年度2年生



『落合ヒカリプロジェクト』
アートでまちを元気に！



『国際交流を地域活性化へ』
高校生から見た真庭 高校生から見た世界



『子どもの豊かな想像力を育む映像教材』
デジタル動画教材の制作と子ども教育

『Let's think!!~考えることの大切さ』
水質検査を通して考える！



『「真庭」をたずね「私」を知る』
真庭市公式Instagram活用



『S定山でDディスカバる 俺達 uys』
アウトドア体験で地域理解・自己理解



『海外の食と文化』
東京オリ・パラ、ホストタウン真庭として、ドイツ選手への応援動画作成と食文化探究

『障がい者と防災』災害時に障がいを抱えた人に役立つコミュニケーション道具開発。
ヒノキ素材で真庭高校生みんなのスクールバッグにつけてもらいたい！



× 高校生 × 地域資源活用

真庭SDGsパートナー一覧

(R04.02.16現在 219団体)

| 番号 | 企業・団体名 | 番号 | 企業・団体名 | 番号 | 企業・団体名 |
|----|--------------------------|-----|----------------------|-----|-------------------------|
| 1 | ランデス株式会社 | 76 | 有限会社ファインアートかわばた | 151 | 株式会社岡田組 |
| 2 | 株式会社イシン住宅研究所 | 77 | 社会福祉法人秋桜会 | 152 | 西日本電信電話株式会社 岡山支店 |
| 3 | 中年から始める らくらくピアノサークルinまにわ | 78 | 真庭地域自立支援協議会 | 153 | 有限会社西本建設 |
| 4 | 株式会社藤岡エンジニアリング | 79 | 株式会社藤藤燃糸 | 154 | 株式会社中国銀行 |
| 5 | 株式会社グリーンピア蒜山 | 80 | 中国電力株式会社津山営業所 | 155 | 鳥越工業株式会社 |
| 6 | 株式会社マルイ | 81 | 真庭市環境衛生協議会 | 156 | 有限会社手打ちうどん味平 |
| 7 | 桐岡建設株式会社 | 82 | 一般社団法人真庭市医師会 | 157 | 竹藤建設株式会社 |
| 8 | 服部興業株式会社 | 83 | 真庭市議会 | 158 | 株式会社ペブルフードオペレーション |
| 9 | 大島技術コンサルタント株式会社 | 84 | 株式会社すえ木工 | 159 | 河井林産株式会社 |
| 10 | 真庭農業協同組合 | 85 | 小林測量設計株式会社 | 160 | ベッド通販セラビス |
| 11 | 株式会社三謳 | 86 | 真庭交通安全協会 | 161 | 美作ピアワークス |
| 12 | 有限会社エコライフ商友 | 87 | 真庭市人権教育推進委員会 | 162 | 木工房ものたね |
| 13 | 銘建工業株式会社 | 88 | 株式会社四方一商店 | 163 | 0867合同会社 |
| 14 | 十字屋グループ | 89 | NPO法人子育て支援の会「サポートあい」 | 164 | まるいおやつとパン moi |
| 15 | 株式会社アストピア蒜山 | 90 | 放課後児童クラブ ピオキッズ学童クラブ | 165 | 株式会社MATSURIKA |
| 16 | 公益財団法人真庭エスパス文化振興財団 | 91 | 昭和化学工業株式会社 | 166 | 合同会社蒜山耕藝 |
| 17 | 特別養護老人ホーム千寿荘 | 92 | 真庭市立久世中学校 | 167 | 中国防災工業株式会社 |
| 18 | 株式会社ヒルゼン高原センター | 93 | 真庭市立北房小学校 | 168 | 株式会社柴田工務店 |
| 19 | 山下木材株式会社 | 94 | 真庭市立湯原小学校 | 169 | 志田工業株式会社 |
| 20 | ㈱HAPPY FARM plus R | 95 | 真庭市立湯原中学校 | 170 | 真庭リユースプラザの会 |
| 21 | 岡山トヨタ自動車株式会社 | 96 | 真庭市立八束小学校 | 171 | 大進建設株式会社 |
| 22 | NPO法人真庭あぐりガーデンプロジェクト | 97 | 真庭市立落合中学校 | 172 | 合同会社ウーラ |
| 23 | CHICK | 98 | 真庭市立木山小学校 | 173 | リサイクルプラザまにわの会 |
| 24 | 有限会社フクモトタクシー | 99 | 真庭市立川上小学校 | 174 | 株式会社山中工務店 |
| 25 | 岡山県立真庭高等学校 | 100 | 真庭市立北房中学校 | 175 | 株式会社金平工務店 |
| 26 | 真庭圏域危険物安全協会 | 101 | 真庭市立美川小学校 | 176 | ママン-maniwa- |
| 27 | 真庭市栄養改善協議会 | 102 | 真庭市立余野小学校 | 177 | 岡山県山岳・スポーツライミング連盟 |
| 28 | 株式会社トンボ | 103 | 真庭市立蒜山中学校 | 178 | リコージャパン株式会社 岡山支社 |
| 29 | 合同会社PORT-LAIT | 104 | 真庭市立檜邑小学校 | 179 | 株式会社大和建設 |
| 30 | 真庭歯科医師会 | 105 | 真庭市立勝山小学校 | 180 | 株式会社ウエモト組 |
| 31 | 真庭市愛育委員会 | 106 | 真庭市立落合小学校 | 181 | 株式会社大広 |
| 32 | 株式会社三木工務店 | 107 | 真庭市立富原小学校 | 182 | テス・エンジニアリング株式会社 |
| 33 | 一般社団法人岡山県建築士会真庭支部 | 108 | 真庭市立川東小学校 | 183 | 大塚製薬(株)広島支店岡山出張所 |
| 34 | 真庭市消防団 | 109 | 真庭市立美甘小学校 | 184 | SMFLみらいパートナーズ株式会社 |
| 35 | 一般財団法人真庭スポーツ振興財団 | 110 | 真庭市立勝山中学校 | 185 | 株式会社ランネット |
| 36 | 真庭市老人クラブ連合会 | 111 | 有限会社竹中商店 | 186 | 株式会社SunSet |
| 37 | 公益社団法人真庭市シルバー人材センター | 112 | 真庭市立米来小学校 | 187 | 一般社団法人はにわの森 |
| 38 | 岡山県建設業協会真庭支部 | 113 | 真庭市立中和小学校 | 188 | 一般社団法人真庭GadgetCreations |
| 39 | 真庭森林組合 | 114 | 生活協同組合おかやまコープ | 189 | 吉産株式会社 |
| 40 | 真庭木材事業協同組合 | 115 | 株式会社三協商建 | 190 | ユニオンエタニティ株式会社 |
| 41 | 真庭市立草加部小学校 | 116 | 岡山県農業共済組合 | 191 | 株式会社HAKKEI JAPAN |
| 42 | 真庭バイオマス発電株式会社 | 117 | 岡山県立勝山高等学校蒜山校地 | 192 | NPO法人生命の貯蓄体操普及会 落合連絡所 |
| 43 | 真庭市立天津小学校 | 118 | 有限会社富永ふとん店 | 193 | テレビせとうち株式会社 |
| 44 | 社会福祉法人真庭市社会福祉協議会 | 119 | 真庭市内郵便局 | 194 | グランパスコンサルティング株式会社 |
| 45 | 真庭市民生委員児童委員協議会 | 120 | 家庭食堂 ROOF | 195 | 合同会社OFFICE HIT-LAB |
| 46 | 真庭地区保護司会 | 121 | 草澤水路組合 | 196 | MaLon |
| 47 | 岡山県栄養士会真庭支部 | 122 | 有限会社醍醐の里 | 197 | 株式会社アイ・エス |
| 48 | 真庭市文化連盟 | 123 | 株式会社真庭運創研 | 198 | 株式会社アリモト |
| 49 | 真庭商工会 | 124 | 株式会社村松木工所 | 199 | 正モパイル株式会社 |
| 50 | 有限会社ダイサン | 125 | 株式会社イマガワ | 200 | 株式会社上神食糧 |
| 51 | テクノス株式会社真庭支店 | 126 | 有限会社名和香美堂 | 201 | 歯科矯正の窓口 |
| 52 | 株式会社明日香 | 127 | 牧野木材工業株式会社 | 202 | 釣りバカ甲子團 |
| 53 | 株式会社マニワプラン | 128 | 山縣電機工業株式会社 | 203 | 落合ライオンズクラブ |
| 54 | 株式会社ケーアイケーコンサルタント | 129 | 株式会社蒜山興業 | 204 | 湯原ライオンズクラブ |
| 55 | 有限会社ナラサキシビルエンジニア | 130 | 有限会社中村工業所 | 205 | 蒜山ライオンズクラブ |
| 56 | 大成コンサルタント真庭支店 | 131 | パートナーシップ | 206 | 真庭旭ライオンズクラブ |
| 57 | 株式会社アークコンサルタント真庭営業所 | 132 | 清音金属工業株式会社津山工場 | 207 | 真庭ライオンズクラブ |
| 58 | 株式会社ウジョウ | 133 | 岡山県真庭地区猟友会 | 208 | 株式会社佐田建美 |
| 59 | 岡山県看護協会真庭支部 | 134 | オーティス株式会社 | 209 | 一般社団法人湯原観光協会 |
| 60 | 真庭市立月田小学校 | 135 | 三栄源エフエフアイ株式会社岡山工場 | 210 | 湯原旅館協同組合 |
| 61 | 東真産業株式会社 | 136 | 一般社団法人コミュニティデザイン | 211 | 吉 縁起村 |
| 62 | 夢画まにわ | 137 | Mdenネット真庭店 | 212 | 株式会社インテグラルベース |
| 63 | 津山人権擁護委員協議会真庭地区 | 138 | 福田農機株式会社 | 213 | エファタ株式会社 |
| 64 | 真庭市DV被害者サポーター | 139 | 津山信用金庫 | 214 | 株式会社まちと学びのイノベーション研究所 |
| 65 | 真庭市立遷鶴小学校 | 140 | 大和リース株式会社岡山デポ | 215 | 株式会社瀬戸内海放送 |
| 66 | 真庭市電水協同組合 | 141 | 株式会社道満石油店 | 216 | Owned株式会社 |
| 67 | ワイテック工業株式会社 | 142 | ピタグラス放課後真庭 | 217 | 有限会社津山技研空調 |
| 68 | ひるぜんワイン有限会社 | 143 | 一般社団法人真庭青年会講所 | 218 | 株式会社Media With |
| 69 | 岡山県小学校長会真庭支部 | 144 | 岡山県立勝山高等学校 | 219 | 真庭市少年野球協会 |
| 70 | 岡山県中学校長会真庭支部 | 145 | 株式会社ツリーサービス | | |
| 71 | 岡山地方方法務局津山支局 | 146 | まにわフッジョイ | | |
| 72 | 真庭市立河内小学校 | 147 | 蒜山食品加工株式会社 | | |
| 73 | 一般社団法人真庭観光局 | 148 | 株式会社平田建設 | | |
| 74 | 岡山パールライス株式会社 | 149 | 株式会社カネカ | | |
| 75 | まにわ・しめ山プロジェクト | 150 | JA晴れの国岡山真庭女性部 | | |



第1学年



森年・杉・清本・永田・杉本・谷口
石井・宮本・松本・本郷・常本・中山



令和4年度 1年生 真庭トライ&レポート (TR) 年間活動計画

| 月日
(黄色)
杉本不在 | 真庭トライ&レポート (TR) (木曜5限) | | | | | | LHR計画 (木曜6限) | | | | |
|--------------------|---|---------------------|---------------------|---------------------|-------|------|--------------|-------------|---|--|--|
| | 内容 | MANWA ch.
(中山) | こち助ch.
(杉) | 聞き書きch.
(杉本) | プロセス | 形態 | 活動場所 | 担当者 | 目 | 内容 | |
| 4月15日 | ■ 探究づくり行事『探究学習スタートアップセミナー』
■ 自己発表会：やりたい自分になるしゅんメンタルトレーニング
■ 自己発表会：高校生のためのアンガーマネジメント | | | | テーマ導入 | 1年全体 | 体育館
講堂 | TR担当
学年団 | ① | 4月14日
新入生オリエンテーション | |
| 4月21日 | LHR『中学校への手紙』 | | | | | | | | ② | 中学校への手紙 | |
| 4月28日 | ① 『TRって何だろう?』
■ TR導入：TR説明 (1年やってる、Report人に伝える)・3年間の見直し
■ 『自分プレゼン』の作成について | | | | | | | | ③ | 生徒発表会 | |
| GW期間 | 隠れる自分探し『自分プレゼンの具体化』 | | | | | | | | ④ | クラス自主
Study by 発表 | |
| 5月12日 | ② 『探究って何だろう?』
■ ミニ探究に挑戦！『バナナ探究、やってみよう!』 | | | | テーマ導入 | 1年全体 | 体育館
校舎 | TR担当
学年団 | ⑤ | TRへ
『エモー1グランプリ』 | |
| 5月26日 | ③ 『エモー1グランプリ』私X地域』説明
■ TRグループ活動内自説明・希望調査 | | | | | | | | ⑥ | TRへ
『エモー1グランプリ』 | |
| 6月2日 | ④ 『エモー1グランプリ』私X地域』実施
■ 地域探検で撮影した『エモー写真』を自分プレゼンに追加!
■ 『自分プレゼン』作成 | | | | | | | | ⑦ | クラス自主 | |
| 6月9日 | ⑤ ■ グループ決定・班編成
■ 選抜ごとに『自分プレゼン』、探究活動計画作成 | | | | | | | | ⑧ | クラス自主 | |
| 6月13日 | ⑥ | 班内自分プレゼン
各班テーマ決定 | 班内自分プレゼン
各班テーマ決定 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑨ | クラス自主 | |
| 6月16日 | ⑦ ■ 探究活動
⑧ 5班を越した実体験を積み重ねる。
⑨ input (観る・聞く) + output (話す書く行動する)
→ outcome (成果・効果)
自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。
メディア情報 (本・TV・PC) だけに頼らない。
・各プロジェクトで外部講師講演OK ※費用負担!
・防犯部・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュー
・アンケート (生徒・教員・保護者・地域)
・実験・実習・製作
・カメラ・ビデオ活用・パソコン
・調査 (同じ場所に着目) (異なる場所と比較分析)
・SDGs/パートナーとの連携 | 班内自分プレゼン
各班テーマ決定 | 班内自分プレゼン
各班テーマ決定 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑩ | クラス自主 | |
| 6月23日 | ⑧ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑪ | 防犯部防犯止講座 | |
| 7月12日 | ⑨ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑫ | 白飯倉クラス研修 | |
| 7月13日 | ⑩ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑬ | 白飯倉クラス研修 | |
| 7月14日 | ⑪ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑭ | 白飯倉体育の部
出張練習 決定 | |
| 7月14日 | ⑫ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑮ | バイオスタジアム-専攻学習
申込受付 | |
| 7月15日
休校 | ※7月12日(水)13日(木)14日(金)の
3・4限TRは学校行事扱い | | | | | | | | ⑯ | バイオスタジアム-専攻学習
申込受付 | |
| 夏休み中 | | | | | | | | | ⑰ | 1期
2期
3期
4期
5期
6期
7期
8期
9期
10期
11期
12期
13期
14期
15期
16期
17期
18期
19期
20期
21期
22期
23期
24期
25期
26期
27期
28期
29期
30期
31期
32期
33期
34期
35期
36期
37期
38期
39期
40期
41期
42期
43期
44期
45期
46期
47期
48期
49期
50期
51期
52期
53期
54期
55期
56期
57期
58期
59期
60期
61期
62期
63期
64期
65期
66期
67期
68期
69期
70期
71期
72期
73期
74期
75期
76期
77期
78期
79期
80期
81期
82期
83期
84期
85期
86期
87期
88期
89期
90期
91期
92期
93期
94期
95期
96期
97期
98期
99期
100期 | |
| 8月8日
休校 | ⑬ ■ 探究活動
■ リフレクションフィードバック | | | | | | | | ⑱ | 探究活動 | |
| 8月15日 | ⑭ ■ 探究活動
⑮ 5班を越した実体験を積み重ねる。
⑯ input (観る・聞く) + output (話す書く行動する) → outcome (成果・効果)
自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。
メディア情報 (本・TV・PC) だけに頼らない。
・各プロジェクトで外部講師講演OK ※費用負担!
・防犯部・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュー
・アンケート (生徒・教員・保護者・地域)
・実験・実習・製作
・カメラ・ビデオ活用・パソコン
・調査 (同じ場所に着目) (異なる場所と比較分析)
・SDGs/パートナーとの連携 | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑲ | 探究活動 | |
| 8月22日 | ⑮ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ⑳ | 探究活動 | |
| 8月29日 | ⑯ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉑ | 探究活動 | |
| 10月8日 | ㉒ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉒ | 探究活動 | |
| 10月20日 | ㉓ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉓ | 探究活動 | |
| 10月27日
(ACのみ) | ㉔ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉔ | 探究活動 | |
| 11月1日 | ㉕ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉕ | 探究活動 | |
| 11月10日 | ㉖ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉖ | 探究活動 | |
| 11月17日 | ㉗ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉗ | 探究活動 | |
| 11月24日 | ㉘ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉘ | 探究活動 | |
| 12月15日 | ㉙ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉙ | 探究活動 | |
| 1月12日
(ACのみ) | ㉚ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉚ | 探究活動 | |
| 1月19日 | ㉛ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉛ | 探究活動 | |
| 1月26日 | ㉜ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉜ | 探究活動 | |
| 1月31日 | ㉝ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉝ | 探究活動 | |
| 2月2日 | ㉞ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉞ | 探究活動 | |
| 2月4日 | ㉟ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㉟ | 探究活動 | |
| 2月16日 | ㊱ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㊱ | 探究活動 | |
| 3月2日 | ㊲ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㊲ | 探究活動 | |
| 3月16日 | ㊳ | 探究活動 | 探究活動 | 聞き書き発表会
(杉野さん発表) | | | | | ㊳ | 探究活動 | |

1年団：遠年・永田・菊本・杉本・谷口・石井・宮本・中山・杉 十岡本よ・松本 十常本

■ 形態：学年単位とし、3年間を越して段階的に発展していく。3年間の見直しをもつて、総合的な探究の総論『真庭Try&Report (TR)』を計画する。

【第1学年】『HOW TO LEARN』(そのことを見る、まとめる方法を学ぶ) 課題型グループ学習 (興味・関心を広げる)

【第2学年】『WHAT TO LEARN』(自分で課題を設定し、調べる) 進路別課題学習 (知識・理解を深める)

【第3学年】『HOW TO LIVE』(進路実現・卒業後の生活のために学ぶ) 進路別課題学習 (具体的な自身の進路実現)

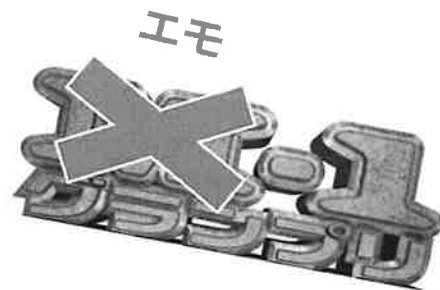
■ 学校全体TRテーマ『SDGs』

■ 学年テーマ『SDGs~MANWAの真ん中には『/』(愛)がある~』 ▼ 2月4日(土)TR成果発表会

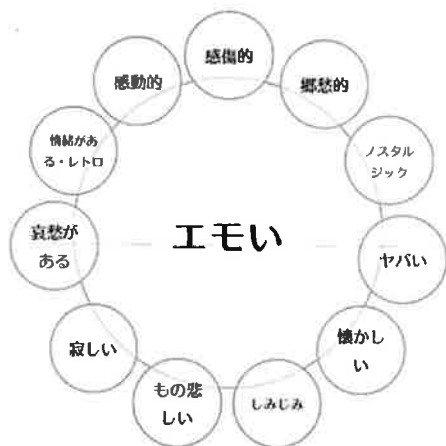
1年生83名(男子46名/女子37名)【食糧生産科38名+経営ビジネス科32名+看護科13名】→3チャンネル 全学科混合、1班4名が基本

| CH | 活動内容 | 生徒数
(男/女) | 班番号
(USB番号) | 活動場所 | 担当者 |
|---------------------------|--|----------------|----------------|--------------------------------|----------------------|
| ①MANWA
チャンネル
拠点：地蔵! | ■ フリーテーマで課題設定、先輩の取り組みから活動の継続的な取組にも期待。
■ コミュニケーションスキル活用、トンボ学生指導員活用、森林資源活用、商品開発など
■ エキマエ/マエ (久世)、Happy Farm plus R (菊本)、真庭市公式Instagram、まにわ市民大学、服飾実業株式会社 etc...
(地元地域の住民とプロジェクトを進めよう!)
<真庭市役所、MIT、地域おこし協力隊、瀬谷水産漁業生活研究会、しめ山プロジェクト、農工各、各企業、大学等> | 82名
(34/28) | 1班
(1~15) | 食糧生産科
4-1
1階
2階
3階 | 責任：永田・谷口
石井・宮本・中山 |
| ②こち助
チャンネル
拠点は地蔵! | ■ こち助高松市視察訪問 (事前準備・事後振り返り)、8月リーダー研修会 (高・校内)
■ 11月地域合同防災訓練、11月全防防消活動、11月兵庫県立高松市立高松市立
・防災×キャンプ (元自衛隊員と一緒にプロジェクトを進めよう!)
<防犯・自衛隊・警察・日本赤十字社・消防・各企業、大学等> | 13名
(9/4) | 3班
(16~18) | 職員室 | 杉・菊本
(岡本よ・松本) |
| ③聞き書き
チャンネル
拠点は地蔵! | ■ 語り手の人生を受け止めて、それを作品としてまとめたい、先人の生き方や哲学に触れていく。
<真庭市総合生涯学習センター-吉野英子さん、真庭市教育委員会等> | 8名
(3/5) | 2班
(19~20) | 1階職員室 | 菊本・杉本
(岡本よ・松本) |

1年 TR「エモ-1グランプリ」要項



1) エモいとは・・・？



「エモい」とは、なんとも言い表せない素敵な気持ちになったときに使う、主に若者の間で浸透している俗語(スラング)です。感情が揺さぶられたとき、予期せず感動したとき、とりわけ心地の良い懐かしさや良質なセンチメンタルに襲われたときに使うようです。

「エモい」は、1980年代のアメリカで広がったロックミュージックの一つのジャンルである Emo(エモ、イーモウ)から派生した言葉と言われています。Emo はメロディアスで情緒的に心情を吐露するような歌詞が特徴の音楽ジャンルで、Emo という名前自体も感傷的、情緒的を意味する英語 emotional を略したものです。「エモい」は、本来の音楽ジャンルとはもはや別のニュアンスに発展しました。

https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/culture/emoi_imi.html より引用

2) 「エモ-1グランプリ」とは？

緊急事態宣言下でも生徒の学びを止めないよう、地域に繰り出す TR 活動として創めたもの。生徒へのミッションは『地域のエモい写真を複数枚撮影してくること』である。自分がエモいと思ったものを写真におさめ、『#自分プレゼン』に追加することを目的としている。教師側の目的は、エモい写真から、生徒が何に興味を示し、どんな価値観を持っているのかを把握することである。写真撮影の制限としては以下の通りである。基本的に地域の方との交流はしない(コロナ禍のため)。

- ① 民家や住宅、個人名表記などは避けること。
- ② 店内や商品を撮影しないこと。(店内の場合は許可をもらう)
- ③ 自然や動植物、道路や公共物などは撮影 OK。
自分たちが写真に入るのも OK だが、意図が伝わるように。
- ④ 教員はどこかのグループに同行。グループは集団づくり行事の際のグループで行動する。

3) 実施日 令和4年5月26日(木) 5・6限 (13:35～15:25)

※雨天時: 5限TR(説明 15分→chromebookは持たず、班ごとに傘をさして近隣下見)/6限クラス自主
前日終礼連絡: 雨天に備えて各自傘を持参!

4) 実施の流れ

- 13:30 各教室で meet を繋ぐ準備 (各担任+学年団)
- 13:35 meet で各教室に「エモ-1グランプリ」の趣旨説明 (森年)
- 13:45 chromebook (カメラ機能使用) とスマホ (緊急連絡用) を持って地域へ
- 15:00 各 HR にて点呼 (各担任)
「#自分プレゼン」に写真とその写真がエモいと感じる理由を追加
- 15:20 meet で諸連絡 (森年)

5) その他

教員は携帯電話・スマホを所持し、連絡を取り合いながらいずれかのグループに同行。
学校には森年・中山待機。出発前に学校の電話番号を生徒に伝える。

令和4年度 1年生TR中間発表会

- 令和4年11月1日(火) 5・6限 グループA @1階講義室 / グループB @1年1組 / グループC @1年2組
- 1年生83名(食農生産科38名・経営ビジネス科32科・看護科13名) 3チャネル全②0班 各班7分発表・2分質疑応答(ワイドパツット記入)

①MANIWAch 62名 ②こち防ch 13名

③聞き書きch 8名

◎他のチャネルの取組も知って自分たちの活動に生かそう!! ◎よりよい発表になるよういろいろいるな視点から質疑応答を!!

| 班 | 発表タイトル | 班員 | 会場 | 担当教員 |
|-------|--------------------------------------|---------------------------|-------|---------------|
| グループA | 1 食べものから食べられるものを通して | 岡本航・先原紫悠・柴山智暉・中山大暉 | 1階講義室 | 中山清本 杉 (29) |
| | 4 SすぐできるDだれでもできるGがんばればsっす | 武田雄大・野島駿太・福山大翔・森脇悠斗 | | |
| | 7 竹林を整備して竹ぼうきを作ろう! | 金崎心哉・河島運輝・森数要也・柳田智行 | | |
| | 10 眞庭を知り、もっと有名に! | 小原凛太郎・兵江芳太・入澤楓・西原千乃 | | |
| | 13 箱外野菜を救おう!! ~私達の住んでいる眞庭市での取り組み~ | 小松奈々美・平尾来未・金田暉弘・小林駿斗 | | |
| | 16 我が家の備えが地域の備え | 小柳翔夢・片山莉音・藤井祐也・藤本煌生・石井海希 | | |
| | 19 地域医療と介護 | 奥田莉那・佐田愛香・岡本亜美・横川乃歩 | | |
| | 2 キャンプに行って気付いたこと | 田口颯我・東幹河成・難波孝企・松岡悠太 | | |
| | 5 S知らなかった世界へD出かけてG学習するs生徒たち | 山口理航・稲田涼佑・山口愛乃・山根松菜・吉田百合香 | | |
| | 8 竹パウダーは野菜にどのように影響を与えるか | 小林日菜姫・榎本運陽・牧朋美・和田明莉 | | |
| グループB | 11 眞庭イベント! | 澤本拓海・前田波音・有馬莉羅・二若智帆 | 1年1組 | 永田石井 杉本 (29) |
| | 14 はんざき祭りと地域の繋がりが | 金丸楓果・福島香美・岡山楓真・中村玲士 | | |
| | 17 災害時の備え | 須々木陸斗・酒井陽菜・福井太河・市愛望 | | |
| | 20 地域農業とこれからの農業 | 布野未彩・福島悠斗・福本和也・屋敷大陽 | | |
| | 3 眞庭の自然を体験して | 中元亜祇・中山大夢・村上廊磨・山口丈 | | |
| | 6 S自然に触れながらD誰とでも楽しくGグループで協力してsスマイルに! | 清水悠果・竹下美羽・藤村百花・柳本蒼妃・山本菜穂 | | |
| | 9 竹の花遣作り | 岩浅春花・黒瀬叶美・梅田理臣・難波勇次 | | |
| グループC | 12 インスタを使って町おこし | 鎌城佑実・成田理穂・岩本涼翔・河本賢知 | 1年2組 | 谷口 宮本 常本 (25) |
| | 15 ちょっと気になる眞庭事情か~眞庭の高齢者の思い~ | 池田莉子・井上舞・河本敬香・酒井結愛 | | |
| | 18 消防士の台所 | 前田祥起・前本裕月・磯田悠貴・森岡志琉 | | |

| 日程 |
|------------------------|
| 13:35 挨拶・確認(6分1分→7分2分) |
| 13:35-13:45 各班最終確認 |
| 13:45-13:54 班1 |
| 13:55-14:04 班2 |
| 14:05-14:14 班3 |
| 14:15-14:24 班4 |
| 14:25-14:35 (休憩) |
| 14:35-14:44 班5 |
| 14:45-14:54 班6 |
| 14:55-15:04 班7 |
| 15:05-15:15 ワイドパツット |
| (各班まとめて回収→班内回覧→教員再回収) |
| 15:15-15:25 指導講評 |

ワイドパツットをしっかりと記入してあげること、次の活動の質が高まる!(あんまり書いてもらえないと寂しい...) お互いが“無暗心”な仲間にならないう、刺激し合える良い化学反応を起こす仲間であってほしい!

”爽やかであれ!”

☆11月1日中間発表までの流れ (Google スライド作成⇒各classroomに提出)

- 9月29日(木) 6限 中間発表会に向けてスライド作成講習会、10月6日(木) 5・6限 (2時間) スライド作成、10月20日(木) 5限 スライド作成、10月27日(木) 6限 プレゼン練習 ※スライドデータは各班Classroomへ

☆11月1日中間発表からの流れ

- 11月10日(木) 5限、11月17日(木) 5限、11月24日(木) 5限、12月15日(木) 5限、←もう少し探究活動。
- 1月12日(木) 5限、1月19日(木) 5・6限 (2時間)、1月26日(木) 5・6限 (2時間) ←年が明けたらまとめ・スライド完成・プレゼン練習
- 1月31日(火) 5・6限 (2時間) 学年内発表会、2月2日(木) プレゼン練習・まとめ冊子原稿完成、2月4日(土) 成果発表会

☆令和3年度TR成果発表会【令和3年2月5日(土)】

『食べたものから食べられるものへ』

1班 岡本航・先原紫悠・柴山智暉・中山大暉

アウトドア活動の一つとして、バーベキューをすることになり、キャンプ場ではなくメンバーの家の庭を借りてしました。

楽しい時間を過ごした中で、
・出てきた生ゴミや灰、
・購入してあまった炭で何かできることはないかと考えました。



キャンプで出た、
生ゴミと炭をつかって
何かに活用できないかと考えました。



農業に活用してみよう！

アウトドア活動の一つとして、バーベキューをすることになり、キャンプ場ではなくメンバーの家の庭を借りて実施したし。楽しい時間を過ごした中で、出てきた生ゴミや灰、購入してあまった炭で何かできることはないかと考えた。

1班は全員、食農生産科なので、キャンプで出た生ゴミと炭をつかって、農業に活用できる方法を考えてみた。

炭の 効果



- ・遠赤外線効果
- ・調湿効果
- ・消臭効果
- ・抗菌効果
- ・吸脱着効果 ……など

炭には、様々な効果がある。炭にすることで土中の通気性や排水性、邪魔な雑菌の繁殖をふせぐことなど良い効果があることを調べていき、その効果がわかってきた。



プランターにピオラを植えて、今のところ問題なく育っています。

プランターに土と作った炭とを混ぜ合わせピオラを栽培している。今のところ、問題もなく、炭も植物の成長の邪魔にはなっていないようだった。

今後は、
生ゴミで堆肥作りに挑戦してみようと思います。



灰の使い方、炭の活用方法がわかってきた。炭の効果などを調べているときに生ゴミの活用方法についてインターネットで出てきたので、次は、バーベキューや家庭で出てきた生ゴミでたい肥を作りたいと思います。

今回の探求での SDG'S



今回のTRでSDG'Sでは「12」と「15」があてはまる。料理をつくり、そして食品をつかってそのあとに処理をする責任があると思った。また、炭や灰は植物を栽培するのに有効な活用方法だということがわかり、森や山にも活用できるかもしれないと感じた。

■関わった人たち

先原家(今回のTRに場所を提供していただいた)

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(岡本航)</p> <p>①実際にキャンプをしてみて、今まで考えていなかったが思った以上にゴミが出て、このゴミをただ処分捨てるのではなく、他のことに利用できないかをみんなで考えて、実験をすることができた。普段考えないことや気づかないことを意識して考えるようになった。</p> <p>②今回の活動を通して、色々なゴミや使われなくなったものでも、形を変えて再利用できるのではないかという考えを持てるようになった。自分が何気なく捨てているゴミに対して意識して仕分けたり、処分するようになった。インターネットで出ていることを実際にやってみて、炭などに興味を持つことができるようになった。</p> | <p>(先原紫悠)</p> <p>①自分の家を利用して、メンバーとキャンプをした。そこでゴミが思っていた以上に出ることがわかった。残った炭などが目についたので炭を作ろうと思う。竹炭について自分が思っている以上に有用性があることがわかった。自分たちで農業で実際に使われている物を作ることができると気づいた。</p> <p>②炭ならどこにでもある木で作ればよいと思っていたが、実際に炭を作る工程で農業効果のある炭を作ろうとみんなで考えることができた。竹炭の排水性や通気性などの性質が、土壌の改善に効果があることや、養分保持能力などの性質があることを知ることができた。</p> |
| <p>(柴山智暉)</p> <p>①キャンプをして出た生ゴミと余った炭は使えないと思っていたが、灰はアルカリ性なので、酸性気味になった畑にまいて、中性にできることがわかった。生ゴミも堆肥にできることも知ることができた。</p> <p>②今回自分たちで炭を作ってみて農業に活用できることがわかり、自分はガーデニングを趣味にしているので、今回の経験を活かして、身近に発生する捨てるものの再利用を考えるようになった。さらに、もっとコスパの良いやり方はないかと調べるようになったり、考えながら生活するようになった。いろいろな問題を考えて、実験し、実証することが楽しくなった。</p> | <p>(中山大暉)</p> <p>①キャンプをして出たゴミを再利用して出てきたゴミはまだ使えるのではないかと感じた。その気持ちから今回のTRについて、メンバーで考えて、再利用を考えた結果、炭作りを試みることにした。この経験から食農生産科なので農業について活用できることを知ることができた。</p> <p>②TRの発表をして、今まで人前で話すことが苦手だったが、まとめたものを人前で発表することで、少し自分自身に自信を持つことができたと思った。炭を自分たちで作れたことで、今回は炭だったが、それ以外のものでもできるのではないかとチャレンジする気持ちが持てるようになった。</p> |

【担当教員 永田貴久 講評】

キャンプを通して、その中で出てきたゴミや廃棄物を活用できないかと考えた活動でした。その中でもキャンプの必需品とも言える炭に着目し、その活用方法を考えることができていました。炭作りを体験してかなりの量の煙が出てしまいましたが、ちゃんとした炭を作ることができていました。また、炭の性質を調べ、土の中に混ぜて活用しやすいように細かく砕いていくなどのアイデアも出すことができていました。炭以外にも普段の生活の中から排出されるものを活用するアイデアや実際に実験を重ねていけると良いと思うので次のTRへと繋げてみてください。

『キャンプに行ってみて気づいたこと』

2班： 松岡悠太・田口凰我・難波李企・東院河成



キャンプは楽しいがそこからゴミがたくさん出ることを知った。このことからTRでキャンプ場で魚を釣ったり、テントを張ったりなどの活動をしてゴミが実際に出ることも分かった。ここから今後の課題（生ゴミ問題）など解決しようと考えた。



キャンプに行ったことに対する考察や気づきでキャンプのところで釣った魚を食べた後に出てくる骨や生ゴミを再利用できたり、魚を焼くことに使った木炭から出た残りの炭を再利用できることがないかと考えた。

成果・今後の課題(未来)

- ・魚の骨
- ・炭

肥料にして使う
出汁を取るなど

消し炭を乾燥させて炭として再利用
天日干して消臭剤として使うなど

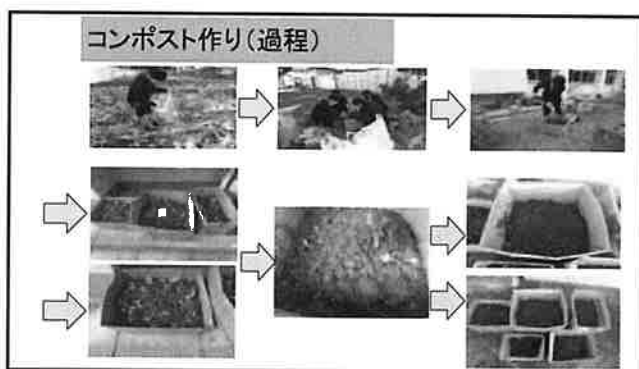
キャンプで出たゴミを再利用することで
山の廃棄物を増やさずに済む!!!!

魚の骨は肥料や出汁、炭は再利用や消臭剤にすることで、廃棄物を増やさずに、再利用することができます。



キャンプで出た骨や生ゴミを再利用するためにコンポストを作ってみました。

材料は米ぬか、初殻くん炭、ピートモス、生ゴミなどを使った。



食農生産科にある畑で、捨てる部分もらい、コンポストを作成した。作成したコンポストを毎日混ぜた。生ゴミが完全に無くなれば、完成。



2班は塩釜キャンプ場でキャンプをし、食べた時に出る生ゴミの再利用について考えたので、それを利用して野菜を育てたい。コンポストを作ることで食品廃棄物を再利用することができる。SDGsに関連するのは2・飢餓をゼロに、12・つくる責任つかう責任、15・陸の豊かさを守ろうに関連付けることができた。

■関わった人たち

塩釜キャンピングヴィレッジのスタッフのみなさん、松岡家(材料の提供)、岡本善博先生、清本敬二先生(コンポスの材料提供、作成指導)、山口湮駆くん、森数要也くん、柳田智行くん、屋敷大陽くん(一緒にコンポストを作成)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(松岡悠太)</p> <p>①TRを通して班のみんなと協力して活動する楽しさや難しさを学ぶことができた。この活動を通して、自然を感じながらキャンプを楽しむことができた。その中で生ゴミなどが出てきて、それを活用して再利用することができないのかをみんなとアイデアを出し合って考え、実験することができた。活動をまとめて発表することで、うまく発表するにはどうすれば良いか考えることもできた。</p> <p>②物事に対してあまり積極的に動くことはできていなかったが、TRを通して自ら進んで考えて行動や活動などが積極的にできるようになった。自分で考えてスライド作成をするのがとても苦労したが、発表や班のみんなと活動することで、協力することの大切さと自分に自信がついてきて、成長を感じることもできた。</p> | <p>(田口鳳我)</p> <p>①TRの活動を通してキャンプで自然を感じみんなと協力することの大切さや重要性を感じることができた。活動では、ファイヤースターターでの火起こしや、その火でメスティンを使い米を炊いてみたりと、キャンプで使う道具の使い方を体験を通して学ぶことができた。またキャンプ場に行くことでキャンプの魅力や真庭市の自然の豊かさや活用方法を改めて考えたり、知ることができた。</p> <p>②TRの活動を通して今まで気にもしなかった生ゴミなどの問題点を見つけ、更にその問題を解決するための方法などを積極的に考えることができた。また自分達が行った活動の情報や写真を整理し、スライドを作成して、発表することで情報を整理する力とコミュニケーション能力を身につけることができたと感じた。</p> |
| <p>(難波李企)</p> <p>①今回のTRを通して、みんなと協力することの大切さや、自分だけではやらなかったと思う活動に積極的に参加していくことができた。キャンプをした後、生ゴミの再利用について考えて、実際にコンポストを作ってみたら、普段は捨てている野菜の部分を利用したり、活用できることがわかった。</p> <p>②キャンプは、あまりやったことはなかったが、実際にキャンプをすることで、キャンプのことやその魅力がわかった。一人では、絶対にできないことも、みんなと協力することで、スムーズに出来たので、良かったと感じた。自分は、コミュニケーションをとることがすごく苦手だったが、少しコミュニケーションをとれることが出来るようになって良かった。</p> | <p>(東院河成)</p> <p>①キャンプで出た廃棄物をどうすれば再利用することができるかなど、普段考えないことを考えて、その必要性に気づくことができた。また、キャンプ自体あまりやったことがなく不安だったが、みんなと協力して取り組むことができて、とても楽しかった。</p> <p>②TRでキャンプに行ったり、コンポストを作ったり、普段しないことができたとともに、その方法を考えたり、実行することができた。体験したり、まとめたり、それを発表することは大変なものだと思っていたけど、みんなと協力しあえたから、スムーズにできることができた。また、コンポストについてあまり知らなかったが、今回のTRで色々なことを知れて、経験もできていろいろな技術が身に付けることができて良かった。</p> |

【担当教員 永田貴久 講評】

今回のTRを通して、食事の後に何気なく捨てている生ゴミを再利用できないか、または活用できないかをメンバーで相談しながら調べ、実際にコンポストの実験までたどり着きました。さらにメンバーだけではなく、多くの人から知恵をもらったり、手伝ってもらったりとメンバーだけでは乗り越えられなかった壁も、乗り越えることができたのではないのでしょうか。おとなしいメンバーですが、チーム一丸となって積極的な取り組みができていました。この経験をもとにいつもの生活の中から発見される課題に向かって、さらに探求を重ねてみてください。

「真庭の自然を体験して」

3班 中元亜祇 中山大夢 村上廊磨 山口丈

飯ごう炊飯

事前準備 メスティン(アルミ製で四角い形状のした飯盒のこと)に米と水を入れる

手順1 火を起すためにまずファイアスターター(火おこし機)を使い火をつける

↓

手順2 火種を作り木の枝で火力上げ

↓

手順3 煙が立ってきたら網をセットし事前に準備したメスティンをセットし炊く

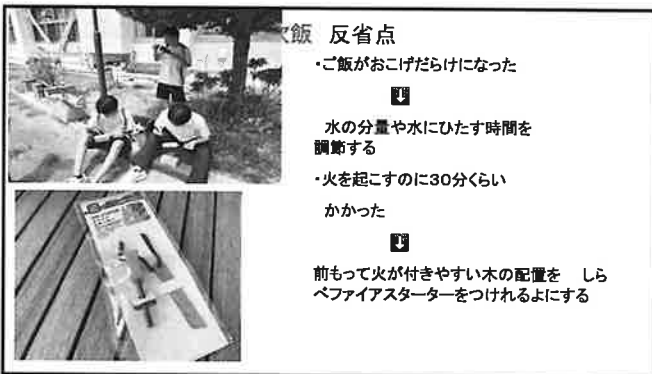


ワクワク

ファイアスターターのコツ 先端の固まった炭を削り勢いよく擦らせる とヒバナがでるよ

私たちは火を扱えるようになるために、飯ごう炊飯に取り掛かりました。飯ごう炊飯の手順はこのような感じでやりました。

最初は難しくかなり手こずりましたが、コツを掴めば簡単に火を起こせるようになりました。コツとしては、先端の固まった炭を勢いよく擦らせることです。みなさんもファイアスターターを使う機会があったら参考にしてみてください



飯 反省点

・ご飯がおこげだらけになった

①

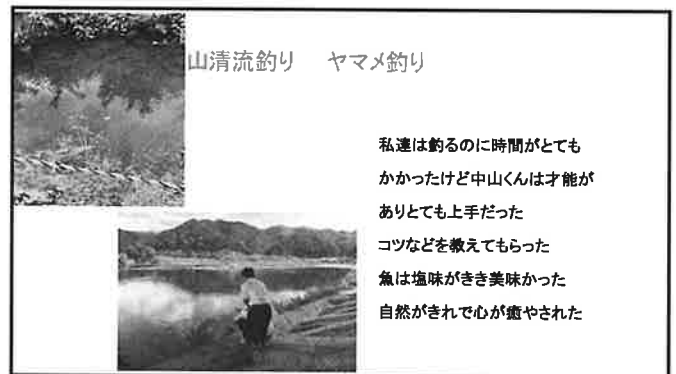
水の分量や水にひたす時間を調節する

・火を起こすのに30分くらい

かかった

②

前もって火が付きやすい木の配置をしらべファイアスターターをつけれるよにする

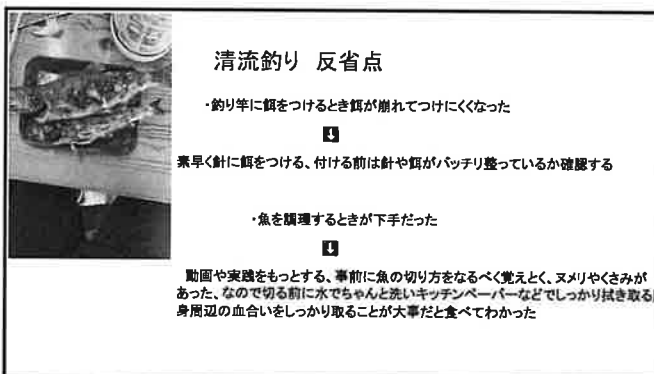


山清流釣り ヤマメ釣り

私達は釣るのに時間がとてもかかったけど中山くんは才能がありとても上手だった
コツなどを教えてもらった
魚は塩味がきき美味かった
自然がきれいで心が癒やされた

この飯ごう炊飯での反省点は、ご飯がおこげだらけになって、張り付いて食べれない箇所が多かったことです。水の分量や水にひたす時間を調節していこうと思いました。

魚影がたくさん見えていて、とてもワクワクしました。最初はとても難しかったけど、コツなどを教えてもらい簡単に釣れるようになりました。



清流釣り 反省点

・釣り竿に餌をつけるとき餌が崩れてつけにくくなった

①

素早く針に餌をつける、付ける前は針や餌がバッチリ整っているか確認する

・魚を調理するときに下手だった

②

動画や実践をもっとする、事前に魚の切り方なるべく覚えとく、ヌメリやくさみがあつた、なので切る前に水でちゃんと洗いキッチンペーパーなどでしっかり拭き取る 身周辺の血合いをしっかり取ることが大事だと食べてわかった

まとめ

・飯ごう炊飯

下準備をするのが大事、何回も繰り返すことで全員が火をつけるようになり釣りに行ったときにやるときは上手くい感じのおこげができた一回目の反省を生かし水の量を測った火のよくつく付け方は

1. 事前にかい中・大とサイズの異なる網を用意しておく

2. 網の小さいものから網にドラッグ網になるように網を掛けずにつけてなが火がついた

・釣り

竿の針や糸の付け方をしっかり覚え餌をつけるときはすぐにつけることが注意するとことわかった、ヤマメを割くときは動画を見ながらやったが内臓を取るときに全部取れてなく食べたとき苦かった。今回でどが割くのがむずいかわかったので次はできる、釣りのときには全員米がうまくけた

・真庭の自然を感じつつ自分たちで協力しあい改善点などをみつけ次に活かせることができた

何回もくりかえし実践していくことで失敗から学び成功することができた

自分たちで釣った魚は、今まで食べてきたどの魚よりも美味しかったです。反省点としては、魚を調理するときに下手だったことです。

私たちは、真庭の自然の豊かさを知ったことで、これからどうやって真庭の自然を守っていくのかを考えていきたいと思います。

■関わった人たち

旭川流域の漁業協同組合の方 中山大夢くんの家族

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(中山大夢)</p> <p>①初めてファイヤースターターやメスティンを使った自炊をしてとても難しかったがとても楽しいと思えた。釣りをして、川魚を初めて食べて新しい体験ばかりすることができた。発表会で質問をされたときに、解答までにか なり時間がかかってしまった。どんな質問にも答えられるように準備できるようになりた いと思った。</p> <p>②今まで積極的に動くという機会がなかったがTRを通して、積極的に動けるようになった。人前で発表するという勇気が身につい た。この経験から、真庭の自然を守りたいと 思うようになった。人の話を上手に聞くこと ができるようになった。これからはどんなこ とにも全力で取り組んでいきたい。</p> | <p>(中元亜祇)</p> <p>①思い通りにならない事もあったが、TRでの 体験を通して、仲間と協力をするこ とができるようになった。自分ができることを理解し、自分ででき ることをす ぐに行動に移したりすることができ、自分自身、成長することができたと思 う。</p> <p>②自分の意見を積極的に伝えられたり、みんなを率先して導くことができるようになり、活 発に行動することができた。アウトドアはあ まり興味なかったが、TRを進めていくうち に楽しさや面白さがわかり、アウトドアの知 識や技術を高めることができた。この一年を 通していろいろな力や知識が身に付き、TR を学んでいくうちに真庭の自然の良さや魅力 に興味を持つことができるようになった。</p> |
| <p>(山口丈)</p> <p>①今まで、外で自分たちでご飯を作ることを やったことがなかったので、新鮮味があっ てとてもいい経験ができた。失敗をすることで 次への課題がみつかることも分かった。</p> <p>真庭は思っていたよりも、自然が豊かで魅力的なところだということを知ることが できた。</p> <p>②TRを何回もしていくうちにメンバーとの協調 性が強まっていき、チームとしてのレベルが 上がっていった。自分で考えて実行していこうと思えるようになった。話し合いの場では 積極的に話しかけられるようになった。TRを 通して、表にたって話す自信がついた。改め て真庭市が大好きということがわかったので 大切にしていきたいと思った。</p> | <p>(村上廊麿)</p> <p>①真庭の自然体験をテーマに、釣りや米をメスティンで炊いたりしてみた。普段の生活では、ガスや電気を使って料理をしているが、今回はメスティンを使い米を炊き、火をおこ して釣った魚を焼いたりしてみた。普段しな いことなのでとても新鮮に感じ、生きていく 技術が身に付いたと感じた。</p> <p>②自分から自発的に動いて計画をたてるこ とができ、それを実行できるようになった。また 釣りなどの自然やアウトドアを体験し、真庭 の自然に興味を持つことができ、この自然を 守っていききたいと感じた。この経験から失敗 をあまり恐れないようになった。チームとし て活動したので、場を和ませる技も身につい たと感じた。</p> |

【担当教員 永田貴久 講評】

普段当たり前のように使っているガスや電気を使っての料理も、今回の体験を通して如何に便利な環境下で生活しているのかが実感できたのではないのでしょうか。ガスや電気がない時代を生きてこられた世代は、自分で食品を探したり、捕まえたり、栽培して料理をしたり、火を熾してお風呂を沸かしたり、暖をとる生活をしていました。今の私たちの生活環境はとてもいろいろな意味で豊かになってきました。皆さんが経験した何もない自然の中での生活は、時には新鮮さを感じるかもしれませんが、毎日続くと楽なことではありません。そういう意味では真庭の自然を体験するとともに、生きていく力を身につけることができたと思います。

S すぐできる D だれでもできる G がんばれば s っす

4 班 野島聡太 武田雄大 森脇悠斗 福山大翔

4人みんな経営ビジネス科
⇒ ビジネス+アウトドア
⇒ キャンプ場経営




JR姫新線廃線の危機!
⇒学校全体で署名活動
⇒TRでぼくたちにできること
⇒サンエー美工河本さんから
追分駅周辺施設の活用の話
⇒追分駅周辺活性化で姫
新線を盛り上げよう!

1. 前半は、みんなでアウトドアの活動に取り組み、4人全員が経営ビジネス科であったことから、キャンプ場経営について理解を深めていこうと真庭市久世にある高仙の里よのキャンプ場を訪れた。後半は、サンエー美工河本さんよりお話をいただき、追分駅周辺施設の活性化について取り組み始めています。

取組1でうまく行かなかったこと

最初はものの使い方や段取りなど、先生に聞きながら苦戦しました。他にもご飯を炊くとき水を入れて炊くのに水が多すぎてご飯がべとべとになってしまいました。そこで2回目からは水の量を減らすなどの試行錯誤をしてみんなで頑張って調節などをしました。




2. アウトドア活動では、道具の使い方や段取りなど、先生に聞きながらも苦戦した。メスティン炊飯では、水の量を間違えて米がべとべとに。2回目からはその失敗を生かして試行錯誤を繰り返して徐々にメスティン炊飯のスキルを高めることができた。台風後によるキャンプ場を訪れ枝木を拾い集めた。

取組1での
学び、気づき




- ・諦めなければ、成功する
- ・周りをよく見れば、プラスになることが多い

3. 失敗するとあきらめてきた自分たちだが、試行錯誤しながら上達できた経験から、あきらめなければいつか成功すると学んだ。よのキャンプ場では、拾った枝木をごみとして捨てるのではなく、利用客に焚火をして楽しんでもらうという話を聞き、見方を変えればマイナスのものがプラスになると学んだ。

取組2
姫新線廃線の危機
⇒全校生徒署名活動
⇒サンエー美工さんからの誘い
⇒姫新線追分駅周辺活性化!!

⇒追分駅視察
何が出来るか?
・宿泊?(サイクリング客)
・ラクガキ消し?
・河内小とのコラボ?
・食農生産科の★プランター




4. 夏に姫新線廃線危機の報道があり、全校生徒で署名活動をしたが、追分駅周辺施設に関わりのあるサンエー美工河本さんからお話をいただき、駅周辺の活性化に取り組むことになった。河内小学校でも同様の取組があり、河内小を訪れたり、追分駅を訪れたりして、多様な方々との交流が広がっていった。

取組2で大変だったこと、失敗したこと

- ・最初は多くの人にどのように使ってもらえるかなどのアイデアが浮かばなかった。

→そこからの学び、気づき

- ・駅の掃除→地域の人との協力で何かできないかと、アイデアが出た。




5. 追分駅周辺の活性化に向けて自分たちに何ができるか最初はイメージも湧かなかったが、実際に追分駅を訪れて落書きを見るとそれを消していこうと美化活動を思いついたり、地域の方との交流を通して真庭市のサイクリングと結びつけることを考えたりと、アイデアが出始めた。

2年生になったら

今行っている姫新線廃線への力を強化して、廃線の危機を少しでも減らそう

15 誰の誰かを守る

1年間の感想

- ・ビジネスはお金だけじゃない
- ・やってみるが大事・発言に自信
- ・仲間がいるから楽しい

12 つくも責任 つかう責任






6. 姫新線廃線危機は自分たちだけでなく多くの人にとっての問題なので、2年生になっても継続してこの問題解決に取り組みたい。この1年間の経験を活かして、班メンバーで協力し合って、粘り強く、いろんな人との交流を通してこの活動に取り組むことを心がけたい。

藤田亮太さん【高仙の里よのキャンプ場管理人】・稲岡さん【姫新線追分駅の施設管理人】・河本美絵さん【サンエー美工有限会社】・河内小学校の6年生児童と先生方

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化 (どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 野島 聡太)</p> <p>①姫新線廃線の危機について聞き、最初は自分たちには何もできないと思っていたけれど、追分駅を実際に訪れて自分の目で見ることで、どうやって利用してもらうかなどを考えることができた。そこで学んだのが、まずは挑戦・やってみることが大事だということや行動を起こすことの大切さです。</p> <p>②姫新線廃線の危機に何ができるかというスケールの大きな話に最初は現実感がなかったです。それが、現地を訪れたり、河内小学校コミュニティ・スクールに参加したりして、地域の方々や小学生と交流していくうちに、自分たちにも何かできるはずだと自信を持つことができるようになりました。</p> | <p>(氏名 森脇 悠斗)</p> <p>①追分駅を実際に訪れて、自分たちができることについて考えたときに、真庭市のサイクリングのことと結びつけて、サイクリング客の宿泊所にはできるのではないかと考えたり、食農生産科の活動と結びつけて花のプランターを追分駅周辺に飾るといいのではないかと真庭市や学校の取組と結びつけて考えたりすることができた。</p> <p>②目の前の課題と、自分の住んでいる地域や通っている学校と結びつけて考えることが大きな学びで、それは班のメンバーとの交流から学んだこと。なので、友達と協力して活動することが自分だけではできないことを成し遂げることができるポイントなのだと学んだ。</p> |
| <p>(氏名 福山 大翔)</p> <p>①分からないことに対して、そのままぼーとしていたり、先生にすぐに聞いたりしていたけど、まずは班の中で自分たちで考えることが大切だと学んだ。班のメンバーや地域の方々と交流して自分にはない考えを知ることができた。</p> <p>②わからないことだらけだったけど、失敗や試行錯誤を繰り返してアウトドア活動に慣れていくうちに、徐々に自分の考えを伝えることができるようになった。それを班のメンバーがちゃんと聞いてくれたので、自分の意見を自信をもって言うことができるようになったと成長を感じています。今後いろいろな人に声をかけて、コミュニケーション能力を高めていきたいです。</p> | <p>(氏名 武田 雄大)</p> <p>①ビジネスはお金もうけだけではなく、お客さんのことを考えることも大切だと学んだ。姫新線が廃線になることで困る人がたくさんいることがわかったので、僕達でどのようにしたら追分駅を盛り上げられるか・活用してもらえるかなど自分たちの問題として受け止めて考えていくことができました。</p> <p>②アウトドア活動のメスティン炊飯では水の量を間違えたり、毎週毎週なにか忘れものをしたりとトラブルがいつもあったけど、友達が忘れたものを余分に持って来てくれて助かって、やっぱり友達はいいなあーーと思いました。失敗したことも次回に活かせるようになって毎時間自分の成長を感じることができました。</p> |

【担当教員 中山順亮 講評】

アウトドアの活動では、自分のことだけでなく他の班員のことを考えて準備してくるなど、自分たちで考えて行動することができました。キャンプ経営について話を伺いに高仙の里よのキャンプ場藤田さんのお仕事をお手伝いさせていただいたときに、拾った枝木を利用者の方に焚き火の材料にしようという『ゴミにしまいそうなものでも考え方一つでお客様に喜んでもらえる価値あるものになる』という貴重な学びを得ました。サンエー美工河本さんから、追分駅周辺施設の活用についてお話をいただき、廃線危機にある姫新線を自分たちでなんとか盛り上げようとする追分駅活性プロジェクトはまだ始まったばかりです。ぜひ来年度アイデアを形にしていきたいと思います。4人のそれぞれのいいところを出し合って、苦手なところをカバーし合って、いいチームだなあと思います。

S 自然の世界へ D 出かけて G 学習している s 生徒たち


5班 稲田涼佑 山口愛乃 山根絵菜 吉田百合香 山口湮駈

活動の目的・きっかけ
アウトドアやキャンプを体験して自然の良さを身近に感じたい。



1. 私たちの活動の目的・きっかけは、アウトドア活動やキャンプを体験して、自然の良さを身近に感じることです。このスライドにある画像が、私たちが実際に使用したアウトドアの道具で、100均でそろえました。

取組①
2022年 1学期~2学期前半
・メスティンで炊飯
・自分たちでおかずづくり



失敗からの学びや気づき

| 失敗 | 学び・気づき |
|---------------------------|----------------------|
| ・水量のミスで二度手間になった。 | ・炊飯器と違い思った以上に苦勞した。 |
| ・準備不足、コミュニケーション不足で作業に苦戰した | ・あらかじめ米の量を計り、目印をつけた。 |

2. 前半はメスティン炊飯でした。水量を間違えて固形燃料一つではご飯が炊けないという失敗もありました。火をつけるのもひと苦勞で、家庭の炊飯器との違いに苦勞しました。お米一合とそれにあつた水量がわかるようにボトルに2つの線を引く工夫をしました。

取組②
2022年 10月6日(木) もみじ公園キャンプ場
・管理者の塩津さんのお話を聞いた。
・近代的なものをあまり設置せず自然をより感じられた。



2022年 12月11日(日) 再び訪問
・塩津さんの仕事の手伝いをしました。
・メスティンでご飯を炊いておにぎりを作りました。



3. 秋に、もみじ公園管理者の塩津さんの話を聞きに行きました。最近では若い人・ソロキャンプが多いことをや、お客さんの楽しそうな笑顔を見ることが仕事のやりがいだと伺いました。冬に再び訪れ、ゴミ拾いのお手伝いをしました。昼食はこれまでの活動を活かしてメスティン炊飯→おにぎりを作りました。

取組②
失敗からの学びや気づき

| 大変だったところ・失敗 | 学び・気づき |
|---|--|
| ・キャンプ場でゴミ拾いをしたら瓶やペットボトル・三角コーンを拾った。
・炊飯では風が強く、火がちゃんとつかなかった。 | ・ゴミをポイ捨てしたら片付ける人が困ることに気づいた。
・風が吹いているときは、風が火を消すことがないように風上に立つことに気づいた。 |

4. キャンプ場にはペットボトルや瓶などがたくさん捨ててありました。ゴミをポイ捨てしたら片づける人が困ると、自然環境が悪くなることに気づきました。メスティン炊飯では、風が強く火がちゃんとつけられなくて困りました。みんなで体を寄せ合つて風をブロックして火をつけることができました。

キャンプ場での学び・発見
・塩津さんはお客さんと良く会話をされていた。
・キャンプ場の管理は広い範囲の草刈りやゴミ拾いを行い心地の良い場所にするは大変だと感じた。



5. 塩津さんと利用客の方が話されている様子を見て、コミュニケーションの大切さを実感しました。キャンプ場管理の仕事は、広いエリアをゴミ拾いしたり草刈りなどをしたりと、時間も体力も必要で、さらに季節によっては扱つたり寒かったりと大変そうでした。

まとめ
・成果
自然 → 風が強く火がつかなくなつたりと思ひ通りにはいかないもの。だけどやっぱり癒される！
・これからの課題・目標
体験して感じたことを自分の意見や思いにして伝える。



11 自分たちがいるまわりには
15 誰かのために
・SDGs
自然の厳しさ・良さに気づき、真庭市の自然の素晴らしさに気づくことができました。

6. この活動を通して、風の強さに苦しめられたり、冬の寒さに震えたりと、自然の厳しさを感じてきましたが、やはり自然は心を落ち着かせてくれるいいものだと感じました。この豊かな自然に囲まれた真庭で多くの人が幸せに暮らしていけるように自分たちにできることを今後も見つけて実行していきたいです

塩津かずとしさん【北房もみじ公園キャンプ場管理者】

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化 (どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(氏名 山口潤介)</p> <p>①始めの頃は目的が明確でなく何をしたらいいのか分からないことが多かったですが、自分たちで計画を立て、自然の良さを感じることを目的にして、外部と連絡を取り合いキャンプ場で空気や季節の色を感じて、管理されたものも自然の中にも含まれていると気づきました。</p> <p>②キャンプ場に行って自然に対して視野が狭かったが、自然についてよく調べるようになったり、季節による植物の変化や空気の流れのような身近な自然に気付けるようになった。</p> | <p>(氏名 稲田涼介)</p> <p>①私達の活動の目的は自然の良さを感じることで、最近普段の生活の中で自然の良さを感じるようになっていて、TRを通して自然にふれてみて、私にとっての自然はとても空気がすんでいてとても気持ち落ち着くものだと改めて気づきました</p> <p>②TRを通しての私の変化は普段の生活の中でも自然を感じる機会が前に比べて増えました。</p> |
| <p>(氏名 山口愛乃)</p> <p>①私達の活動の目的は自然の良さを身近に感じたいというもので、実際にアウトドアやキャンプを体験しました。体験したことを通して私は、自然と言われると花や風など人それぞれに思い浮かべるものが違い、空と雑草のように大きいものから小さいものまで、幅広く、私達の生活を彩ってくれる偉大なものなのだと学びました。</p> <p>②私は今まで自然とは心がリフレッシュされて気持ちが落ち着くものだと思っていましたが、TR活動を通して自然は良さだけでなく、風が強くて火がつかなかった経験から、『思い通りにいかないもの』なんだと自然への思いや考え方が変化しました。</p> | <p>(氏名 山根絵菜)</p> <p>①私達の目的は自然の良さを身近に感じたいと思い、実際にアウトドアやキャンプを体験しました。体験したことを通して私は、紅葉がきれいだと思いました。季節で紅葉の綺麗さが変わって面白くなって思いました。また、キャンプ場に行って花などを見て懐かしさを感じました。自然は懐かしさや心を落ち着かせる力があることに気づきました。</p> <p>②私は小さい頃よく自然に触れていたけど、年々自然に触れることが少なくなって、TRを通して久しぶりに自然に触れて懐かしさを感じました。これからも自然に触れていきたいと思いました。</p> |
| <p>(氏名 吉田百合香)</p> <p>①キャンプ場でゴミ拾いをさせてもらった時に、瓶や空き缶がたくさん落ちていました。他にも三角コーンが落ちていました。ゴミをポイ捨てすると、拾う人が大変になると、自然環境が悪くなることに気づきました。炊飯では、風が強くて火がちゃんとつかなかったので苦戦しました。風が吹いていたら火がすぐに消えてしまうので、風が火に当たらないようにみんなで協力してブロックするものを探しました。</p> <p>②小さい頃私は、自然によく触れていましたが、年々自然に触れることが少なくなっていたので、TRで自然に触れたことで子供の頃が懐かしく感じ、他にも自然に触れたら、楽しさや安心感がありました。</p> | <p>【担当教員 中山順充 講評】</p> <p>男女混合の班構成で、活動初期はメンバー同士でコミュニケーションもうまくとれませんでした。ですが、一緒にアウトドア活動に取り組み、失敗を繰り返したり、上手く行かないことなどを乗り越えたりしていく中で、自然に声を掛け合えるチームへと成長できたと思います。アウトドア活動から『自然』をキーワードに、真庭市北房のキャンプ場管理をされておられる塩津さんにお話を伺い、お客様にいろいろとあげるだけがサービスではなく、あえて『しないままにしておくこともサービス』だという深い学びを得ることができました。もみじ公園を二度にわたって訪れ、成長を遂げた証として、成果発表会に向けた準備や、まとめ冊子完成に向けた取組では5人全員が主体的に動くことができ、ひそかに感動しました。</p> |

S 消化に良いつて D どういうことか

G 学校で学んだことを S すみそ工場見学で理解を深める！

6班 竹下美羽・藤村百花・柳本蒼妃・山本菜穂

活動のきっかけ

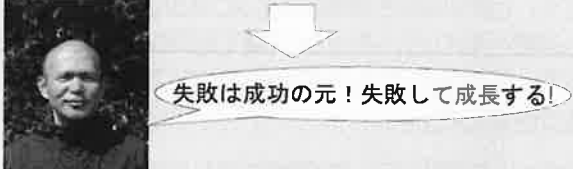
学校では座学 → 地域の人と交流して学ぶ



1. ここ数年間、コロナの影響で教室での座学が多く、とにかく外で活動したいと思い、アウトドア活動に取り組むことにした。さらに、後半では、人との交流を活動に取り入れることを考え、地域に積極的に出ていくことを考えた。


うまくいかなかったこと、反省点

何をしたらいいんだろう、失敗したらどうしよう



2. 自分たちが主体となつての活動が初めてだったので不安が強く、なかなか活動に踏み切れずにいたら、『どんどん失敗して！それが成長につながる！』と先生が背中を押してくれる声掛けをしてくれた。

看護と地域をTRと関連付けるため
体にいい真庭の食材を調べ、
醍醐の里(森本さん)を訪問




「体に良いつて何かな？」
↓ **消化器**

消化にいい地域の食べ物を調べよう！

↓


85s(HACCOS)さんに話を聞きに！



3. 看護と地域交流と視点をTRに盛り込んで、体に良い真庭の食材を調べに、道の駅醍醐の里を訪問した。『体に良い』は『消化に良い』と考えて活動することに決め、真庭市で発酵食品に関わる人たちの集団85's(ハッコウズ)に話を伺いに行くことにした。

85sのリーダー
河野酢味噌さんから学んだこと

- 発酵食品は微生物による分解が進んでいる
↳ 分解(消化)に使うエネルギーが少なく済む
- 味噌、ヨーグルト、甘酒など
↳ 赤味噌、白味噌、クリーム色の味噌
- お酒の飲みすぎ⇒味噌汁が良い
必須アミノ酸がある
- 温度、湿度は発酵に関わる
↳ 梅雨の時期は温度や湿度が高く、発酵しやすい



4. 85'sのひとつそしてリーダー的存在の河野酢味噌製造工場を訪問した。発酵食品は体内で行われる分解がすでに行われているため、体に負担が少なくおなかにやさしい。種類も豊富。温度・湿度など気をつけないといけない。


初めて知った、驚いたこと

減塩しすぎると発酵でなく腐敗になってしまう
→ 塩には殺菌作用があるから

納豆菌は空気中にある。繁殖力もとても強い
→ 乳酸菌やイースト菌などの繁殖に悪影響を与えてしまう可能性がある

発酵をすると二酸化炭素がでる
→ 味噌などの蓋に穴が空いている

甘酒は妊婦さんや子供も飲める ※米麹が原料の場合
→ アルコールがなくブドウ糖が入っている。「飲む点滴」
↳ 脳の唯一のエネルギー元



5. 河野さんの話の中には、看護の授業で学習した内容がたくさん出てきて、自分たちが座学で学んできたことが身近なところでつながりあっていることに感動した。あらためて看護の学習意欲が高まることになった。

成果、今後の課題


成果：発酵食品の微生物によって、分解に使うエネルギーが少なく済むので身体に優しい！

課題：自分の家族に発酵食品が消化に良いことを伝えて作ってあげる
発酵食品以外にも消化に良い食べ物を見つけた

まとめ、感想、SDGsアイコン

| | |
|------------|---------------|
| 話されていた | ⇒ 褒められるようになった |
| メンバーに話していた | ⇒ 率先して行動 |
| 決めてもらっていた | ⇒ 自分たちで提案 |

必要なことを考えて自分から提案し、みんなで実行する。
一人ひとりが経験し、自信を持って行動に移せるようになった。



6. 1年間の活動を通して、探究活動とはどういうものか理解を深めることができた。周囲に依存しすぎず、自分たちで考え、自分たちで調べ、自分たちで行動に移すことができるほど成長したと感じている。

■関わった人たち (担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願ひした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

河野さん【河野酒粕味噌製造工場】、森本さん【道の驛厩騒湖の里】

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(氏名 竹下美羽)</p> <p>①甘酒は、酒粕を原料にして作った場合はアルコールが含まれているので飲めない人もいるけど、米麹で甘酒を作ることによってアルコールを含まない甘酒ができるので、子供や妊婦さんでも飲めるということが分かった。また、脳の唯一のエネルギー源であるブドウ糖が含まれているので飲む点滴と言われるほど体にいいことが分かった。</p> <p>②最初はどの行動したら良いのかが分からず、先生やメンバーに頼ってばかりだったけど、何をすればいいのかが自分で考えて積極的に行動するようになった。</p> | <p>(氏名 藤村百花)</p> <p>①味噌汁につかう味噌には、皮膚や臓器のもととなるが体内で合成することができない物質の必須アミノ酸が含まれている。なので味噌汁を飲むことで必須アミノ酸を摂ることができ、皮膚や内臓を強くしてくれるので、身体を強くしてくれるということがわかった。</p> <p>②最初は行動が遅かったり、先生や友達に頼ってばかりだったりしていた。けど、この活動を通して、状況を見ながら素早く動くことや、自分から積極的に行動することができるようになった。</p> |
| <p>(氏名 山本菜穂)</p> <p>①発酵食品はもともと微生物よっての分解が進んでいるので、食べたときに胃で行われる分解や消化を少ないエネルギーで行えることが分かった。エネルギーが少なくすむことで、胃に負担がかからないので、お腹に優しいと分かった。</p> <p>②活動の際に、最初は誰かが始めてくれるのを待っていて、自分から積極的に動くことができなかった。だけど、TRの活動を通して、人が動くのを待つのではなく、自分の意見を持ち、自分から意見を伝えて自分から動くことができるようになった。</p> | <p>(氏名 柳本蒼妃)</p> <p>①発酵には温度と湿度が深く関わっているから、毎日変化する温度や湿度に合わせて発酵のしかたを工夫することが必要だと分かった。また、梅雨の時期は発酵しやすいと同時に菌も繁殖しやすいので、場合に依じた対応が必要と分かった。</p> <p>②今までは河野さんへの電話や、訪問した際の質問など、したことがないことに対して自信がなく、班の中の他のメンバーが名乗り出るのを待っていた。だけど自分から拳手して自発的に動くことができるようになった。勉強したこととの結びつきを重視するようになった。</p> |

【担当教員 中山順充 講評】

中山が担当した3つの班で、最初は叱られてばかりの班でしたが、最後にはほめられてばかりの班へと成長しました。さて、その変化のきっかけはいつの何だったのでしょうか？アウトドア活動で食事作りを繰り返していくうちに、少しずつ自分たちのやりたいことを自分たちで考えて準備もしてできるようになりました。『繰り返しの経験が自信につながる』ということでしょう。後半の活動を考えていくときに、最初は『身体にいい食べ物』という漠然としたテーマだったのが、『身体にいいとは？』⇒看護で学んでいる『消化によい＝身体によい』ととらえることにしよう、『食べ物』⇒地域と結びつけて『真庭の食べ物』ととらえることにしよう、自分たちの日常の学習内容や自分たちの暮らす地域と結びつけながら、抽象的だったテーマを具体的にしていけることができました。『自分の身近なことと結びつけてものごとを具体的に理解していく』ということもポイントでしたね。道の驛厩騒湖の里や河野酒粕味噌製造工場を訪れた際には、目の前でどんどん成長していく4人を見て、びっくりして興奮しました。それぞれの訪問から学校に帰ってきた中山は、ほかの先生方に4人の成長・変容について興奮してお話したのでした。ただ褒められたから伸びるのではなく、叱られていた先生から褒められるという経験が、大きな自信につながったのではないかと思います。なんでもかんでも褒められても正直そんなにうれしくないでしょ？叱ってくれる人が褒めてくれるとうれしいよね。

『竹林を整備して利用しよう』

7班 金崎心哉 河島遥輝 森数要也 柳田智行

<活動のきっかけ>

学校の裏山であるしめ山の一部を所有する作陽印刷株式会社の方から話をうかがった。

猪が出没していたころは、猪が筍を食べて竹の増える量がある程度抑えられていた。

現在は猪を捕まえたら逆に竹が増え、処理に困っていることが分かった。

竹を減らすためになんとかしないとイケない!



登下校中に荒れていた竹林を目にしており、どうにかあの竹を利用して活動ができなにかと思ったことが今回の活動のきっかけになりました。竹林を持っている方を探したところ作用印刷工業株式会社の片岡さんにお世話になることになりました。活動の方針が決まりました。

<竹林の整備とそうめん流し>

・竹林整備では竹を間引く事をしました。

・間引いた竹を利用してそうめん流しをしました。

→竹の特性を学ぶことができました。(堅さ、耐水性、利用法等)



竹を切る作業ではいろいろな大変な事がありました。竹林では蚊が多く大変でした。竹を切る際は傾斜がキツイので切るのが大変でした。そうめん流しでは竹をきれいに割るのが大変でした。

<竹箒作り>

そうめん流しで使わなかった笹を使って竹箒を作りました。

<工程>

- 1 葉の落ちた笹を集める
- 2 針金で笹を縛って型をつける
- 3 束の中に柄を刺して縛る
- 4 落合小学校に持っていった



竹箒を作る際に必要なものはそうめん流しで使った竹から発生した余りの部分を使って竹箒を作りました。竹箒を作るとき広からないように縛って形を作るのが大切でした。作った竹箒は近隣の小学校に寄付しました。

<焚き火によって生まれた焼き芋と炭の違い>

違いを確認するために取ってきた竹と木材を燃やして炭の違いを確認した。

<工程>

- 1 竹と木材を20cm大に切る。
- 2 ペール缶の下部に穴を空け、空気孔を作り竹・木材が燃えやすい環境を作る。
- 3 竹・木材をペール缶に入れる。
- 4 熾火になったらさつまいもを入れる。
- 5 炭を回収する。



火を付ける祭、竹のほうが火をつけるのは容易でした。木の方は火の持ちは良かったです。燃焼している様子は竹のほうが透き通る赤色でした。木の方はオレンジ色をしていました。ペール缶に穴を開ける際鉄のピンで穴をあける際に、内側に凹まないように内側を押えるのが大切でした。

<焼き終えた竹と木材の炭>

<焼いた焼き芋>



<比較>

形 : 竹はカクカクしていて、木材は丸っこかった。
色 : 竹は黒く、木材は灰色になった。
匂い : ともに違いはない。
焼き芋 : どちらも美味しかった。

そうめん流しで使った竹を利用して竹と木の炭の違いを検証しました。結果は竹の方はカクカクしていて崩れにくく、木の方は炭は角は丸く軽かったことがわかりました。焼き芋は竹と木の熾で焼きました。竹のほうが火力が強く、少し芯が残るような感じでした。

<当てはまるSDGS>



<まとめ>

竹は放置し過ぎたら竹が増えてしまう。

竹林は適度に間伐しないとイケないということがわかった。

竹はそうめん流しや竹炭といった物として利用することができる。

15の陸の豊かさを守ろうでは荒れた竹林を間伐して人の手が入りやすくして元気な筍などが生えやすくなる15番に当てはまります。12では切った竹を利用してそうめん流しをしたり竹箒を作りました。竹は捨てる場所が無いということをも身を持って知ることができました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

作陽印刷工業株式会社 代表取締役 片岡孝文さん
真庭市立落合小学校

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(氏名 金崎心哉)</p> <p>①荒れた竹林を人の手を入れてきれいにするこの大切さを知った。また竹を利用してそうめん流しや竹細工などを作ったことで、色々な使い道があることがわかり、竹は捨てる場所がない事を身を持って知ることができた。</p> <p>②地域の人と話していると色々な地域の課題があることがわかった。竹の処理の仕方次第で笹は竹箒に、細い竹は竹箒の柄に、太い竹はそうめん流しに使うなど色々な使いみちがあることを知った。今回の経験を通じて、竹を見る目が変わり、他の使い道がないか考えるようになった。</p> | <p>(氏名 河島遥輝)</p> <p>①竹林を整備してみて、竹は伸びるのが早いから、たまに手入れをしないといけないことが分かった。竹を利用してみて、竹は色々なことに利用できることが分かった。例えば、流しそうめんの台や竹箒に利用できることが分かった</p> <p>②TRを通して竹は伸びるのが早くたまに間伐することが大切だと知って、自分の家の竹やぶも間伐をしないといけないと今回のTRを通して気に掛けることができるようになった。家の竹やぶの手入れをしていきたい。</p> |
| <p>(氏名 森数要也)</p> <p>①イノシシは筍などを食べてくれるが、そのイノシシを討伐してしまうと筍を食べてくれる生き物がいなくなるから竹林が増え人の手が入りにくくなることがわかったからイノシシは人に害をもたらすが自然には必要な存在だとわかった。メリット・デメリットがあることがわかった。</p> <p>②竹林の対処の仕方などを考え学んでいくことによって、今まで竹林なんかに興味を持ったり竹林をどうにかしようなんて考えてもなかった自分が、このTRをしたことによって今や竹林をどうにかしたいと考えるようになった。</p> | <p>(氏名 柳田智行)</p> <p>①竹林をそのままにしておく竹が増えて処理に困ると知った。また、生き物(今回の場合はイノシシ)が減ると竹が増え、さらに人の手が入りにくくなるから、竹林の整備の重要性を学ぶことができた。</p> <p>②自分たちで竹林を整備し自分達で利用し、人の手が入らないところを入れるようにしたことは一つの成果と言える。竹を使って竹箒を作ったりそうめん流しなどをした。最初は竹を使って釣り竿を作るはずだったけど相談の結果、竹を使って竹箒を作る事になった。初めはアイデアが出なかったが、実物が手元にあると色々なアイデアが出るようになった。</p> |

【担当教員 谷口 皓介 講評】

食農生産科で学ぶなかで地域の自然環境に興味を持ち、竹林を伐採し整備することで自分たちの住む街の自然について探究することができました。鋸を用いて自分たちの手で伐採した竹に利用価値を見出すために、様々なモノづくりをおこないましたね。流しそうめんの台を作成するなかで竹の柔軟性や耐久性に興味を持ち竹ぼうきを製作し、それを近隣の小学校に配布するなど7班の積極性には驚かされました。これからもその積極性を生かして自分から行動できる人になりましょう！

『真庭の自然を活かした農業開発』

8班 小林日菜姫 檜本遥陽 牧朋美

活動を行ったきっかけ

- 班員全員が食農実習生
- 自然にふれてみたい
- 真庭の自然を活かしたいと思った

活動の目的

竹を使用した農業に挑戦する

わたし達は真庭の自然を活かした農業開発をテーマに、竹を使って野菜を栽培する取り組みを行いました。私達の班は全員食農生産科であり、自然に触れたいと思ったことが活動のきっかけです。なぜ竹に注目したかという、学校の裏にある注連山には沢山の竹があり、身近にあるものを使おうと思ったからです。

活動内容

- 竹を伐採するため、しめやまの土地を所有している方に許可を貰った。

竹害があることを知る。
(竹の増殖、他の植物の成長を阻害、
土壌が緩まり土砂崩れが起こりやすい等)

竹をパウダーにすると活用できるのでは？

まず、竹を伐採するために土地を所有している作用印刷工業株式会社の片岡さんに許可をもらいに行きました。そこで、竹害に悩まされているとの話を聞きました。整備されていない竹林を歩くのは大変で、脚や腕は虫さされだらけで、とても不快でした。

野菜を栽培

- 1回目 ハツカダイコンに挑戦。
- 2回目 リーフレタスに挑戦。

ハツカダイコン



5mm竹パウダー

3mm竹パウダー

竹パウダーなし

リーフレタス



一回目はハツカダイコンを栽培しましたが、水の管理等の問題を抱えうまくいかなかったため、あらたにリーフレタスを栽培しました。同じハツカダイコンではなくリーフレタスを選んだ理由は、栽培時期が寒冷期に入っており寒さに強い品種を選ぶ必要があったからです。ハツカダイコンを栽培したときの課題点を活かして栽培しました。うまく成長したので良かったです。

気がついたこと・まとめ

- ・竹をパウダーにして農業に活用する事で、竹害を少しでも減らせる。
- ・竹パウダーは野菜を丈夫に育てるはたらきがある。
- ・虫を寄せ付けない。
⇒竹パウダーを使うことによって、野菜を虫に食べられる事がなくなるので虫による被害は少なくなそう。

竹パウダーがあることで野菜を丈夫に育てる働きがあることがわかりました。更に、竹パウダーがあることで虫を寄せ付けないなど、農業をするうえでの利点になりました。竹を農業に活かすことで、竹害を少しでもへらせることができると思います。

高校生探究フォーラムへの参加



12月24日に岡山市で自分たちの成果を発表する機会を得た。他校の生徒や企業の方など、様々な方から意見をいただくことができた。

- ・竹以外にタケノコにも着目してみる。
- ・科学的に効果を検証する。
- ・現実的に商売として成り立つか検討する。

会場内では多くの生徒で溢れており、素晴らしい発表をきくことが出来ました。研究しているもののレベルが高く、感激するとともに良い刺激を受けました。

関係するSDGs



- 竹がある事により土壌が緩まり、土砂崩れが起きやすくなる。
→竹を減らすことにより土砂崩れ防止
→SDGsの11番に関係する



- 竹害により周りの植物までも影響してしまう。
→竹害を減らすと周りの自然も守ることが出来る。
→SDGsの15番に関係する

TRの活動で私達の目標だった竹害を減らすという目標を達成でき、伐採した竹を農業に活かすことが出来ました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

作陽印刷工業株式会社 代表取締役 片岡孝文さん
岡山県農林水産総合センター 森林研究所木材加工研究所
落合振興局

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(小林日菜姫)</p> <p>①私はこのTRの活動を始めるまで竹パウダーという存在は知りませんでした。しかし、農業とふれあい地域の竹のことについて知ることによってSDGsにつながる植物育成に興味を持つことができました。竹パウダーは植物の生育を促進するだけかと思ったけど、虫が寄り付かないようになり、意外な効果が実感できました。</p> <p>②1番印象的だったのは、12月に岡山市で開催された『高校生研究フォーラム』で発表をしたことです。不安なまま会場に行ったけれど、他校の先生や生徒方や沢山の人に私達の研究に興味を持ってもらい、私達だけでは出すことのできなかったアイデアをたくさん聞くことができました。その他にも他校の素晴らしい研究発表を見ることができ、良い経験にすることができました。</p> | <p>(檜本遥陽)</p> <p>①この活動を通して竹害、竹パウダーの存在を知ることが出来ました。竹パウダーには植物の生育を良くする効果以外にも虫を寄せ付けない効果があることを知りびっくりしました。竹をパウダーにする時、大きな竹は中々粉々にならず苦戦しました</p> <p>②岡山市で開催された、高校生研究フォーラムでは私達以外にも竹を使った発表をしている高校が居て私達が知らない情報を手に入れることができたので良かったし、いい経験が出来ました。今回の活動を通して、自校だけでなく幅広い視野を持つことができるようになりました。</p> |
| <p>(牧朋美)</p> <p>①この活動を通して、はじめて竹害があることを知りました。竹を伐採するのは思ったより大変でした。老人が増えていく中、老人が竹を伐採するなど、管理をするのは難しいのではないかと思います。そこで竹を減らすために、タケノコを掘る取り組みをおこなうのもいいのではないかと思います。タケノコだと食べられるし、経済にもつなげることができると思います。今後のTRの活動にもこのような発見を活かしたいと思いました。</p> <p>②私達は『研究フォーラム』で自分たちの取り組みを発表しに行きました。会場内に入るだけでもかなり緊張しましたが、いい発表が出来たと同時に新たな考えを得られ、いい経験となりました。</p> | |

【担当教員 谷口皓介 講評】

草木をかき分けて斜面に生えた竹を自分たちで鋸を使って切る体験は新鮮だったのではないのでしょうか。鋸を引いた際に出てきた竹のおがくずに関心を抱き、竹パウダーとして農業利用への方法を模索するなど、その着眼点には目を見張るものがありました。竹パウダーに虫害を避ける効果があることを実験を通して発見するなど、専門科目につながる探究活動を精力的におこなうことができました。今回の研究をぜひ来年度にも生かしてください！

『竹を使った花壇作り』

9班 岩浅春花 黒瀬叶美 難波勇次

⚡ きっかけ ⚡

・竹がたくさん生えすぎていたから。

⚡ 活動目的 ⚡

- ・環境に悪影響を与えないため。
(害獣・災害)
- ・住民が過ごしやすいするため。

私達は学校の近くのしめ山に行き所有者の片岡さんのお話を聞きました。イノシシがたけのこを食べてしまうため、イノシシを捕まえて対応したが、今度は竹は過剰に増え処理に困ってしまったと言う話を聞いて何か出来ないかと思い、竹をたくさん使用し消費できる花壇づくりを行うことにしました。竹は増えると日当たりが悪くなるなど様々な悪影響があることを知り、勉強になりました。

⚡ 結果に対する考察・気づき ⚡

【考察】

時間をあまり使わず作成できると思ったが、かなりの時間がかかった。

【気づき】

- ・竹を使って沢山の作品ができることを知った。
- ・花壇の大きさや竹の長さなどを決めてから作品作りをしたら良いことを知った。

あまり時間を使わず花壇を簡単に作成できると思っていたが、TR発表がある前日までかかってしまいました。気づいたことは、調べていくなかや製作していくなかで、竹を使えば小さい物から大きい物まで沢山のモノが作れることを知りました。作品を作るときには、大きさや竹の長さなどを決めて行うとスムーズに行動ができることを知りました。

⚡ 感想・まとめ ⚡

- ・材料を早めに集める。
- ・花壇を作るのが難しかった。
- ・スムーズにできなかった。
- ・楽しくできた。

→今後も沢山の竹を使って作品作りをしていきたいと思っている。

材料を早めに集めるようにすること、花壇を作ることが難しかったため、スムーズに活動ができませんでした。しかし、楽しくできたので良かったです。今後も沢山の竹を使って、作品作りを行い竹を多く減らせるようにしたいと思っています。

⚡ 活動内容 ⚡

- ・竹を切る
- ・長さを調節して竹を組む
- ・花壇の完成



竹を切る際には、根本の少し上ぐらいを狙ってのこぎりを使って切ります。竹を引っ張り出すときに、木に引っかかったりして、とても大変でした。長さを調節する際には、1人が竹を押さえ、もう1人が竹を切ります。竹を紐で固定して仮置きしたら、接着剤を板と竹に塗り、くっつけて固定します。最後にビオラの花を植えて、完成です。

⚡ 成果・今後の課題 ⚡

<成果>

- ・花壇の作成。
- ・竹を少しでも減らすことができた。

<今後の課題>

- ・花壇を地域に持っていけるようにする。
- ・意見をもっと出す。



竹の花壇作りを通して、竹によって様々な作品が作れること、竹は増えすぎると環境に悪影響を与えることが分かったとともに地域の実情を知ることができました。今回の経験を通じて地域の現状をより深く知りたいと思いました。また竹を少しでも減らすことが出来ました。今後の私たちの課題は、話し合いと行動をスムーズにして、作品を地域に持っていけるようにすることです。

SDGsへの目標

- 11. 住み続けられるまちづくりを
竹林管理→害獣、災害の予防
- 15. 陸の豊かさを守ろう
竹害の予防→生態系の保護
人の住む場所の確保
- 12. つくる責任つかう責任
持続可能な資源「竹」の生産・消費
竹の利用→花壇づくり



SDGsへの目標は、11番と12番と15番が当てはまります。11番と15番は竹を伐採することによって、災害の予防や生態系破壊の予防ができ、人の住み続けられる場所が確保しやすくなります。12番は私達が行ったような花壇づくりをすることで、生産・消費がしやすくなり、地域の活性化に繋がります。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

作陽印刷工業株式会社 代表取締役 片岡孝文さん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(岩浅春花)</p> <p>①竹は、環境に影響を与える植物だという事がわかりました。「竹を減らすのも、作品を作るのも長時間必要だから、竹が減らない」と考えました。竹を処分するとなっても、長い年月がかかったり、自治体への許可を取らないと処分ができないことを知りました。</p> <p>②最初は、先生にアドバイスを貰ってもなかなかすぐに行動ができなかったけど、TRを通してみんなと話し合いができるようになり、先生のアドバイスを頂く前に行動ができるようになりました。
今回の活動で竹について知ったので、どうやったら竹を減らせるのかを考えたいと思いました。</p> | <p>(黒瀬叶美)</p> <p>①意見をたくさん出すことで、スムーズに行動できることを知りました。竹を使って作品を作ることが難しく、時間もかかるので竹がなかなか減らない理由がわかりました。自分たちで解決できないときには、地域の方の手も借りて行うといい事に気づきました。</p> <p>②班になったばかりのときは、意見を出し合えず、ずっと黙っていましたが私が司会をすることで、意見が出せるようになり話し合いもスムーズに進めることができました。
最初は、竹のことについても何も知らず只々作品作りをしていましたが、今回の活動を通して、家の周りに生えてる竹をどうしたら減らせるのかを考えるようになりました。</p> |
| <p>(難波勇次)</p> <p>①これまで竹について考える機会はありませんでしたが、TRでの活動を通じて竹の可能性や課題点を学ぶことができました。竹の活用方法などを考える事はできても実際に行動して形にすることは難しく、竹を管理することの大変さを知りました。</p> <p>②意見がなかなか出ず、行動に移すことに時間がかかっていましたが、少しずつ話し合いも活発になりスムーズに動けるようになりました。
竹について何も知らない中でしたが、新しいものに興味を持ち活動することができて良かったです。今後の活動に活かしていきたいと思いました。</p> | |

【担当教員 谷口皓介 講評】

地域の自然に興味を持ち、竹林を伐採し整備することで自分たちの住む街の自然について理解を深めることができました。流しそうめんの台を作成するなかで竹の柔軟性・耐久性に興味を持ち花壇を製作するに至りました。水や土が隙間から抜けていくことがないように敷き詰める作業に悪戦苦闘していましたが、諦めることなく形にすることができましたね。来年度は今年度以上に積極的に行動して素晴らしい研究ができることを期待しています！

真庭について知り、もっと有名に！ ～インまにコラボ～

10班 入澤楓・西原千乃・小原凜太郎・兵江芳太

活動のきっかけ

- ・真庭をもっと有名にしたいけれど、そのためには真庭のことをもっと知ろうと考えた。
- ・どんなものがあるのか調べ、実際に行ってみて気づいたことをピックアップしてみんなに知ってもらい、人から人へ伝わっていくことで、真庭がもっと有名になっていくと考えた。
- ・Instagramは写真と内容を同時に投稿でき、いろんな人に見てもらえると考えたため、インスタを活用することにした。

真庭の魅力を発信するには自分たちも利用しているInstagramを使用すればいいかもしれないと考えました。最初に真庭市役所秘書広報課の井上さんからSNS投稿をするにあたっての注意事項を教えてくださいました。

取り組んだ内容①



箸立天満宮

・学業成就・安産・子授けの信仰
さらに合格祈願もある



岡山県指定の天然記念物

「伊吹ひば」は
推定樹齢800～1000年といわれている。

学校から歩いていける箸立天満宮に行きました。真庭にしかない場所で、インスタの投稿の練習として選びました。撮影後はそれぞれで撮った写真に説明文をつけてみました。インスタの投稿はしていませんが、真庭市役所の井上さんに練習のものをみていただき、良い写真が撮れていますねと評価をいただきました。

取り組んだ内容②



杜の妖精を考える会の方に来てもらい
良い写真の撮り方を教えてもらいながら
早速写真を自分達でも撮りました。

真庭市キャラクター「まにぞう」の応援をしている、杜の妖精を考える会があるということを知ってもらい、まにぞうとコラボしたインスタを投稿したいと考えました。真庭高校の体育館でやるスポーツをテーマにして撮影をしまし、私達が撮った写真を、杜の妖精を考える会のインスタに投稿してもらいました。

取り組んだ内容③



次は美作落合駅に行きました。

杜の妖精を考える会の方に協力をお願いしましたが、残念ながら都合が合いませんでした。

そこで、真庭市役所をお願いをすればまにぞうをお借りできることを教えていただきました。

最初のTRでお世話になった真庭市役所の井上さんをお願いをし、美作落合駅での撮影ができました。

まにぞうの中に生徒が入り、自分たちの考えたロケーションで撮影をしました。天候が晴れ、お客さんも少ない時間帯だったため、撮影がしやすく良かったです。ここで撮影した写真は真庭市公式Instagramに投稿していただき、たくさんのいいねをもらいました。

取り組んだ内容④



真庭のことをもっと有名にしたいと考え、再度まにぞうのレンタルをお願いし、落合の米沢商店街に行き「肉の谷口」「なべや」のお店の前で写真を撮らせていただきました。

まとめ

地域の人をもっと自分たちの住んでいる
真庭について知り
真庭の魅力や豊かさを守り
真庭を住みやすく、そして
住み続けることのできる
場所にしていきたい



SDGsとのつながりは、真庭に住んだり、関わっている自分たちがまず真庭のことについて知り、真庭の豊かな自然や地域の魅力を発信していくことで11番と、15番につながると考えました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・他のの方々)

社の妖精を考える会の方々、井上聖子さん(真庭市役所秘書広報課)、なべや寿司さん、肉の谷口さん、米沢町商店街の方々、黒田和美さん(グリッチ合同会社)

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>小原 凜太郎</p> <p>①自分が知らなかった真庭のいい場所と、どんな写真がいいかInstagramの使い方や注意事項やまにぞうの借り方を学びました。1年間で学ぶことが多くてとてもいい経験になりました。</p> <p>②真庭の事はあまり知らなかったけれど、真庭の知らない場所を知ることがとても楽しく、もっと真庭について知りたいと感じました。Instagramの他にいろんなメディアを使って真庭の事を多くの人に知ってもらい街の発展に繋がりたいと感じました。</p> | <p>兵江 芳太</p> <p>①実際に、まにぞうの中に入ると視界が見づらく、みんなの指示にしたがって動いたけれど、動くのにも一苦労でした。実際に体験してみるとということが大切だということを学びました。</p> <p>②真庭についてあまり知らなかったけれど、TR活動で真庭の商店街や駅などのいろんな場所に行き、知ることができて良かったです。また、まにぞうを着ることはなかなかできない経験で楽しかったです。</p> |
| <p>入澤 楓</p> <p>①自分で写真を撮ることによって写真の撮り方や、撮る場所など、他の人の顔が映らないようにするなど、色々考えられてインスタに投稿されていることを知ることができました。</p> <p>②市役所の方や実際にその場所に行ってみることで自分たちの住んでいる地域についてより深く考えることができ、知らなかったことにも気付くことができました。</p> | <p>西原 千乃</p> <p>①まにぞうと一緒に写真を撮るということで、まにぞうを借りるには「まにぞうを貸してください」といえば借りれると思ってたけど色々な条件を理解した上で借りないといけなことがわかりました。</p> <p>②TRを通して、真庭に住んでいても知らなかった商店街にお寿司屋さんがあることなどを初めて知ることができ、より真庭について考える事ができて自分にとって良いTR活動になりました。</p> |

【担当教員 宮本あすか 講評】

まにぞうと動くみんなの楽しそうな姿が印象的でした。普段何気なく使っているインスタグラムも、自分のためではなく地域のために活用するという点で視点が変わったと思います。魅力を伝え、広めるための撮影方法や文章力、また1人の力より周りの協力があって成し遂げられることも学べたと思います。何かを実現するために誰と協力をして、どのように動けばよいのか試行錯誤することを大切に今後活かしてほしいです。

真庭イベント！～元気フェスタを通して～

11班 前田波音・澤本拓海・有馬莉羅・二若智帆

活動の目的・きっかけ

【目的】

- ・スタッフとしてイベントに参加したい！
- ・真庭の人との交流を深めたい！
- ・真庭の自然をもっとみんなに知ってほしい！
- ・人の役に立つことをしたい！

活動の目的は、スタッフとしてイベントに参加したい！・真庭の人との交流を深めたい！・真庭の自然をもっとみんなに知ってほしい！・人の役に立つことをしたい！と考えたことです。

モルックの手伝いをしました

参加者にモルックのルールを知ってもらうために

→模擬試合をお手伝い！

(感想)

みなさんが見てる中で

実際にやってみて緊張したが、上手くできて良かった！！



男子はボランティアでスタッフとしてきてくれた子と一緒に、モルックの模擬戦のお手伝いをしました。参加者が試合をやっているときは点つけや審判もしました。自分たちが思ったよりも盛り上がりすぎて良かったです。

考察・気づき

- ・イベントに行く機会があればきちんと挨拶をする
- ・自分自身の意見を言うことができてよかった
- ・人との繋がりができた
- ・イベントは計画が大切だとあらためて気づいた

受付の人や周りの人にきちんと挨拶をしようと思いました。自分自身の意見が採用されることは嬉しかったです。人の繋がりができ、開催の意図を達成できました。みんなが楽しめるように、計画的に勧めていくのが大切だと思いました。

当日までの流れ ～おしるこ試作品～

- ・真庭高校食農生産科が作った、小豆からあんこを作った
- ・白玉に砂糖を加えた
- ・自分たちが納得の行く甘さにするために試行錯誤した



当日の活動 ～おしるこを提供しました！～

- ・100人分いかなかった
- ・甘さが丁度いいと言われた

おしるこの効果は...



落合校地で収穫された小豆があったため、白玉入りのおしるこを提供することに決めました。約2週間前に提供する、おしるこの試作品を作りました。大きさを均等にするのが難しかったです。そして、実際にイベントで提供しました。渡す時におしるこの効果をお話したり、真庭高校についてお話したりしました。ブースに真庭高校の看板や紹介動画を流して真庭高校の宣伝もしました。

活動の成果

- ・イベントの内容を考えどのような活動をするか考え決めることができた
- ・企画は人数がいることによって様々な意見がでてとても細かい内容を決めることができた
- ・イベントを通して、人の繋がりがより強くなった



おちアーズさんと市役所の方々と会議をしたよ！

活動の成果は3つあります。1つ目はイベントの内容を考えどのような活動をするか考え決めることができた。2つ目は企画は人数がいることによって細かい内容を決めることができました。3つ目はモルックを通して、主催者の思いの「人の繋がりがたくさんできた」と思います。

まとめ

～イベント～

- ・Swap Meetに参加
- ・おちあい元気フェスタの実行委員になった
- ・当日はそれぞれに別れてイベントの進行に携わった

～SDGs～

- ・モルックというスポーツと地域の繋がりを作った
- ⇒3番すべての人に健康と福祉を
- ・誰でも参加ができる
- ⇒11番住み続けられるまちづくりを

3 すべての人に健康と福祉を



11 住み続けられるまちづくりを



実際に企画されたスワップミートに参加し、イベントの企画をしたいと考えていたところおちあい元気フェスタの企画進行のお話を頂き参加し、イベントの進行に携わりました。この活動がSDGsのどれに当てはまるか考えました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

中島さん・伴野さん・道満さん・小林さん・坂本さん(おちあい元気フェスタ実行委員)
 黒田さん(グリッチ合同会社)・井上さん(真庭市役所秘書広報課)
 杉先生・清本先生・小林駿斗さん・河本賢知さん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>澤本 拓海</p> <p>①ラジオやモルックの模擬戦・審判を積極的に自分から取り組み、意見もどんどん言いました。自分が思ったことを伝え、自分の意見が今回のイベントに役立ったため、意見を言うことは大切だと思いました。</p> <p>②自分はあまり自ら率先して何かをするような感じではなかったけれど、TRを通して自分の意見も積極的に伝えた方が良いと分かり、率先して行動するようになりました。積極的に意見を言うことでより良くなることが分かりました。</p> | <p>前田 波音</p> <p>①TRを通して、イベントを成功させるために地域を盛り上げようとしている団体の方々との関係を築くことがとても大切だとあらためて知ることができ、イベントにとって大切だなと思いました。</p> <p>②イベントを開催するまでの流れやイベントの内容を考えるまでがとても大変だったけど、関係者の方々の協力によってとても良いイベントを開催することができました。様々な人の協力によって話の内容がまとまっていくのがとても気持ちいいなと思いました。</p> |
| <p>有馬 莉羅</p> <p>①自分から動くことや、コミュニケーションをとることが大切だと思いました。高齢者や子供など、みんなが盛り上げられるように笑顔で接客することに気をつけながら進行しました。</p> <p>②おしるこを渡すときに、自分からお客さんに話しかけることができました。人とコミュニケーションをとることは苦手だけどTRの活動を通して交流を深めることができました。自分の意見をみんなに言うことは緊張しましたが楽しかったです。</p> | <p>二若 智帆</p> <p>①コミュニケーションをとることの大切さを学びました。今まで、スポーツを通して仲良くなれるのだろうかと思っていましたが、モルックを通して初対面の人でも仲良くなっていくのを見て、スポーツには目に見えない力があり、すごいのだなと思いました。</p> <p>②今まで私は計画的に何かをすることが苦手でした。しかし、イベント企画は1ヶ月以上前から計画されていることを知り、何かを成し遂げるためには計画的に進めていくことが大切なのだと思います。今は行動をするときに計画を立てて行うようになりました。</p> |

【担当教員 宮本あすか 講評】

大きなイベントの実行委員として企画進行するという素晴らしい経験ができました。度重なる打ち合わせや、おしるこの試作、またコロナ禍での開催など悩んだり苦労したこともありましたが、みなさんの努力が一つ一つ形になり実現していくことは純粋に楽しかったのではないのでしょうか？自分たちの努力はもちろん、主催者や参加者を含めた地域の方々の協力があったからこそこのイベントは大成功でしたね。わたしも一緒に参加できて楽しかったです。

「インスタを使って町おこし」～真庭の魅力を全国へ～

12班 岩本涼翔 建城佑実 成田理穂 河本賢知

活動のきっかけ

- ・Instagramを使った活動をしたかった
- ・身近で使っていて使い慣れていた
- ・真庭の魅力を全国に発信したいと思った
- ・真庭の課題がなにか知るきっかけを作りたいかった

きっかけは真庭に住んでいない人に真庭の魅力をSNSを通して知ってもらいたいと思いこの活動をしようと思いました。自分たちが使い慣れているインスタを使うことにし真庭の公式インスタを借りることにしました。それにあたってSNSを利用する注意事項などについて真庭市役所秘書広報課の井上さんに来ていただきお話を聞きました。

過去に取り組んだ内容②

まにぞうと
写真撮影会
～美作落合駅～



美作落合駅でまにぞうと写真を撮ることで、より落合駅の魅力が増して真庭のアピールになると思いました。

このときは杜の妖精を考える会さんの都合が合いませんでしたが、代わりに真庭市役所でまにぞうのレンタルができると教えていただき秘書広報課の井上さんに相談し、来ていただきました。

成果 ～1年間の活動を通して～

真庭市役所の方や杜の妖精を考える会の方々にしてもらい、たくさんの経験ができました。



まにぞうを借りて自分たちでまにぞうに入って撮影し、公式インスタに載せてもらった。

10班のメンバーと合同で活動したことで、より力も入り効率よく活動することができた。

活動をして沢山の方々に協力してもらい少しだけだが真庭の魅力を発信することができました。私たちの班は2つの班が合同で活動することが多く効率よく活動できました。

過去に取り組んだ内容①

まにぞうと写真撮影会

真庭高校！

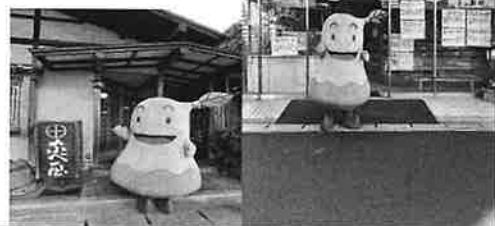


「杜の妖精を考える会」という、Instagramでまにぞうを応援する団体があることを教えてもらい、真庭市公式キャラクターであるまにぞうと一緒に撮影したい連絡をすると快く引き受けてくださり、真庭高校まで来ていただきました。「杜の妖精を考える会」の方々やカメラマンにも来ていただきスポーツをしている写真や集合写真を取りました。

過去に取り組んだ内容③

まにぞうと写真撮影会

～米沢町商店街～



別の場所でまにぞうと撮影ができないかを考えました。落合周辺には観光スポットが少ないことや、レンタルしたまにぞうを自分たちで運ばなければならないということを考え、学校から歩いて移動できる米沢町商店街で撮影することにしました。商店街の方たちの協力で「肉の谷口」や「なべやずし」で撮影をさせていただきました。レトロ感があり馴染みやすい商店街でした。

まとめ ～活動を通して感じたこと～

地域の人と協力して
自分たちの住んでいる
地域のことを知り
自分たちで見つけた
真庭の魅力を発信して真庭を
より豊かな
住み続けられる場所にしていきたい



この活動を通して今よりもっと真庭の魅力をインスタを使って伝えられたと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

社の妖精を考える会の方々、井上聖子さん(真庭市役所秘書広報課)、なべや寿司さん、肉の谷口さん、米沢町商店街の方々、黒田和美さん(グリッチ合同会社)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>建城 佑実
①TRの活動を通して、自分の意見をしっかり発言し、他の人の意見を聞き、意見を出し合う事が大切だと学びました。インスタを使うことで真庭市の知名度が広がりやすい事に気づきました。</p> <p>②TRの活動を通して、自分達だけでは出来ないことを市役所の方や地域の方に協力していただき、初めて撮影のアポ取りや、まにぞうのレンタルの電話などたくさんコミュニケーションを取ることが多かったので自分の将来に役立つと思いました。</p> | <p>成田 理穂
①TR活動を通して、関わる事がなかった人たちと色々な事ができたり、班のメンバーと協力することでたくさんの経験が学べたので、これからの生活で活かせるようにしていきたいと思いました。</p> <p>②TR活動を通して、真庭市役所の方や、まにぞうを貸して下さった方たちとこのTRで関わる事ができて良かったと思います。自分から積極的に取り組み、地域の方たちと関わる大事さを知り、感じることができました。</p> |
| <p>岩本 涼翔
①TRの活動を通して、みんなで協力し、なにかに取り組むという大切さに気づくことができたのでこれからの学校生活や普段の生活に活かせるようにしていきたいと思いました。</p> <p>②TRの活動を通して、地域の方や市役所の方々に関わる事ができ、地域の方々ともコミュニケーションがとれてよい経験ができたと思います。実際にまにぞうの中に入ることで、まにぞうの中に入っている人の大変さがわかりました。</p> | <p>河本 賢知
①TR活動を通して、様々な方と協力し、活動をしていく中で誰かの力を借り何かに取り組むことの大切さに気づくことができたのでこれからの生活に活かせるようにしたいです。</p> <p>②TRの活動を通して、自分がしてこれなかった様々な方と関わる事がTR活動を通してできたことで少しか自分の力になったと思いました。この活動で市役所の方々と関わってコミュニケーションを取れるいい経験になったと思いました。</p> |

【担当教員 宮本あすか 講評】

まにぞうと動くみんなの楽しそうな姿が印象的でした。普段何気なく使っているインスタグラムも、自分のためではなく地域のために活用するという事で視点が変わったと思います。魅力を伝え、広めるための撮影方法や文章力、また1人の力より周りの協力があって成し遂げられることも学べたと思います。何かを実現するために誰と協力をして、どのように動けばよいのか試行錯誤することを大切に今後活かしてほしいです。

それ！捨てるのもったいない～減らそう野菜のフードロス～

13班 金田暉弘 小林駿斗 小松奈々美 平尾來未


活動のきっかけ・目的

☆活動のきっかけ☆
SDGs「つくる責任・つかう責任」

フードロス削減

生産された野菜の3割が破棄されている！

☆活動の目的☆
野菜のフードロス削減のための地域での取り組みを調べ、自分たちにできることはないか考えること



私は、SDGsの「作る責任使う責任」からフードロス削減に関心を持ちました。そして、フードロスについて調べているうちに生産された野菜の3割が破棄されているとわかり、気になる問題だと考えるようになりましたそこで「野菜のフードロス削減のための地域での取り組みを調べ、自分たちにできることはないか考えること」を目的とし、探究活動を行いました。

実は... 生産された野菜の3割が規格外で捨てられていることはフードロスに入っていない！？

規格外野菜は美味しい？
美味しくない？

規格外野菜の破棄を減らすことは、本当にフードロス削減になるの？

農家の方々の気持ちは？



生産された野菜の3割が規格外で捨てられている現状ですが、更に調べてみると、実はこれはフードロスに入っていないことがわかりました。農家の方が丹精込めて作った野菜よりも規格外の野菜をすすめることがフードロス削減につながるのわからなくなりました。ひとまず、試しに、規格外野菜を使ったカレーと普通の価格の野菜を使ったカレーを調理してみました。

| 白菜のソフトふりかけ | | | 大根の漬物 | | |
|--|-----|-------|---|-----|-------|
| 作り方
白菜7枚(550g) 塩昆布10g 鰹節15g 塩小さじ1杯
1. 白菜をみじん切りして塩小さじ1杯でもむ。
2. 5分ほどして水気が出てきたら絞る。
3. フライパンに白菜を入れ、刻んだ塩昆布とともに強火にかけ、15分間炒める。
4. かさが1/4くらいになったら、最後に鰹節を入れて完成。 | | | 作り方
大根の葉っぱ(大根2つ分)伯方の塩(お好みで)
漬物を専用の器械に入れて野菜の水分を出す。水分が出たら水分を捨てて冷蔵庫に入れる2日経ったら完成です | | |
| 味 | 量保存 | 調理の手間 | 味 | 量保存 | 調理の手間 |
| ◎ | ◎ | △ | ◎ | ◎ | ○ |

少し意識や工夫で、食品ロスを減らすことができるのではないかと考え、家庭の冷蔵庫で余っている野菜を使って、フードロス削減につながるような利用法がないか考え、2つ作成してみました。「大根の漬物」と「白菜のソフトふりかけ」です。


規格外野菜の利用

NPO法人 真庭 あぐりガーデン プロジェクト

形が不揃いで売ることができない野菜のカットを依頼

別所地区の高齢者グループ みつば会

切った野菜をアグリガーデンに送る



私は真庭市別所地区の高齢者グループみつば会の方と関わることがありました。みつば会の方はNPO法人真庭アグリガーデンから依頼を受け形が不揃いで売ることができない野菜のカットをされていました。規格外野菜とのことでしたがカットする際に硬さや密度などに特に問題はなく美味しく食べられる野菜だと感じました。

普通の価格の野菜を使ったカレーと規格外野菜を使ったカレーの価格比較

| 普通の野菜を使った場合 | 規格外野菜を使った場合 |
|-------------------------------|-------------------------------|
| パウンドカレー(甘口)・・・1/2箱(115g) 107円 | パウンドカレー(甘口)・・・1/2箱(115g) 107円 |
| ・牛肉(角切)・・・250g 700円 | ・牛肉(角切)・・・250g 700円 |
| ・玉ねぎ(中)・・・2個(400g) 75円 | ・玉ねぎ(中)・・・2個(400g) 75円 |
| ・じゃがいも(中)・・・1・1/2個(230g) 30円 | ・じゃがいも(中)・・・1・1/2個(230g) 30円 |
| ・人参(中)・・・1/2本(100g) 30円 | ・人参(中)・・・1/2本(100g) 30円 |
| ・サラダ油・・・大さじ1 3円 | ・サラダ油・・・大さじ1 3円 |
| ・水・・・850ml | ・水・・・850ml |
| 合計 1142円 | 合計 945円 |
| 野菜のみ 332円 | 野菜のみ 135円 |

差額 197円！！ (6皿分)

規格外野菜を使ったことで、6皿分で、197円の節約になりました。味は変わりなく美味しく作ることができました。確かに調理法によっては、規格外野菜を使うことがデメリットにはならないと考えました。ただ、フードロス削減の観点から考えると、疑問が残ります。今度は現状で多く出ている家庭での野菜のフードロスの削減に焦点を当てることにしました。

まとめ

- ・規格外野菜の破棄はフードロスには含まれていない
- ・野菜の破棄によるフードロスは家庭内での破棄が半数以上を占める
- ・フードロスの削減を考えていく場合、家庭での野菜の買い方、使い方を工夫していくことが効果的となる
- ・より手軽で、美味しく食べられるような工夫が流通すると野菜の破棄削減に繋がりがやすい

「フードロスの削減を考えていく場合、家庭での野菜の買い方、使い方を工夫していくことが効果的となる」「より手軽で、美味しく食べられるような工夫が流通すると野菜の破棄削減に繋がりがやすい」ということが分かりました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

みつば会の高齢者の方々 アグリガーデンの職員の方 道の駅醍醐の里の職員の方

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(氏名)小松奈々美</p> <p>①規格外野菜という名称を初めて知りました。そして、家庭でのフードロス問題には、作りすぎて食べ残したり、食べられるところまで捨ててしまうことなどが挙げられることがあるということを知りました。</p> <p>②形が汚かったり見た目が悪いなど規格外野菜についてあまりいい印象はなかったけど、実際食べてみて味は変わらなかったの、捨てるのではなく形を気にしない料理などに使ってみようかなと思いました。ただ規格外野菜を流通させるということはフードロスには繋がらないという考え方もあるということがわかったので、家庭でのフードロス削減についても併せて意識していきたいです。</p> | <p>(氏名)金田暉弘</p> <p>①自分が知らないだけで地域では様々な取り組みをしていることがわかりました。例えばみつば会やアグリガーデンのように形が不揃いで売ることのできない野菜のカットをして販売したり、その販売額の全部を支援金にするなど沢山の人の助けになることをしていることを知りました。</p> <p>②なんでもすぐに捨てるのではなく、まずは保存できるかどうか考えようと思いました。何でもかんでも捨てることにより食べられるところも捨ててしまっ、もったいないと思うようになりました。そして規格外野菜を使うことで節約にもなるので少し意識するようにしています。</p> |
| <p>(氏名)小林駿斗</p> <p>①規格外野菜はフードロスには入ってなく、規格外野菜破棄削減の必要性についても考えていくことが今後の課題になっていくと考えるきっかけになりました。家庭で出るフードロスは多く削減に向けて考えていく必要がある事がわかりました。</p> <p>②フードロスについて学んだことで、食べ残しがフードロス問題を引き起こしている要因だと分かりました。食べ残しがないようにしていきたいと思いました。</p> | <p>(氏名)平尾來未</p> <p>①生産された野菜の3割が破棄されているがフードロスには入っていないことを知りました。しかし、味には問題ないので地域でも規格外野菜をカットして販売したり工夫して利用していることもわかりました。</p> <p>②フードロス問題があることを知り、料理を作るときも食べる時もみんなで食べ切れる量を作り残さないようにすること、自分で作る時は野菜の食べられるところまでカットせず利用するようにするなど考えていこうと思いました。保存できる料理もいいと思いました。</p> |

【担当教員 石井恵理 講評】

高齢者との交流から当初目指していた探究活動につなげられず、私達の活動はどこへ向かっているのかと悩みましたね。そんな中、参加したカット野菜のシステムに興味を持ち、フードロス削減について調べるという方向性が決まりました。規格外野菜のロス削減と言っても、様々な背景があり、規格外野菜のロスを少なくすることが本当の意味でのフードロス削減になるのか、フードロス削減の対象となるフード自体を見極めないと、効果的な活動にならないことがわかりましたね。最終的には、家庭での野菜のフードロス削減のために自分達にできることはないかと考え、自宅でのフードロス削減のための試みができたことが一番大きな収穫だったと思います。

観光地湯原の「住み続けられる街づくり」

14班 福島春美 金丸楓果 岡山楓真 中村玲士



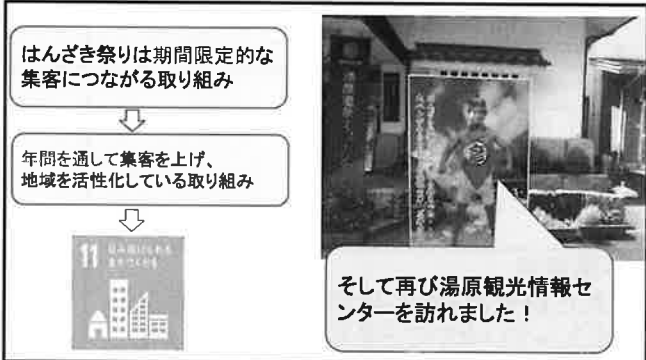
はんざき祭り 昨年で60周年！！

はんざき祭り実行委員会の方に話を聞きに行きました

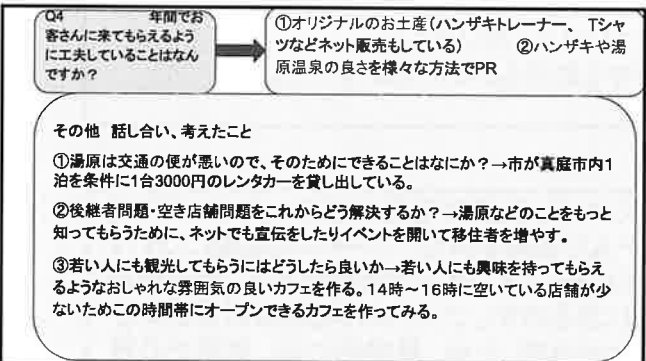
はんざきねぶた

道中ばやし

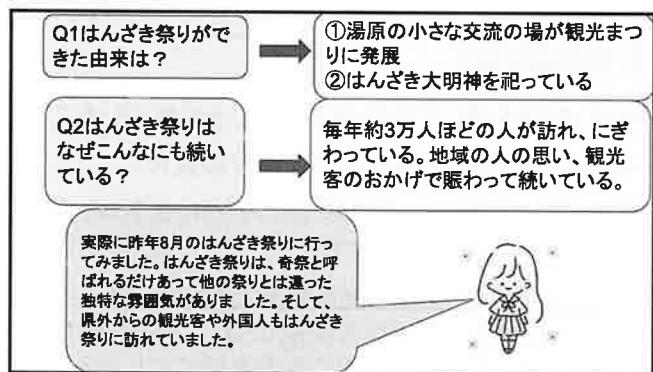
私達はSDGsの「住み続けられるまち作り」をテーマに湯原の活性化について探究活動を行いました。はんざき祭りは毎年湯原で行われる夏祭りでおおはんざきの山車、道中ばやしやはんざきねぶたが登場し湯原温泉をはんざき一色に染めてくれます。そしてはんざき祭りが地域活性化にどのように影響するのか知るためにはんざき祭り実行委員会に質問をしに行きました。



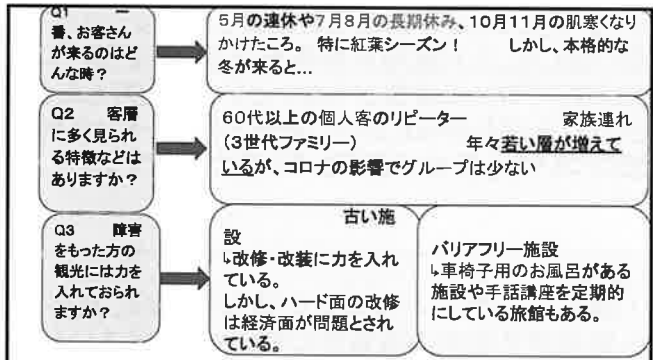
その後、はんざき祭りによる期間限定的な集客だけでなく、年間を通して集客を上げ、活性化していく取り組みが、地域で住み続けられるまち作りに繋がっていくと考えるようになりました。そこで、年間を通しての現在の取り組みを調べるために再び湯原観光情報センターに伺い、質問をしました。



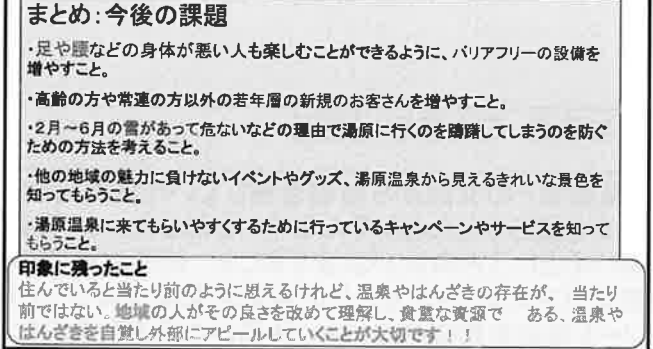
その後湯原の地域活性化の課題について話し合った結果、「交通便が悪いのでレンタカーを借りる」「空き店舗・後継者問題ではネットで宣伝やイベントを開いて移住者を増やす」「若い人たちにもっと来てもらうためにおしゃれなカフェを作る」などのことが考えられました。



まずいくつかの質問を実行委員さんに聞きました。①はんざき祭りができた由来はなにか→昔巨大なオオサンショウウオが人を喰うため若者によって倒したが、その後若者は一家共々死んでしまい、村の人は祟を恐れて「はんざき大明神」を祀ったことが由来でもありません。②はんざき祭りはなぜこんなにも続いているのか→地域の人の思い・観光客のおかげでもあります。



①一番お客さんが来るのはどんなときか→5月の連休、7月8月に多い。しかし、本格的な冬が来ると減少する。②客層に多く見られる特徴は何か→60代の個人客、家族連れが多いがコロナの影響でグループは少ない。③障害を持った方の観光に力を入れていることは何か→古い施設の改修・改装に力を入れている。しかしハード面の改修は経済面が問題となっている。他にもバリアフリー施設を作ったり手話講座をしている旅館もあります。



湯原に住んでいると当たり前のように思えるけれど、湯原の温泉や、はんざきの存在が当たり前ではない。地域の人がある良さを改めて理解し、貴重な資源である温泉やはんざきを自覚し外部にアピールしていくことが大切だとわかりました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

湯原観光情報センターの方

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 福島春美)</p> <p>①湯原には、コロナ禍の影響でお客さんが減っているということや、本格的な冬が来るとたくさん雪が積もり、湯原に来るのを躊躇ってしまう人があるという課題がある事に気が付きました。はんざき祭りはただ楽しい地域のお祭というだけでなく期間限定的な集客に繋がり、それが地域活性化に繋がる働きがあることがわかりました。</p> <p>②湯原に住んでいるとはんざきや温泉が当たり前の存在だったけれど、調べていくうちに当たり前ではなく他とは違う温泉だということを知ってもらい湯原の他にはない貴重な資源だと思いました。これからは湯原をしらない人に魅力をどんどん伝えていきたいと思ひます。</p> | <p>(氏名 金丸楓果)</p> <p>①コロナ禍で難しいけど県内からのお客さんだけでなく、県外からのお客さんを増やしたり、イベントをもっと増やしたりなど必要な課題はあるけれど、はんざき祭りの伝統が古くから続いていることに驚きました。そしてクリスマスやバレンタインのイベントなどを開催するためにお客さんがたくさん来るように宣伝方法を考えたり、若い人にもっと来てもらうための工夫などがあることを知りました。</p> <p>②湯原のことについてあまり知らなかったけれど、このTRを通して、温泉について知ることができたり、湯原について興味を持つことができました。実際に行ってみて、最初はやりやすそうという理由で始めたけど、探求活動をして行くうちに興味が出てきて、湯原についてもっと知りたいと思ひました。今回見つけた課題を次のTRで解決案を出し、解決に向けて頑張りたいです。</p> |
| <p>(氏名 中村玲士)</p> <p>①湯原には、美しい温泉などがあって課題は無いと思ひていたけど、年間を通しての地域活性化の取り組みが少なく地域のことを知ってもらうなどの課題があるということがわかりました。ですが、湯原に来やすいような取り組みのレンタカーの代金キャッシュ等があり、湯原のことをもっと知ってほしいという思ひで実施しているということが調べてみてわかりました。</p> <p>②湯原のことを全然知らなかったけれど、TRの活動を通して調べてみると謎解きと湯原のことを知ってもらうを関連付けた取り組みなどがあって面白くて自分が知らないだけで面白い地域がもっとあると思ひ、他の地域についても調べてみたいと思ひました。</p> | <p>(氏名 岡山楓真)</p> <p>①湯原の湯原温泉、はんざき祭りなど知らない事を知ることができ、他にも集客をあげるために地域のものを生かしたTシャツやお菓子などを販売しているなど町おこしに積極的に取り組んでいることがわかりました。</p> <p>②湯原のイベントであるはんざき祭りについて今回のTRを通してハンザキ祭りや年間のイベントについて知ることができ、今まで湯原の行事について何も知らなかったけど今回の学習を通して湯原だけの魅力を知ることができました。</p> |

【担当教員 石井恵理 講評】

はんざき祭りから発展し、観光地湯原の取り組みを調べ、実際にお祭りやイベントに参加したことで、湯原のことを身近に感じるきっかけとなりましたね。自分たちのような若者が地域に興味を持って訪れるようになるには、どんな条件が必要なのかしっかり考えることができたのではないのでしょうか。特に後半の活動では、具体的な取り組みを考える際の様々な視点に気づき、その企画の難しさも実感したのではないかと思ひます。

また、湯原観光情報センターの方との約束の時間に遅れるかもしれない事態が発生した時、互いに連絡を取り合い、どうすればよいか自分たちで考え誠実に対応できていたことが印象的でした。地域の人と繋がる際の礼節も学び、成長できる機会であったと思ひます。

高齢者と高校生winwinで

15班 酒井結愛 池田莉子 河本桜香 井上舞

○活動の目的

地域の高齢者と高校生が繋がり、高齢になってから、より健康に生き生きと暮らすことのできる地域の有り方を考える

私達は、「地域の高齢者と高校生が繋がり、高齢になってより健康にいきいきと暮らすことのできる地域のあり方を考える」という活動目的で探究活動を行いました。

○まず

落合地域の高齢者の介護予防と認知症予防のため毎週1回体操教室を開いている

元気輝きサロン青空に参加
→高齢者の方々の想いを聴きました

そういや、普段、家族以外の高齢者の方と話す機会ない(^_^;) 思ったより難し〜い

まず元気輝きサロン青空に参加させていただき、お話を聞かせていただきました。実際に話してみると思った回答は得られず、必要な回答を得られないという壁にぶつかりました。普段から地域の高齢者と話す機会が少なく、高齢者とコミュニケーションを取る難しさを感じました

○次に...真庭市の郷土料理について教わりました

黒豆を使った黒鯛桜寿司

黒豆で色付けされたすし飯は柔らかなピンク色で食欲をそそる！黒豆はほのかに甘い！

お話を聞かせていただいた高齢者のひとりに真庭高校まで来ていただき真庭の郷土料理である醍醐桜寿司を教えていただきました。醍醐桜寿司は黒豆で色付けされたすし飯で、柔らかなピンク色で食欲をそそられました。黒豆はほのかに甘くとても美味しかったです。

○高齢者の想い ○では高校生は？

- ・もっと高校生と交流がしたい！
- ・郷土料理を伝えたい
- ・真庭のことについて関心を持ってほしい

アンケート調査をしよう！

これらの活動から高齢者はもっと高校生と交流がしたい、郷土料理を教えたい、真庭のことについて関心を持ってほしいと考えていることがわかりました。そのため私達は高校生がどう考えているのかアンケート調査を行いました。

○高校生の意識調査 (アンケート結果)

- ① 高齢者の方と交流したいと願いますが
機会があれば交流したい 52.9% どちらでもない 29.4%
交流したい 13.7%
- ② 普段高齢者の方と交流する機会はあるか
ある 51.0% ない 49.0%
- ③ 高齢所の方とどんなことをしたいか
・レクリエーション ・郷土史を話す ・運動 ・昔遊び
- ④ 高齢所と交流をしてどんないいことがあるか
高齢者が何に困っているかわかる
昔の真庭市について知ることができる
自分自身の視野が広がる

92.3%が家族である高齢者との交流

意識調査の結果から高齢者の方と交流したいと思っている高校生は全体の6割で、高齢者の方と交流すると高齢者の方にも高校生にも双方にメリットがあると考えている高校生がわかりました。(アンケートの回答率が25%と少なかったことが反省点となっています。)

**○まとめ 高校生は高齢者と交流する機会少ない
しかし高校生は高齢者の方と交流したい**

気軽に集まれる交流の場を作る
ありがとうより助かったと高齢者の方が言われる機会にして生きがいにつながる活動になるよう工夫が必要

生き生きと暮らす Win-Win 昔の真庭市について知ることができる 自分自身の視野が広がる

今までの活動から、気軽に交流できる場を作ろうと考えました。そうすると高齢者の方はいきいきと暮らせるようになり、高校生は真庭市について知ることができ自分自身の視野が広がると考えました。そうすると双方がwinwinの関係ができることがわかりました。

■関わった人

元気輝きサロン青空の高齢者の方々 醍醐桜寿司を教えてくださいました大倉幸子さん
社会福祉協議会の職員の方

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 池田莉子)</p> <p>①
高齢者の方々はいろんな世代との交流の場を求めていることに気づきました。
交流をすることで、災害や何かあったときお互いに家の状況を知ることができ協力し合うことができると思いました。</p> <p>②
私達は最初にしたいことや目標をはっきり決めてなかったため何をしたらいいのかわからず困ってしまったため何がしたいのかなどをはっきり決めて、計画を立てることが大切だと思いました。計画を立てることでスムーズに計画を進める事ができると思いました。</p> | <p>(氏名 河本桜香)</p> <p>① 高齢者の方は自分たち高校生に何かを手伝ってほしいことがあると思っていただけ、高齢者の方は高齢者自身が何かをして助かったと言われたいことに気づきました。私はこのことに対して高齢になっても人の役に立ちたいと考えていると感じました。そのことをふまえて自分たちは、高齢者の方と地域に貢献できる活動をしてみたいと思います。</p> <p>②元気輝きサロン青空に参加させていただいて話してみると、思った返答が返ってこずに苦戦してしまい、高齢者の方に伝わりやすいように質問することが大切だとわかりました。このことから高齢者の方と話すときは簡単な質問や簡単な言葉で質問すると答えやすくなると思いました。答えやすいように質問しないと、聞きたい答えが返ってこない事がわかりました。この経験を生かして自分は高齢の方と話すときは聞き取りやすい声で簡単な言葉で話すことを心がけながら話すようになりました。</p> |
| <p>(氏名 酒井結愛)</p> <p>①今までよりも話し合いをすることで一つの意見だけで考えを進めるよりも多くの意見を組み合わせるとより良いものが見つかることに気がつきました。高齢者と高校生が繋がりをもちたいと考えていることがわかりました。</p> <p>②今まで高齢者と関わる機会がないのでどんなふうに関わればいいのかわからなかったけど、思っていた以上に楽しく話げできました。以前は、高齢者の方と話すこと自体苦手意識を持っていたけど今は話したいと思うようになりました。</p> | <p>(氏名 井上舞)</p> <p>①高齢者の方とあまり交流する機会が少なかったから、高齢者の方の気持ちがわからなかったけれど、交流することで高齢者の方の思いがわかりました。具体的には高齢者の方々は、私達高校生や若い世代の人たちとたくさん交流したいという思いを持っておられることに気がつきました。</p> <p>②高齢者の方は真庭の今の状況や若い世代とたくさん交流したいということがわかったから、高齢者の方とたくさん話したいと思いました。今後、高齢者の方が生き生きとした暮らしができるようになるような地域になると良いと思いました。</p> |

【担当教員 石井恵理 講評】

地域の高齢者の方とコミュニケーションをとる際に、難しさを感じていましたが、同時に楽しさも感じていた様子が印象的でした。当初思い描いていたような活動に繋ぐことができず、苦戦しましたが、高齢者の方と積極的に、主体的に、関わりを持とうとしていましたね。だからこそ、関わった高齢者のお一人に学校に来ていただいて郷土料理を教えてくださいましたという、次の活動に繋がっていったのだと思います。高校生と高齢者、世代を越えて共に楽しめる活動をしていくことが、年齢を重ねても生き生きと生活するために有意義であると感じられたことが一番の成果でした。

「我が家の備えが地域の備え」

16班 小柳翔夢 片山莉音 藤本煌生 石井海希 藤井祐也

活動目的、きっかけ

- ・小学生、高校生、若い方に自分たちから防災について知ってもらいたい。
- ・避難所、防災マップ、災害が起こりやすい所を確認してもらいたい。
- ・地域の防災意識をもっと高めたい
- ・西日本豪雨災害が起きて災害についてもっと知りたい



取り組んだ内容

- ・十字屋の備蓄倉庫を見学
(汚泥脱水車、蓄電施設など)
- ・落合中学校、落合こども園の避難訓練についてお話を伺う
(意識していること、避難の仕方など)



自分達自身が、災害のこと(備蓄品や備え)について、まだ知らないことが多くあったので、まずは自分達で見て、聞いて、理解し、学びたいと思いました。

十字屋備蓄倉庫、落合中学校、落合こども園に行き、地域の備えについてお話を聞かせてもらいました。十字屋備蓄倉庫には、生活するための必需品があり、色々な物をたくさん備蓄するのでなく、最低限に抑えて準備しておくことの大切を知りました。中学校、こども園では避難訓練の大切さを知りました。



結果に対する気づき

- ・私達の知らなかった防災の事や備蓄品(メモセット、バッテリー)
- 気づき
- ・私達の住んでいる地域には高齢の方や身体の不自由な方などが何人いるのかを確認
 - ・自助、共助、公助をする



地域の備えについて知るために十字屋の備蓄倉庫と落合こども園に行きました。落合こども園では、園長先生より、避難訓練の仕方や防災設備を見学させてもらいました。本校(真庭高校)の合同避難訓練に参加させてほしいと依頼されました。

企業や中学校、こども園で備蓄品についてお話を聞いて、まずは自分達の家庭で準備をし、備え、災害対策を心がけていかなければならないと思いました。中学校やこども園では改めて避難訓練の大切さを感じました。

成果

- ・避難訓練の大切さをよりいっそう理解できた
 - ・自分達がまず対策しないといけないことがわかった
- 今後の課題
- ・実際に災害が起こると何が大変なのか
 - ・学校や住んでいる地域でどこで水害が起こるか

まとめ、感想

- ・自助、共助、公助を心がける!
- ・自分自身で避難所、避難経路を確認!
- ・住んでいる地域の危険な場所の確認!
- ・いつ起こるかわからない災害に各家庭で防災グッズ
災害対策!

一番に我が家で災害対策をし、必要な物を備えることの大切さを実感しました。次に地域などで備えをし災害時は、協力して助け合うことが大切だと思いました。

自分達でまずは災害対策をして避難所を確認し、もし起きてしまった時は、被害を最小限に抑えられるようにしたいです。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の
 方々)

めぐりガーデン三村さん 落合こども園 落合中学校

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 (どういことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 藤井祐也)</p> <p>①防災について、改めて理解することができました。自分達の防災意識が低かったことに気づき、備蓄倉庫やこども園、中学校で、多くの方々からお話を聞かせてもらって、まずは我が家で備えておくことの大切さがわかりました。</p> <p>②最初は防災意識が低くて何が必要で、何が大切なのか、わからなかったけど、この1年間の活動を通して企業の方などからお話を聞いて、まずは自分達から備えて自助、共助、公助を大切にして、もし災害が起きた時は、このことを意識して行動するように、心がけていきたいと思いました。</p> | <p>(氏名 小柳翔夢)</p> <p>①防災についてあまり意識がなかったけど多くの人たちにお話を聞かせてもらって、改めて理解することができました。</p> <p>②防災には、何が大切で何が必要か分からなかったけど、この活動を通して多くのことがわかりました。これからは、もしも災害が起こったときのことを意識して生活していこうと思いました。</p> |
| <p>(氏名 藤本煌生)</p> <p>①実際に災害が起きた時、大人たちがどのように対処をするのかが、少ししかわからなかったが、とてもはやく対処することが分かった。また、市民のことをどれだけ考えているかが分かるお話を聞くことができてよかったです。</p> <p>②防災グッズを少しでもいいから我が家に備蓄しようと思いました。</p> | <p>(氏名 石井海希)</p> <p>①防災について理解することができました。また、防災は、地域で協力することが大切であることや自助、公助、共助の重要さもわかりました。</p> <p>②活動を始める前は、防災意識が低かったけど、お話を聞いたり見学したりして、活動を通して防災意識が高められました。日常生活の中でも活かしたいと思います。</p> |
| <p>(氏名 片山莉音)</p> <p>①防災について理解することはできました。中学校やこども園がどういう防災対策をしたり、子どもたちに対してどういう防災意識を持たせて訓練をしているのか学ぶことができました。このことを通して自分も防災に対して意識が高まりました。</p> <p>②活動を始める前は防災意識が低かったけど、TRの活動を通して意識が高まり、家の周辺の危ないところなど、家族と防災について話す機会ができました。</p> | |

【担当教員 杉 有美 講評】

活動を通して、地域の備えから我が家の備えを考え、見直すきっかけとなりました。そのことから、低かった防災意識が高まったことは、嬉しく思います。災害時には、みなさんのような高校生の方が必要不可欠です。日頃から自分にできることを考え、災害時には今回の学びを生かし、行動できる人になって欲しいと願っています。

災害時の備え

17班 酒井陽菜・福井大河・須々木陸斗・市愛望



6月、コンビニの災害支援について知るため、セブンイレブン久世店とローソン下市瀬店に行きました。共通して避難場所としてコンビニを提供したり、トイレなども貸している事がわかりました。真庭市では、これまでに災害があまりないため、これといった対応はないということを知りました。



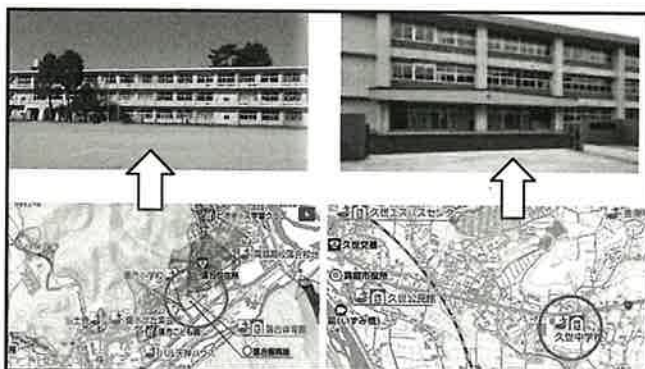
本校（真庭高校）の備蓄倉庫を確認しました。真庭高校では非常食や水はもちろん、ストーブや毛布などがあり避難してきた地域の人たちが少しでも快適に過ごしてもらえるように、ある程度のものが備蓄してある事がわかりました。



落合病院と金田病院で、災害時の対応について聞きました。どちらも災害時に停電が起きてしまったら予備電気に自動で切り替わるような設定になっていました。非常食は入院中の患者、医者、看護師などが、救助されるまでの最低3日間、もつように備蓄してありました。そして、病院の備蓄の食べ物はきちんと栄養も考えてあるということがわかりました。



地域の避難所では、避難してきた人たちのための食料や水、毛布などが備蓄してあり、避難してきた人がきちんと生活できるような工夫がされていることを、改めて知ることができました。このように、災害が起きた場合ここに来れば、安心できるなど改めて思いました。



この写真は、班のメンバーの身近な避難所の写真です。みんなが、自分の地域の避難所を、確認する必要があることを、確認しました。



今回のTRを通して、地域の防災対策を確認し、その施設ごとに防災対策や対応ができている事がわかりました。病院の災害時の対応は入院患者を最優先にしている事もわかり、自分たちにとって一番身近な避難所について改めて確認し、知ることができました！

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

落合病院の職員の方、金田病院の職員の方、コンビニの店員さん（セブン-イレブン、ローソン）

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(氏名 福井太河)</p> <p>①TRを通してあらためて災害対策は大事なんだなと思いました。そして地震が起こった時は、きちんと対処していきたいと思いました。</p> <p>②災害が起こった時は、しっかり周りの人にも目を向けて、子供とかお年寄りを助けようと思いました。</p> | <p>(氏名 須々木陸斗)</p> <p>①TRを通して災害が起こった時の対策や工夫を考えることができました。地域の病院での対策も参考になることが多くありました。僕も我が家の災害対策を家族で考えたいと思いました。</p> <p>②災害が起こった時は、小さい子やお年寄りを助けたいと思いました。</p> |
| <p>(氏名 酒井陽菜)</p> <p>①TRの活動を通して学んだことは、他者と協力することの大切さです。一人でやろうとしても、誰かの協力がないと、できないということに改めて気づくことができました。</p> <p>②災害が起きた場合の対処方法や安全な避難所について知ることができました。また、このTRを通して、小学生や中学生たちへも防災の大切さを伝えていきたいなと思いました。</p> | <p>(氏名 市 愛望)</p> <p>①TRの授業を通して、「防災」について班員のみんなど考え、生きていく上で知っておくといふ大切な避難場所や対策を調べて知ることができました。コンビニの災害時の対応や備蓄から調べ、実際に話を聞きに行き、視野を広げるために病院や学校も調べるすることができました。</p> <p>②災害が起きたときの対処の仕方や、身近な避難場所を知りました。活動を通して、対処の仕方を知ることができたため、災害がもし起こった時には、自分から積極的に動いて頑張りたいと思いました。</p> |

【担当教員 杉 有美 講評】

地域の防災対策を知る目的で、身近なコンビニエンスストア（ローソン・セブンイレブン）の防災対策や防災支援の実態を知ることから始めた研究が、地域の病院そして自分たち個々の避難場所の確認へと広がりました。今回のみんなの活動が、地域の避難所の質の向上や家庭の防災対策につながるよう、今後も取り組んでいきたいと思います。

消防士の台所

18班 森岡志琉・前田祥起・前本裕月・磯田悠貴



消防士の人と座談会しました

7月、真庭市消防署の消防士さんと座談会を行いました。消防士の日頃の仕事内容や真庭市の災害の件数や救助の様子を知ることができました。座談会の中で、地域に向けて広報活動のお手伝いをする事に決まりました。



消防士の台所に参加しました

10月、「消防士の台所」という、真庭消防署が主催するイベントに参加しました。このイベントは、消防士の仕事を実際に体験ができ、消防士の仕事を知ってもらうことを目的にしたイベントでした。このイベントで、僕達は、参加者へのアンケートを作成しました。そして「早着替えのイベント」を考えました。



「早着替え」のイベントは消防士さんと話し合い、とても面白い企画になりました。私達も参加し、消防士さんと競い合いました。アンケートの結果、「早着替え」イベントは大変好評でした。



全体的に「消防士の台所」イベントは、小さい子どもから高齢者まで大変勢の方が来られました。子どもも消防士の服を着て、消防車に乗って楽しんでいました。消防士さんの仕事を広く、地域の方に知らせる会になり、僕達もよい勉強になりました。



僕達が育てた野菜(ネギ、パフ丸、枝豆)を台所メニューに提供しました。来場者にとっても喜んで食べてもらえました。消防士さんの料理はどれも美味しかったです。



一日、消防士さんの仕事を体験し、人の命を守り、救助する使命感の尊さを感じることができました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭消防署の方、真庭市広報の方

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(氏名 前本裕月)</p> <p>①今回消防士さんと多くの時間、関わったことから、消防士さんは、災害が起きた時にすぐに優しく冷静に対応してくれる方たちだと実感しました。</p> <p>②消防署の広報活動の一環として、歳末の火の用心の告知放送を担当させてもらったことは、大変良い経験になりました。この放送を担当したことで防災意識が高まりました。</p> | <p>(氏名 前田祥起)</p> <p>①消防士さんの仕事の内容がわかりました。災害や事故などが発生したら消防士の方々は、すぐに対応してくれることがわかりました。</p> <p>②消防士の方々から教えてもらったことを災害が起きたときに活かせるようにしたいと思いました。歳末の火の用心の告知放送を担当させてもらったことは、大変良い経験になり、防災意識が高まりました。</p> |
| <p>(氏名 森岡志琉)</p> <p>①災害が起きた時、消防士の方がいかに早く駆けつけてくれるかを知ることができ、その大変さと日頃の訓練の様子を知ることができました。</p> <p>②災害時に冷静に対応することの大切さを知り、周りをよく見て判断できる人になりたいと思いました。</p> | <p>(氏名 磯田悠貴)</p> <p>①災害については、前から知っていたけど消防士さんの話を聞き、改めて災害時に持つていくものや防災グッズなど色々なものを準備したらいいことを学びました。</p> <p>②TRで学んだ防災の知識を活かし、今後災害が起こった際には、みんなを助けられるようになりたいと思いました。そして、日頃から避難するために必要なものを準備しておこうと思いました。</p> |

【担当教員 杉 有美 講評】

消防士さんの仕事に興味を持ち、仕事の内容が知りたい、真庭の災害の状況を知りたい、からスタートしたTRでした。そこで、活動の中心が真庭消防署の広報活動のお手伝いとなり、「消防士の台所」「歳末の火の用心告知放送」とみなさんは貴重な経験をしました。今回の経験が経験で終わらないよう、日頃から自分にできることを考え、災害時には今回の学びを生かして行動できる人になりましょう。

『地域医療と介護』

19班 佐田愛香・奥田莉那・横川乃歩・岡本亜美

落合病院での聞き取り

大西真理子さん、落合病院の紹介

昭和61年、落合高等学校専攻科を卒業し、同年に看護師免許を取得し落合病院で働いている
また、平成16年に病棟主任、平成19年に病棟師長、平成26年に看護部長となった
落合病院は真庭市で唯一の産科施設、透析施設（腎臓病の診断と治療を行うところ）がある。また災害拠点病院でもありDMAT（災害派遣医療チーム）も活躍している

地域と落合病院のつながり

看護と介護は井口会というグループで繋がっている

課題

- ・真庭市の専門医が少ない
- ・看護師が不足



大西さんは落合高等学校専攻科を卒業し、同年に看護師免許を取得し落合病院で働いています。落合病院は真庭市で唯一の産科施設、透析施設（腎臓病の診断と治療を行うところ）があります。また災害拠点病院でもありDMAT（災害派遣医療チーム）も活躍しています。看護と介護は井口会というグループで繋がっている。課題は、真庭市の専門医が少ない、看護師が不足しているということ。

グループホーム青空での聞き取り

【湯浅和子さん、グループホームの紹介】

グループホームあおぞらで働いている。



倉敷市短期大学（保育科）を卒業したあと、自宅介護支援センターの立ち上げに携わり落合病院の療養病棟勤務を経ていた。障害を持っているお兄さんの影響もあり、介護や福祉に興味がありましたが、当時は福祉関係の大学がほとんどなく、保育の短期大学に進学したそうです。

グループホームとは、介護が必要な認知症のお年寄りが、少人数を1単位（1ユニット）とし、スタッフと共同生活を営みながら認知症の進行を緩やかにし、安定した穏やかな生活を支援することを目標とした介護サービス。

施設数は34,825と少なく入所できない人も多い。

【地域と施設のつながり】

お年寄りや介護に携わる人達が地域の中に出ていき、地域の人々との交流を深め、地域の様々な人達が介護施設に出入りすることで、お年寄りだけではなくみんなが暮らしやすい町づくりが繋がっている。

湯浅さんはグループホーム青空で働いていて倉敷の保育科短期大学を卒業したあと落合病院の療養病棟勤務を経ていた。施設数が少ない。地域と施設の繋がりは交流を深めてみんなが暮らしやすいまちづくりになっている。

看護と介護は別々のことだと思っていた

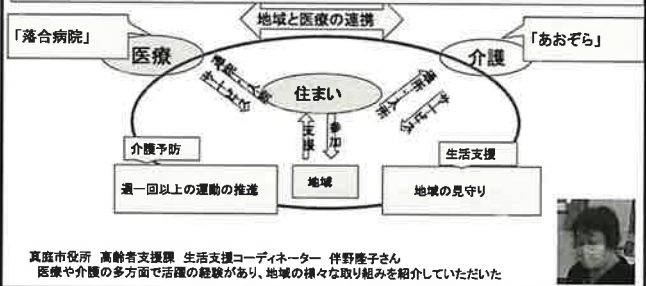
医療と介護は、高齢者になっても安心して暮らせるように、地域の人から支えられることで繋がっている。



私達は看護と介護は別々のことだと思っていました。落合病院からグループホーム青空は利用者の体調を管理していてグループホーム青空は退院患者で認知症になった人はグループホーム青空を利用しています。

真庭市の地域包括ケアシステムについての説明

地域包括ケアシステム：地域で生活する高齢者住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステム



真庭市役所 高齢者支援課 生活支援コーディネーター 伴野隆子さん
医療や介護の多方面で活躍の経験があり、地域の様々な取り組みを紹介していただいた

この図は真庭市の地域包括ケアシステムの図を抜粋したものです。将来的に私達は真ん中にある「住まい」が生活の中心となります。病気や怪我があると医療のサービスを受けて通院や入院をします。認知症など介護が必要になると介護のサービスを受けて通所や入所をします。その他、生活支援で地域の見守りや介護予防として週一回以上の運動の推進などを行っています。最近では医療や介護のサービスが必要になる前に予防をすることが地域で注目されています。

ふれあいいきいきサロン

【サロンとは】

地域の人とふれあいながら認知症予防活性化につなげること

【サロンの役割】

認知症予防のための体操、人との交流

【サロンでの活動内容】

人とコミュニケーションを取ることや体操

【利用者の声】

「一週間に一回することで自分が覚えている範囲を思い出しながらできることで認知症予防に繋がっている感じがする」

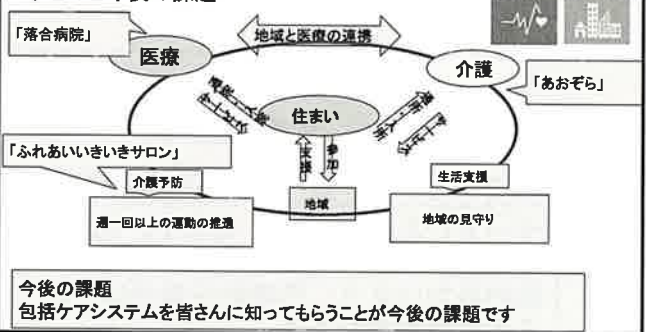
【体験しての感想など】

開会のふれあいいきいきサロンに行って高齢者の方たちは体力もあって毎週していることが素晴らしいと思った。スクワットや指の動きを交互に変えたりすることはとても難しかったけどとても楽しむことができました。



今回は介護予防として「ふれあいいきいきサロン」を開催している開田地区のサロンを訪問し体験してきました。体験して開田のふれあいいきいきサロンに行って高齢者の方たちは体力もあって毎週していることが素晴らしいと思いました。スクワットや指の動きを交互に変えたりすることはとても難しかったけどとても楽しむことができました。

まとめと今後の課題



医療や介護、地域がそれぞれ連携をしている実態がわかりました。私達は様々な施設を訪れ、話を聞くことでこのケアシステムを知ることができました。皆さんはこの地域のつながりを知っていましたか？今後の課題としては包括ケアシステムを皆さんに知ってもらうことです。より多くの人に知ってもらい、よりよい生活が送れるようにして欲しいと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭市郷育魅力化コーディネーター 吉野美保子さん
 真庭市役所 高齢者支援課 生活支援コーディネーター 伴野隆子さん
 落合病院 看護部長 大西真理子さん
 グループホーム青空 湯浅和子さん
 ふれあいいいききサロン 開田地区のみなさん

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
 (どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(佐田 愛香)</p> <p>①福祉では私の知らないことがあって病院と施設が繋がっていることがわかった。包括ケアシステムが病院と介護施設でつながりあっていて高齢者がいつでも具合が悪くなっても預け先が決まっていることがわかった。</p> <p>②包括ケアシステムのことについて知ることができた。今までは介護と医療は病気がある人で繋がっていることと思っていたけど、私が行った介護施設は認知症になられた方たちを施設に預けていると知ることができた。色々な知らなかったことを知ることができたと思う。</p> | <p>(奥田 莉那)</p> <p>①施設数が少なく施設に入所待ちしている人がたくさんいることがわかった。病院と介護施設が連携していて繋がっていることがわかった。</p> <p>②医療と介護は連携しあっていることがわかった。私は福祉に全く興味がなかったけどTRで学ぶうちに福祉の様々なことがわかった。包括ケアシステムで医療と介護、地域と繋がっていたことがあり福祉について興味が湧くようになった。</p> |
| <p>(横川 乃歩)</p> <p>①真庭市にも包括ケアシステムがあることがわかり福祉と連携をしていたことがわかった。</p> <p>②医療や介護はどのように繋がっているのか知らなかったけど連携し協力して看護を行っているので住みやすい環境が作れていると思った。地域との連携がとれているので真庭から離れることなく治療を受けられるから安心して治療を受けられると考えた。</p> | <p>(岡本 亜美)</p> <p>①真庭市は落合病院とグループホームあおぞらのように井口会というグループで繋がっていることがわかった。</p> <p>②最初はどんなつながりがあるか知らなかったけど調べることで地域の人達と病院連携していて安心して暮らせるようにしていることがわかった。</p> |

【担当教員 杉本祥汰 講評】

真庭地域の医療・福祉について、落合病院やグループホーム青空、ふれあいいいききサロンなど地域包括ケアシステムにおけるそれぞれが連携をしている実態を体験を通して学ぶことができました。看護科の生徒にとっては授業で学んだ「地域包括ケアシステム」について真庭の実態を学び、食農生産科の生徒にとっては看護や介護の実態について初めて知ることばかりで深い学びのある活動であったと思います。真庭市郷育魅力化コーディネーターの吉野美保子さんには「聞き書き」の手法を教えていただき、今回訪問した方々を紹介していただきました。生活支援コーディネーターの伴野隆子さんには医療・福祉に関する施設の紹介やケアシステムの解説などでお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後の課題として、より主体的な活動や仮説の設定と検証など探究活動における課題がいくつかあります。今年度を振り返り、もっと成長して欲しいと思います。

「地域農業とこれからの農業」

20班 布野未彩・屋敷太陽・福本和也・福島悠斗

農家の方に取材をしてわかったこと

| | | |
|--|--|---|
| 農福連携
妹尾 宗夫
50種類以上の野菜
障がい者の方と働く
家族経営 | 直売流通と地域振興
織田 龍樹
醍醐の里 役員
安心安全な野菜を作る
ため農業を始める | スマート農業
矢萩 正孝
ドローンなどの最先端技術の利
用
香江原で働く
後継者を増やすために取り組む |
|--|--|---|

私達は8月に3人の農家の方に取材を行いました。妹尾さんは家族経営をしています。障害を持っている方もいますが、雇用の上から農業と福祉を実践しています。織田さんは農業を使わない安全な野菜を栽培しながら、道の駅「醍醐の里」の運営をしています。矢萩さんは、ドローンを活用した最新技術を使ったスマート農業実施プロジェクトに参画し、生産管理をデータ化して誰でもできる農業を目指しています。

地域農家が抱える課題

高齢化が進む 組合員の高齢化 後継者不足

↓ ↓ ↓

耕作放棄地の増加 技術者の不足 農業者の不足

↓

農業者が足りない！！

三人の方に取材をした結果、主に3つの課題がわかりました。農業者の高齢化が進み、後継者不足になっています。また、若い世代の農業者が少なく、技術者も不足しています。農業者の減少の結果、耕作放棄地の増加が起きています。ここから見えてきたのは、地域を支える農業者が足りないという大きな課題です。

地域農業とSDGs

農業を活性化させる

↓

若い人が農業に携わり受け継ぐ

↓

働きがいのある農業経営

↓

耕作放棄地のない魅力的な街づくり

そしてこの課題を解決するためにまずは地域の農業を活性化させることが必要だと思いました。地域農業を活性化させることで若い人が農業に携わり受け継ぐことで働きがいのある農業経営の実現を行うことで自然と農業者が増えていきその結果、耕作放棄地のない魅力的な街づくりを行える好循環を創り出すことができると考えました。

happy farm plus R 中村 妃佐子さん

最初、農業は高齢者の人がやるもので、豊くてきつい仕事だと思っていた。

剣道で縁があった農家の人に農業に誘われて始めた。

循環型農業というバイオマス液肥を使って自然に優しい農業をしている。

農業は辛いけどその分元気を分けてくれて、様々な農家の人々のおかげで食を繋げてれている。

「野菜×作る+食べる+食べる=HAPPY」 <https://happyfarm.co.jp/> r5 0131より

若い農業者に農業の魅力を聞きました。林ファミリーぶどう園の林圭吾さんは、岡山に来たとき、瀬戸ジャイアンツを食べ、是非ブドウ栽培をしたいという思いから、京都から岡山に移住して、きょうとうファームで4年の研修の後、農園を開設しました。ピオーネやシャインマスカットを生産販売し消費者からも高い評価を得て、農業の魅力を伝えてくれました。

林ファミリーぶどう園 林 圭吾さん

京都(宇治市)から岡山県に移住

↓

きょうとうファームで4年研修

↓

自分の農園を開設

↓

ぶどうを中心に栽培

農業はすこし辛いけど続けると利益は増えたり楽しくなる。

今はとても苦しい状況だけど、いつか、発展できる。

林ファミリーぶどう園の林圭吾さん。 <https://www.facebook.com/happyfarmplusr/> r5 0131

happy farm plus Rの中村妃佐子さんに聞きました。この事業所では野菜を生産し地域へ供給しています。育てて採れた野菜に感動し、これからも農業をがんばろうと思ひ生産活動を続けています。野菜づくりが地域の食を守り地域の活性化に繋がることを目指しています。と熱く伝えてくれました。

まとめ

子どもたちが「農業をしたい」と思う

↓

農業に対するイメージを変える。例えば「大変そう」「面倒くさい」

↓

農業は、誰でもできる。みんな始められる。「楽しい」「嬉しい」

魅力 + 楽しさを伝え続ける！！

子どもたちの農業体験と交流を増やす。

SNSを活用して 農業経営の発信

農業を活性化していくには、子どもたちが、農業をしたいと思うことが大切だと思いました。農業に対し「大変そう」「面倒くさい」というイメージを持ちがちですが、小さいときに「楽しい」「嬉しい」といった経験をさせ、農業は誰でも、みんなで始められることを伝えることが大切だと思います。私たち高校生ができることは、地域の農業者を取材し農業体験や交流の企画をSNSを利用して農業の楽しさを発信することだと思います。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

妹尾宗夫さん 織田龍樹さん 矢萩正孝さん 林圭吾さん 中村妃佐子さん
真庭市郷育魅力化コーディネーター吉野美保子さん

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

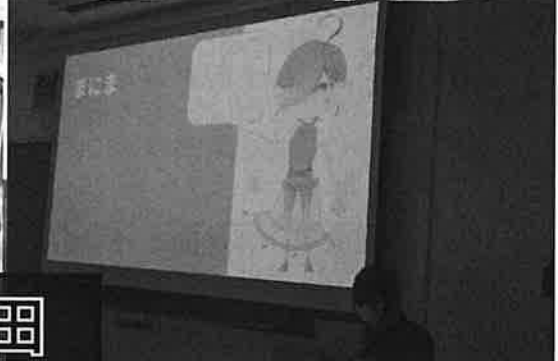
| | |
|--|---|
| <p>(氏名 布野未彩)</p> <p>①農業科だからある程度わかっているとおもっていたけど、わからないことが多かった。農業のリアルが見えたと楽しさがよくわかった。イメージ通り、お年寄りが多かった印象だった。人手不足は、農業だけではなく一次産業の課題だった。子どもたちが、農業に対する意識を変えることから始めたいと思った。</p> <p>②最初は、他の班比べ活動が楽しくなかったけど、同じ班の子と話しながら進めていき楽しかったです。インタビューに苦手意識があったけど聞いていくうちに興味をもち、もっと聞きたいとおもえた。若い人の話は、とても関心深くたくさん質問できました。</p> | <p>(氏名 福本和也)</p> <p>①農業の楽しさや苦勞を知った。この経験を将来に少しでも生かしていけたらと思う。地域農業の大変さと楽しさが少しだけわかった気がした。今後にも農業の魅力を伝えていきたい。</p> <p>②農業にめんどくさい、きつい、などの悪いイメージを持っていたが、たくさんの農業者の話聞いて楽しい、儲かるなどの良いイメージが変わった。同じように、農業に悪いイメージを持っている人たちに農業のいいイメージを伝えていきたいと思いました。</p> |
| <p>(氏名 屋敷大陽)</p> <p>①地域の農業について少し知識を深めることができました。地域農業にはまだ可能性がたくさんあってそれを伝えて行けたらいいなと思いました。話を聞いた地域の農家さんは誰もが楽しく農業をしていて、農業の素晴らしさも実感しました。</p> <p>②地域の農業についてのイメージが変わりました。最初の農業のイメージは高齢者が行う辛い仕事なんだなと思っていましたが、活動を行う中でただ辛いだけでなく達成感や作物に対する愛情が芽生えて楽しそうだなと思いました。これからも農業の魅力を沢山のの人に伝えていきたいと思いました。</p> | <p>(氏名 福島悠斗)</p> <p>①真庭の農業を調べて農業のことや林ぶどう園やハッピーファームのことを少し知ることができた。</p> <p>②テーマに沿って調べることにについて、適切な手順を考えて行うことが重要だとわかりました。</p> |

【担当教員 清本敬二 講評】

真庭地域の農業について、5人の農業者から話を聞くことができました。農福連携、スマート農業、生産物の直売から経済活動の活性化について初めて知ることばかりで、農業者の高齢化、農業者の減少、担い手不足などの課題に戸惑いも多かったと思います。そして、ぶどう作りに情熱を注いでいる林さんや多くの野菜を地域に提供している中村さんの話に若者を農業にひきつけていくエネルギーを感じたと思います。高校生として「SNSを通して地域の農業や農業者の様子を発信したい」とまとめたことに対して、とても良い発想だと思いました。できることは何だろうか、と考えたとき、もっと広く地域農業の聞き取りです。活力ある農業を発信するためにも疑問に感じることを訪ねて聞くことで、もっと広い視野を持って地域農業を考えることができると思います。今回の聞き取り活動を通じて、人と関わり聞きとる楽しさをあらためて振り返ってもらいたいと思います。



第2学年



佐古・乙部・島田
古賀・山口・眞壁
森腰・高橋・大澤
高田・仲井



令和4年度 2年生 真庭トライ&レポート (TR) 年間活動計画

| 月日 | TR (木曜5限) | | | | | | LHR (木曜6限) | | | | |
|------------------------|-------------------|--|--------------------------|-------|--------|-------------------------------|------------|--------------------------------|----|------|-----|
| | 回 | 内容 | プロセス | 評価 | 形態 | 活動場所 | 担当者 | 内容 | 形態 | 活動場所 | 担当者 |
| 4月14日 | ① | ■全体ガイダンス
■探究サポーターLesson7 | (1)テーマ導入 | | 2年全体 | 会議室 | 古賀 | 学年集会 | | | |
| 4月21日 | ②③ | ■全体を4つのチャンネルに分類
■各チャンネル内でグループ決め (1班4~6名) | | 評価Ⅰ | | | | TRへ | | | |
| 4月28日 | ④ | ■各チャンネル内でグループ決め
■探究活動計画とテーマ設定 | (2)テーマ設定 | | 4教室に分散 | ※
講義室
2-1
2-2
2-3 | 各担当者 | 生徒総会 | | | |
| 5月12日 | ⑤⑥ | ■探究活動計画とテーマ設定 | (2)テーマ設定
(3)探究活動計画 | 評価Ⅰ | 4教室に分散 | ※ | 各担当者 | TRへ | | | |
| 5/19~6/9 | 中間審査・修学旅行準備等でTRなし | | | | | | | | | | |
| 6月16日 | ⑦ | ■探究活動
◎五感を通じた実体験を積み重ねる。
◎input (読む聞く) | | | 4教室に分散 | ※ | | 普通科：遊園LHR (キャリアパスポート記入) 看護科：自主 | | | |
| 6月23日 | ⑧ | →output (話す書く行動する)
→outcome (成果・効果) | | | | | | 薬物乱用防止教室 | | | |
| 7月14日 | ⑨⑩ | ○自分の目で見る、耳で聞く、手で触れる、足で訪れる。
○メディア情報 (本・TV・PC) だけに頼らない。
・各プロジェクトで外部講師講演OK
・図書館・インターネットでの調べ学習
・校外インタビュー
・アンケート (生徒・教員・保護者・地域)
・実験・実習・製作
・カメラ・ビデオ活用・パソコン
・調査 (同じ場所に複数回) (異なる場所で比較分析) | (4)探究活動① | 評価Ⅱ | | | 各担当者 | TRへ | | | |
| 7月
特別時間割
7/20~22 | ⑪
~
⑬ | | | | 班ごとに活動 | 教室外 | | | | | |
| 9月8日 | ⑭ | ■9/22中間発表会に向けたまとめ (スライド作成)
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)
・プレゼン練習 (原稿なしで発表) | (5)まとめ① | 評価ⅠⅡⅢ | 4教室に分散 | ※ | 各担当者 | 各クラス自主 | | | |
| 9月15日 | ⑮ | | | | | | | クリーン作戦 | | | |
| 9月22日 | ⑯⑰ | ■中間発表会@会議室 7分発表→2分質疑応答 | (6)発表① | | 2年全体 | 会議室 | 2年団 | TRへ | | | |
| 9月29日 | ⑱⑲ | | | | | | | TRへ | | | |
| 10月6日 | ⑳㉑ | | | | | | | TRへ | | | |
| 10月20日 | ㉒ | ■探究活動
◎五感を通じた実体験を積み重ねる。
◎input (読む聞く) | (4)探究活動② | 評価ⅡⅢ | 4教室に分散 | ※ | 各担当者 | 性教育講演会 | | | |
| 10月27日 | ㉓ | →output (話す書く行動する)
→outcome (成果・効果) | | | | | | 普通科：遊園LHR 看護科：宣誓式 | | | |
| 11月10日 | ㉔ | | | | | | | 地域合同防災訓練事前LHR | | | |
| 11月24日 | ㉕㉖ | | | | | | | TRへ | | | |
| 12月15日 | ㉗ | ■1/27学年発表会に向けたまとめ (スライド作成)
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)・プレゼン練習 (原稿なし) | | | 4教室に分散 | ※ | | 人権LHR | | | |
| 12/21~23
PM | ㉘~㉚ | 二者面談中は午前中授業で、午後がフリー!
その午後を使って1/14チャンネル内発表会に向けたまとめ | | | 班ごとに活動 | 教室外 | | | | | |
| 1月12日 | ㉛㉜ | | (5)まとめ② | | | | 各担当者 | TRへ | | | |
| 1月19日 | ㉝㉞ | ■1/27学年発表会に向けたまとめ (スライド作成)
・スライド6枚 (作成マニュアルあり)・プレゼン練習 (原稿なし) | | | 4教室に分散 | ※ | | TRへ | | | |
| 1月26日 | ㉟ | | | | | | | TRへ | | | |
| 1月27日 | ㊱㊲ | ■学年発表会→代表選出 | (6)発表② | | 2年全体 | 会議室 | 2年団 | | | | |
| 2月2日 | ㊳㊴ | ■成果発表会に向けたまとめ
スライドなど発表準備 (代表班)
■まとめ冊子原稿作成 (スライド印刷+メモ) (全班)
成果発表会準備と並行してまとめ冊子原稿作成を行う。 | (5)まとめ③ | | 4教室に分散 | ※ | 各担当者 | TRへ | | | |
| 2月4日 | ㊵㊶
㊷S1 | ■TR成果発表会
学校に戻ってきてアンケート記入 | (6)発表③
(7)アンケート
実施 | | 全校 | 集合組合
センター | 2年団 | | | | |
| 2月16日 | 52
53 | ■まとめ冊子原稿作成 (スライド印刷+メモ) | (7)アンケート
実施 | | 4教室に分散 | ※ | 各担当者 | 普通科：LHR 看護科：卒業式準備 | | | |

2年団：佐古・乙部・島田・古賀・山口・眞壁・藤原・高橋・大澤・高田・仲井

■形態：学年単位とし、3年間を通して段階的に発展していく。3年間の見直しをもって、総合的な探究の時間『真庭Try&Report (TR)』を計画する。
【第1学年】「HOW TO LEARN」(ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ) 課題別グループ学習 (興味・関心を広げる)
【第2学年】「WHAT TO LEARN」(自分で課題を設定し、調べる) 道徳別課題学習 (知識・理解を深める)
【第3学年】「HOW TO LIVE」(道徳実践・卒業後の生活のために学ぶ) 道徳別課題学習 (具体的な自身の道徳実践)

■学校全体TRテーマ『SDGs』
まとめ冊子のデータを有効活用してください!
R03まとめ冊子P.24：真庭市SDGsパートナー賞、H30まとめ冊子P.75：地域の匠・名人・プロフェッショナルの方々、H29まとめ冊子P.78：特別活動記録メモ (コンテストやイベント)

■学年テーマ『社会とつながり、自分を知る』
2年生52名【普通科34名+看護科18名】→4チャンネル 普通科看護科混合、1班3~6名が基本 (1)15名・(2)13名・(3)10名・(4)14名
▼11月12日(土)真庭ひとつなぎフォーラム (@集合組合センター) に代表生徒発表 (令和4年度中止)

| CH | チャンネル | 活動内容 | 生徒数 | 班番号 | 活動場所 | 担当者 |
|----|-------|--|-----|---------|-------|----------------|
| ① | 教育・心理 | ■教育と心理に関わる課題の見見・解決
真庭市役所・ティザービス施設訪問、アンケート調査 | 15 | 1班~3班 | 3階講義室 | 古賀
森藤
大澤 |
| ② | 美容・健康 | ■美容と健康に関わる課題の見見・解決
白梅の丘、ひまわりカフェ訪問 | 13 | 4班~6班 | 2-1HR | 佐古
眞壁 |
| ③ | 食事・栄養 | ■食事と健康に関わる課題の見見・解決
アンケート調査、レシピ開発 | 10 | 7班~9班 | 2-3HR | 高橋
島田 |
| ④ | 地域・防災 | ■地域おこしへの参加
こちら高校生市民防災係 (こち防) の継続・発展 | 14 | 10班~12班 | 2-2HR | 山口
高田
乙部 |

■コロナ情報メモ ■ 外部への直接交流体験は難しいので… 引続き
▼学習動画紹介、家で何が出来るか、youtube (小中高生向けなどターゲットを明確に)、テレワークやってみた!、LINEグループでテレビ会議やってみた! 家にいながら出来るSDGs
▼春休みみんな何してた? (雨晴天気関係ある? 起床時間就寝時間は? スマホ何時間? ゲーム? 手強い? 勉強? オリジナルで考えた遊び・勉強ある?、よく入れたアプリは?)
→問題点は? →提案 (個人・家族・地域の現状や、小中高生向けの視点)
▼海外の小中高は? コネスコスクールネットワーク活用で交流可能、

令和4年度 2年生TR中間発表会

■令和4年9月22日(木) 5・6限 @会議室

■2年生52名(普通科34名・看護科18名)全12班 各班5分発表・2分質疑応答(フィードバック記入)

◎他のチャネルの取組も知って自分たちの活動に生かそう!!
◎よりよい発表になるようにいろいろいるな視点から質疑応答を!!

| 班 | 発表タイトル | 班員 |
|----|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | いじめについて私たちが知るべきこと | 立川 天馬、豆原 雅人、升 耀生、三島 奈々 |
| 2 | LGBTQについて | 鈴木 奈々子、宮内 鈴奈、矢田部 心鈴、後河 彩奈、大塚 沙織 |
| 3 | 障害のある人に対する偏見をなくすために～今の私たちにできることは～ | 秋田 美有、岩本 瑞稀、馬坂 歩来和、香木 葵、平尾 彩乃、船木 愛結花 |
| 4 | 認知症について | 池田 啓人、藤久 豊、香川 朔太郎、東谷 結美佳 |
| 5 | 運動をして健康になろう | 宮本 千翼、小林 善翔、盛永 啓太、新田 陽菜、三澤 樟乃 |
| 6 | 美容と地域の関わり | 門野 七星、藤森 美奈、毛利 まり、森本 妃音 |
| 7 | 家庭でも作れる栄養食 | 奥田 華奈、西山 怜依奈、沼 栞香 |
| 8 | 食べるは幸せ～食事制限されても楽しめる食事を～ | 藤井 里名、谷本 遥菜、平井 夢来、山下 裕花 |
| 9 | 郷土料理について | 近藤 直哉、福岡 太一、中西 美咲 |
| 10 | 空き家について | 河井 集夢、山本 巧波、酒井 厚輝、杉山 恭悠、藤井 智己、松尾 陸 |
| 11 | 真庭市の魅力紹介 | 中村 織那、松永 知子、山中 愛望、平井 歩未 |
| 12 | 災害時に活用できるノート作り | 竹原 諒、草池 志帆、池本 耀生、宮島 世莉羽 |

| 日程 | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 13:35-挨拶 | |
| 確認事項(4分1分→5分2分) | |
| 13:38-13:45 班1 | 13:59-14:06 班4 |
| 13:45-13:52 班2 | 14:06-14:13 班5 |
| 13:52-13:59 班3 | 14:13-14:20 班6 |
| 14:20-14:25 フィードバック記入 | |
| 14:25-14:35 休憩 | |
| 14:35-14:42 班7 | 14:56-15:03 班10 |
| 14:42-14:49 班8 | 15:03-15:10 班11 |
| 14:49-14:56 班9 | 15:10-15:17 班12 |
| 15:17-15:22 フィードバック記入 | |
| (各班まとめて回収→班内回覧+成果発表会に向けて記入→教員再回収) | |
| 15:22-15:25 指導講評 | |

時間に余裕がないので、5分を過ぎた場合は質疑応答の時間で調整。

☆令和4年度TR成果発表会【令和5年2月4日(土)】では、各班(8)分発表(質疑応答なし)です。

【係分担】

- 司会進行 古賀 大澤
- 計時 古賀 大澤
- 写真記録 佐古 眞壁・島田
- 指導講評 佐古 眞壁・島田
- PC/マイク/スピーカー/スクリーン準備 乙部・森腰・山口
- フィードバックシート回収→古賀へ 高橋・高田

令和4年度 2年生TR学年発表会

■令和5年1月27日(金) 4・5・6限 @会議室

■2年生52名(普通科34名・看護科18名)全12班 各班8分発表・3分質疑応答(フイードバックシート記入)

◎他のチャネルの取組も知って自分たちの活動に生かそう!!
◎よりよい発表になるようにいるいるな視点から質疑応答を!!

| 班 | 発表タイトル | 班員 |
|----|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | いじめについて私たちが知るべきこと | 立川 天馬、豆原 雅人、升 耀生、三島 奈々 |
| 2 | LGBTQの人が生活しやすい社会の実現に向けて | 鈴木 奈々子、宮内 鈴奈、矢田部 心鈴、後河 彩葉、大家 沙織 |
| 3 | 障害のある人に対する偏見をなくすために～今の私たちにできること～ | 秋田 美有、岩本 瑞稀、馬坂 歩菜和、香木 葵、平尾 彩乃、船木 愛結花 |
| 4 | 真庭市の高齢者と長生きについて | 池田 啓人、藤久 愛、香川 朔太郎、東谷 結美佳 |
| 5 | 運動をして健康になろう | 宮本 千夏、小林 香翔、盛永 啓太、新田 陸菜、三澤 柳乃 |
| 6 | 美容と地域の関わり | 門野 七星、藤森 美奈、毛利 まり、森本 如音 |
| 7 | 郷土料理について | 近藤 直哉、福岡 太一、中西 美咲 |
| 8 | 食べるは幸せ～食事制限されても楽しめる食事を～ | 藤井 里名、谷本 遥菜、平井 夢来、山下 裕花 |
| 9 | 家庭でも作れる栄養食 | 奥田 華奈、西山 怜依奈、沼 桃香 |
| 10 | 空き家について | 河井 葉夢、山本 巧波、酒井 厚輝、杉山 恭悠、藤井 智己、松尾 陸 |
| 11 | 真庭市の魅力紹介 | 中村 綾那、松永 知子、山中 愛望、平井 歩未 |
| 12 | 災害時に活用できる防災ノート | 竹原 諒、草地 志明、池本 耀生、宮島 世莉羽 |

☆令和4年度TR成果発表会【令和5年2月4日(土)】では、各班(8)分発表(質疑応答なし)です。

【係分組】

■司会進行

古賀

■計時

大澤

■PC/マイク/スピーカー/スクリーン準備

乙部・森腰・山口

■指導講評

佐古

■フイードバックシート回収→古賀へ

高橋・高田

| 日程 |
|-------------------|
| 12:00-挨拶 |
| 確認事項 (6分1分→8分2分→) |
| 12:03-12:14 班1 |
| 12:15-12:26 班2 |
| 12:27-12:38 班3 |
| 12:39-12:50 班4 |
| 12:50-13:35 休憩 |
| 13:35-13:46 班5 |
| 13:47-13:58 班6 |
| 13:59-14:10 班7 |
| 14:11-14:22 班8 |
| 14:25-14:35 休憩 |
| 14:35-14:46 班9 |
| 14:47-13:58 班10 |
| 14:59-15:10 班11 |
| 15:11-15:22 班12 |
| 15:22-15:24 指導講評 |
| 15:24-15:25 連絡 |

発表時間が9分を過ぎた場合は質疑応答の時間で調整。

『いじめについて私達を知るべきこと』
1班 升耀生 立川天馬 豆原雅人 三島奈々

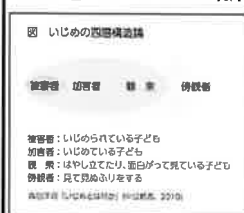
【活動内容】

- ・落合図書館や真庭高校の図書室で情報集め
- ・インターネットで詳細な情報収集
- ・真庭市役所へ訪問

私たちがこの活動を行った理由は、メンバー全員が教育関係の仕事に就くことを目標にしているため、いじめなどについて知りたいと考えたからです。私達は活動の中で落合図書館や真庭高校の図書室でいじめに関する情報を集め、真庭市役所の学校教育課の講元さんにお話を聞き、インターネットで詳しい情報収集を行いました。

【いじめの四層構造とは】

いじめを受けている「被害者」、いじめをしている「加害者」、いじめをはやしたてる「観衆」、見て見ぬ振りをする「傍観者」。



いじめの四層構造

<https://www.kyousyokuin.or.jp/enjoy/column/class/fukigen/20170419.html> より引用

インターネットを使っていじめの四層構造を知りました。いじめの四層構造では被害者・加害者・観衆・傍観者の4つで構成されています。いじめは観衆によって危害が過激化したり、傍観者が報告することで危害が過激になる前に抑えることができます。

【学んだこと】

- コロナ禍は子供達に大きなストレスを与える。
- いじめを再定義し、苦痛を感じる事は全ていじめに相当するとした「いじめ対策推進法」が制定されている。
- 学校教育課による被害者・加害者両者への支援。
- いじめの不認知を0にすることを目標にしている。

学校教育課さんに訪問して学んだことは、コロナ禍で子どもたちは強いストレスを感じていること、学校教育課は被害者だけでなく加害者の支援も行っていること、いじめの発生件数でなく不認知件数をなくすことを目標としていることが分かりました。

【いじめの起こりやすい環境】

子どもにとってストレスが溜まりやすい環境

- 例) 進学、新学期などの新環境
- ・他人と自分を比べてしまう
- ・大人が子どもを見ていない環境
- ・コロナ禍による規制が多い環境



私達はいじめについて調べていくうちにいじめの起こりやすい環境とは、子供にとってストレスの溜まりやすい環境と深い関係があるのではと考えました。入学直後や、新学期では不安やストレスを感じる子もいます。そして、多様性を認めにくい環境で自分との違いを感じ、大きないじめに発展することがあります。つまり、身の回りの環境がいじめの原因になることが分かりました。

【調査してわかったこと】

- ★顔なじみでも性格など自分と合わないところがあると苦手意識を持ってしまう。
- ★6割以上の方が学校でいじめを目撃しているので学校でいじめは起こりやすい。
- ★いじめについて自分から考える機会は意外とある。
⇒みんなが自発的に考えている！



私達は真庭高校の一年生と二年生にアンケートを行いました。アンケートを行ってわかったことは、顔なじみでも苦手意識を持ってしまい、学校でいじめは起こりやすい、いじめについて自分から考える機会は意外と多い、ということが分かりました。

【まとめ】

当事者への支援、いじめの認知運動、法律の施行、など



考えるだけでなく、行政、立法、司法がやっていることを活用して・・・

個人個人がいじめに対して行動する。

まとめとして、いじめ件数0を目指す学校側がいじめを隠蔽してしまふ可能性があるためいじめの不認知0を目標にしていることが分かりました。一人しとりがいじめを恐れずにとめれるよう行動していくことが大切です。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭市役所学校教育課の講元さん、落合図書館さん、真庭高校の1・2年生

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どうということを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(升耀生)</p> <p>①昨年は先生方が選んだ内容を調べたため方針やスライドなどやりやすいことも多かったが、今年は自分たちで決めた内容を調査し、活動を行ったため昨年ほどスムーズではなかったためメンバーだけで話し合い活動方針や内容を日程などを組む難しさや大変さを学んだ。</p> <p>②昨年以上に自分たちが軸で活動を行ったため、ハプニングが起きたときの臨機応変さを身につけることができた。また、自ら訪問の許可取りを行い、初対面の人とも会話をしたのでコミュニケーション能力や自分の考えを伝える語彙力を身につけることができるようになった。</p> | <p>(立川天馬)</p> <p>①いじめについて学んでいって、いじめが起きる理由は、周りの環境に大きく関係していることや、アンケートで調査した際、顔なじみでも性格や態度などで、急に苦手意識を持ってしまう人が多く、思っていたよりもいじめについて普段から考えている人たちがかなり多くいることをこの活動を通して知れた。</p> <p>②今回の活動で、いじめが起きる理由を知ったり、周りの方々がいじめについて深く考えているが、それでも6割の人達が学校内でいじめを見た子がいるという事実。考えるだけでなく実際にいじめの現場でそれを止める行動をすることが一番大切だと学べた。</p> |
| <p>(三島奈々)</p> <p>①今回のTRでは、自分たちでテーマを決めそれに向かってみんなで協力することができた。いじめに関連した情報をインターネットや図書館で調べてみると、いじめには四層構造があることが分かった。TR活動があったことであまり関わることのない普通科の人とコミュニケーションをとりみんなで意見交換をすることができた。</p> <p>②最初はコミュニケーションが上手に取れなかったが時間を重ねていくうちにグループの人とコミュニケーションが取れるようになった。最初は情報を見つけるのに苦労したけど、適切な情報収集ができるようになった。TR以外でも適切な情報収集が簡単にできるようになった。</p> | <p>(豆原雅人)</p> <p>①2年生では自分たちでテーマを設定して活動を行うことから「こう思ったからこうしよう！」とできる一方、物事があまり計画通りに進まなかった。このことから、①大まかな活動の順序を立てる⇒②時間に妥協せず活動。で当初決めていた目標を達成できていたのではないかと考える。</p> <p>②去年とはテーマが大きく異なり右も左も分からなかったが仮説を立てて行動に移すことや、自分一人で勝手に先走らず足並みを揃えるよう努力できた。積極的かつはっきりと意見や提言を言うことで齟齬を生まずに素早く班全体の目標をみんなで決めることができた。</p> |

【担当教員 古賀壮一郎 講評】

教育関係の仕事という将来の目標に向けての努力を継続できた一年間でした。文献・インターネットで調べて終わりではなく、Formsを使って全校生徒対象にアンケートを取る、市役所の担当課の方に直接学校の現状を尋ねるなど、説得力ある研究のための調査を行うことができました。このTRで身につけた力を来年度の活動、夢の実現に役立ててほしいと思っています。

『LGBTQの人が生活しやすい社会の実現に向けて』

2班 鈴木奈々子 宮内鈴奈 矢田部心鈴 後河彩楽 大家沙織

なぜLGBTQについて考えようと思ったのか

心理について探究活動をするにあたって、今の日本は「性の多様性」についての知識や理解が遅れていることを知った。

世の中でLGBTQの人が生きやすくなるにはどうすればいいのかということ、現在のLGBTQに対する問題を見つめながら考えたいと思った。

心理について探求活動するにあたって日本は「性の多様性」についての知識や理解が遅れていることを知り、自分の中の正しさを人に押し付けてはいけないと思い、LGBTQに対する問題を見つめながら考えたいと思いました。

LGBTQとは？


などの性的マイノリティのことを指す

- レズビアン(L) (女性同性愛者)
- ゲイ(G) (男性同性愛者)
- バイセクシュアル(B) (両性愛者)
- トランスジェンダー(T) (生まれたときの性別と自身の性別が一致しない人)
- クエスチョニング(Q) (自分自身の性別を決められない、決めないわからない人)

LGBTQとは、L (レズビアン) G (ゲイ) B (バイセクシュアル) T (トランスジェンダー) Q (クエスチョニング) の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ (性的少数者) を表す総称のひとつとしても使われることがあります。

自分たちの現在の考え方


- ・たくさんの偏見があると思う
- ・よく知らない人が多い
- ・同性婚は憲法違反と言われる理由はなにか
- ・誰もが生活しやすい世の中になるためにはどのようなことを行えばいいのか



今の私達がLGBTQに対してどのような知識があり、どのように考えているのかを4つあげてみました。そして、この内容に沿って社会全体のLGBTQに対する問題に目を向け、誰でも生きやすい世の中になるにはどのようなことをすべきかこの活動で考えてみました。

LGBTQの方が実際に困っていること

- 友達ができにくい
- 理解してくれる人が少ない
- 気持ち悪いと思われてしまう
- カミングアウトすることの壁がある
- 学校や職場では化粧やスカートを求められる事が多い
- 履歴書の性別記載が必須で困った など



<https://www.rhk.or.jp/navi/043ah/>
<https://www.city.hita.lg.jp/ja/kyoju/kyoju/043ah.html>

次に実際にLGBTQである方たちが実際に困っていることは何であるかについて調べてみました。そこでわかったのは、カミングアウトが難しいこと、理解してもらうことが難しいこと、友達ができにくいことなどであることが分かりました。

保護者・教職員への相談・困難

保護者・教職員に相談できるか

できる 8.4%

できない 91.6%

相談できない人が9割 困難を経験した人が3割

経験なし 24.4%

あり 75.6%

https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000031_000047512.html

過去に行われた調査では、学生の九割が保護者や教職員に相談できないと回答しています。また、相談できないだけでなく、学生の3割は教職員が原因で困難を経験しています。そのため教職員の理解促進の必要もあると考えられます。

LGBTQという壁をなくし生きやすい世の中にするために

- ・多様な性のあり方をお互いに認め合うこと。
- ・LGBTQについての正しい知識を身につけること。
- ・ALLYの活動を可視化させること

アライとは性的マイノリティの人達を理解し、支援する人やその考え方

LGBTQという壁をなくし、生きやすい世の中にするためには、多様な性のあり方をお互いに認め合いLGBTQについての正しい知識を身につけることやALLYの活動を可視化させることが必要であると考えます。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

各学年の担任の先生(1年～3年) 落合校地1年生～3年生の生徒

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|---|
| <p>(鈴木 奈々子)</p> <p>①今回の活動を通して、LGBTQは特別な存在ではないことをたくさんの人に理解してもらうためには性の多様性をお互いに認め合うことが必要で、偏見だけを拾って理解したつもりになるのではなく当事者の声を第一に聴くことが大切だと感じました。</p> <p>②もともとLGBTQに対しての偏見はなかったけど、今回の活動でより深く現代社会の問題を知ることができた気がしました。ALLYの活動を可視化させることでLGBTQの人たちが生活しやすい社会の実現に一步近づけると感じました。</p> | <p>(矢田部 心鈴)</p> <p>①TR活動を通して、LGBTQの方が困っていること、生活しにくいことなどについて知ることができました。LGBTQの方は実際、たくさんの悩みを抱えていて周りからの理解がとても大切なんだと改めて感じる事ができました。知識や理解が遅れている日本でも、性の多様性が当たり前理解される世の中になってほしいと思います。</p> <p>②以前LGBTQについて学ぶ機会があつて少しは理解していたつもりだったけど、今回の活動を通してパートナーシップなど、知らないことがたくさんあつて今までよりも性的問題の現状についてしっかり考えることができました。</p> |
| <p>(宮内 鈴奈)</p> <p>①私は今回の活動を通して、今の日本は性の多様性に対して知識や理解がないと思っていましたが、私が思うより理解が進んでいると思いました。</p> <p>②自分がLGBTQの人であることを隠して生活している方も多くいます。日常生活の中でLGBTQの方が傷つく言葉を無意識に言っている場合も多くあります。なので言葉遣いには気をつけようと思います。</p> | <p>(大家 沙織)</p> <p>①今回の活動を通して、LGBTQとは特別な存在ではなく、昔に比べると知っている人が多くなってきているということがわかりました。</p> <p>②LGBTQとは何かもともと知っていましたが、よりどのようなもので、当事者の方たちがどんなふう感じているのかということがわかりました。LGBTQの方たちが生活しやすくなるように、自分たちができることを考えたり、どういふことをすればいいのか考えていきたいと思いました。</p> |
| <p>(後河 彩楽)</p> <p>①今回の活動を通して、LGBTQの方たちは、カミングアウトすることに壁があるなどたくさんの悩みを抱えられていることがわかりました。LGBTQの方たちの悩みをなくし、生きやすい世の中になるためには社会全体がLGBTQについて正しい知識を身につけて行くことが大切だと感じました。</p> <p>②テレビや新聞でLGBTQの問題について取り上げられているのを見ると以前は何も考えずに見ただけだったけど今ではこの活動を通して同性婚のことなどLGBTQのことについて知ったので、より考えを深めていきたいと思いました。</p> | <p>【担当教員 森腰美奈 講評】</p> <p>このグループは、「心理」について学びたいという思いを持って、難しいテーマに取り組みました。LGBTQについて、調べた上でアンケートを取り、課題について考えることができました。メンバー間で上手に役割分担をしながら、アンケート調査やその集計、発表へとつなげることができていました。スライドの内容やレイアウトも、他者に伝わる表現を工夫し、課題解決にむけて必要なことまで伝えることができました。</p> |

障がいのある人に対する偏見をなくすために

3班 秋田美有 岩本瑞稀 馬坂歩来和 春木葵 平尾彩乃 船木愛結花


放課後等デイサービス「ピタゴラス放課後真庭」とは

- ・障がいのある子供たちや発達に特性のある子どもたちが放課後や長期休暇に利用できる福祉サービス
- ・真庭の放課後デイサービスには教室が3つ
「ピタゴラス」「マルコポーロ」「ペリー」
ピタゴラス⇒「私だってできる」の育成を目的とする！
マルコポーロ⇒バリアフリーでも楽しめる！
ペリー⇒現代に必要なスキルを身につけられる！

「ピタゴラス」はゲームや料理、遊び道具などがたくさんあってその中から好きなことを見つけ追求し、「私だってできる」という気持ちの育成を目的としています。「マルコポーロ」は車椅子を使用している子どもでも楽しめるようバリアフリー仕様になっており、ペリーはDIYや土遊び水遊びまで、現代っ子に必要なスキルを身につけることができる教室になっています。

マルコポーロ

- ・一人ひとりのやりたいことを行っている。
- ・スタッフさんたちは自分たちが楽しまない子どもたちも、楽しむ事ができないから全力で楽しんでいる。
- ・長期間の休みなどにはイベントをしたり、観光に行ったりしている。
- ・教室は季節に合わせた飾り付けをしている。
- ・地域の方との交流も行っている。(玉ねぎ作り、芋掘りなど)



小学生を中心に、一日に10人ぐらいの子どもたちがマルコポーロを利用しています。週末には、毎週イベントが用意され子どもたちもスタッフさんもみんな楽しんでます。なかなか一緒に楽しめない子どもたちにも楽しんでもらうため、スタッフさん自身が全力で楽しむことで、子どもたちにも楽しんでもらえるようにしていることを教えてもらいました。

ペリー

小学1年生の女の子と一緒に漢字の勉強

中学1年生の女の子とパンケーキづくり



登所してきた小学生の宿題のサポートをしたり、一緒にお菓子作りをしたりなどコミュニケーションを取りながら子どもたちと関わりました。以前は子どもたちに話しかけるのでさえ緊張していましたが、今回の訪問では前よりも気軽に話すことができました。

アンケート結果

障がいを持つ人達へのイメージ


| プラスのイメージ | マイナスのイメージ |
|-----------------|----------------|
| ・強そう | ・大変そう ・辛そう ・怖い |
| ・頑張っている ・努力している | ・不便 ・生きづらそう |
| ・他の人にはない個性がある | ・普通の人とは違う ・不自由 |
| ・優しい | ・関わりにくそう |
| ・賢明に生きていてすごい | ・生活しにくそう |

圧倒的にマイナスのイメージが多い

障がいのある人への偏見がそれぞれの中にあるということに気づいたので、10代の男女134人に障がいを持つ人達へのイメージ・なぜそのイメージを持っているのかをアンケートを用いて調査しました。アンケートの結果を見るといいイメージもあれば悪いイメージもあり圧倒的に悪いイメージが多いということがわかりました。

ピタゴラス

- ・スタッフの方々は子どもの自尊心を傷つけないように意見を否定しないように接している
- ・テレビやゲーム機、スマホなどのメディアを通して子どもたちの説明力や文章力向上に繋がっている
- ・ピタゴラスで何をするかは子どもたち自身で決めていて一人ひとりのいいところや個性を見つけている
- ・子どもたちが自分でできることは子どもたち中心で行動する



ピタゴラスにはメディア機器が多くあり、子供たち同士でゲームのやり方などを説明し合ったりすることで説明力や文章力の向上に繋がっていることや、スタッフの方々も子どもたちの自尊心を傷つけないように意見を大切にすることが重要だということが分かりました。今回の訪問で、子どもたち一人ひとりのいいところや個性を見つけていることができました。

私達に今できること

- ・子どもたちの「これをやってみよう！」という気持ちを大切に
- ・子どもたちの意見に対して否定せず、共感することで、信頼関係を築く

↓

聞いたことや、見たことを伝える

子どもたちの気持ちを考えて接し信頼関係を築き、私達が経験・実感したことを伝えることが大切だと思いました。私達が知った子どもたちのことを周りに発信することで、少しでも偏見を持っている人たちの考えを変えていきたいです。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

ピタゴラス・マルコポーロ・ペリーの施設の方々や子どもたち、真庭高校の本科の生徒

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(秋田美有)</p> <p>①現状ではまだ偏見を持っている人が多いということがわかったので、そういった人たちの考え方をもっと変えていけたらいいなと思いました。そして子どもたちと関わってみて実際に関わることの大切さをとても実感しました。</p> <p>②どうすれば偏見がある人への考えを変えることができるのかを詮索しながら活動をするできるようになっており、昨年の活動で得たことから更に学びや考えを深められる点が自分の中で変化したことなのかなと考えました。</p> | <p>(岩本瑞稀)</p> <p>①障がいのイメージを良くするためには私達が実際に放課後等デイサービスへ訪問し子どもたちとの関わりの中で感じたことを障がいについてマイナスなイメージを持っている人に発信していく必要があることに気づきました。</p> <p>②去年の活動で学んだ子どもたちの接し方や、コミュニケーションのとり方を活かしながら活動することができました。障がいに対する偏見がなくなる未来にするためには何をすべきか考えることができました。</p> |
| <p>(馬坂歩来和)</p> <p>①自分のペースでする子もいればスタッフさんが考えたスケジュールで行動する子どもたちもいることが分かりました。イベントを楽しむにはスタッフさんが楽しむ事で子どもたちも楽しんでもらえるようになることが分かりました。</p> <p>②1年のときにはしなかったアンケートを取り、アンケート結果でマイナスなイメージを持っている人が多くて今までの自分はそうなんだで終わっていたけど、良いイメージに変えていければという思いになりました。</p> | <p>(春木葵)</p> <p>①子どもたちは障がいの有無に関わらず、子どもたちは初めて会う私たちともたくさん話してくれるということが分かりました。そして子どもたちと関わる時に大切なことを実際に子どもたちとふれあうことで知ることができた。</p> <p>②去年のTRの時に比べ初めて会う子どもたちと緊張せず話す事ができた。自分が障がいのある子どもたちと関わり、わかったことや知ったことを偏見を持っている人たちに伝えることが大切だと思った。</p> |
| <p>(平尾彩乃)</p> <p>①2年生では、積極的に自分から話しかけるということが個人目標でした。子どもたち一人ひとりの個性を大切にながら会話をすることで話が広がり楽しんでもらうことができるということが分かりました。</p> <p>②今回の活動を通して、まだまだ障がいを持っている人に対しての偏見が多いことが分かりました。なので私達が学んだことを発信していきたいです。</p> | <p>(船木愛結花)</p> <p>①今年は自分から積極的に話すことができ、最初は緊張していた子たちも徐々に一緒に話をしてくれるようになっていったから子どもたちから話しかけるのを待つんじゃなくて自分から積極的に行くことが大切だとわかった。</p> <p>②子どもたちと関わっていくうちに関わりにくそうという偏見がなくなり、もっと一緒に遊びたいという気持ちに変わっていったので、みんなにも障がいのある人たちと関わって障がいのある人たちを知ってほしいと思いました。</p> |

【担当教員 大澤七海 講評】

この班は昨年に引き続き、障がいを持つ人についての探究を行ってきました。コロナ禍で制限がありましたが、去年の活動を振り返りながら自分たちが出来ることについて積極的に取り組む様子が見られました。子どもたちと仲良くなりたいたいという純粋な気持ちも抱きつつ、みなさんの将来に必要な

『真庭市の高齢者と長生きについて』

4班 東谷結美佳 藤久愛 香川朔太郎 池田啓人

きっかけ

(真庭市)
 ・死亡数>出生数となっている
 ・2040年には今より3割減少の人口になる
 ・人口の中で高齢者が最も多い

人口減少・高齢化が問題
真庭市人口ビジョンより

↓

高齢者の方に高校生と一緒に脳トレなどの健康づくりをしてもらい、長生きをしたいと思うきっかけをつくる

きっかけとしては真庭市は出生数より死亡数の方が多く、人口の中で高齢者が最も多いなど人口減少・高齢化が問題となっているので私達は高齢者の方に高校生と一緒に脳トレなどの健康づくりをしてもらい、長生きをしたいと思うきっかけを作ろうと考えました。

1.高齢者の現状

真庭市の現状(R4.4.1現在)

- ・高齢化率(65歳以上) 39.8%
- ・後期高齢化率(75歳以上) 21.2%

落合地区の高齢化率は37.8%

↓

2.5人に1人が高齢者
5人に1人が後期高齢者

活動内容の1つ目として真庭市の現状を知るために落合振興局の高齢者支援課の方に話を伺いに行きました。そこで分かった事は真庭市の高齢化の現状は2.5人に1人が高齢者、5人に1人が後期高齢者だということです。


2.ひまわりカフェ

ひまわりカフェ: 認知症を予防したい人や介護をしている人、話し相手が欲しい人などが集まる場所

(場所)落合振興局

(具体的な話の内容)

- ・テレビでニュースになっていること
- ・少子高齢化のこと
- ・育児放棄が多いこと
- ・将来の不安




活動内容の2つ目として落合振興局で行われているひまわりカフェに行き実際に高齢者の方と交流をしました。ひまわりカフェとは認知症を予防したい人や介護をしている人、話し相手がほしい人などが集まる場所です。

3.脳トレ実施

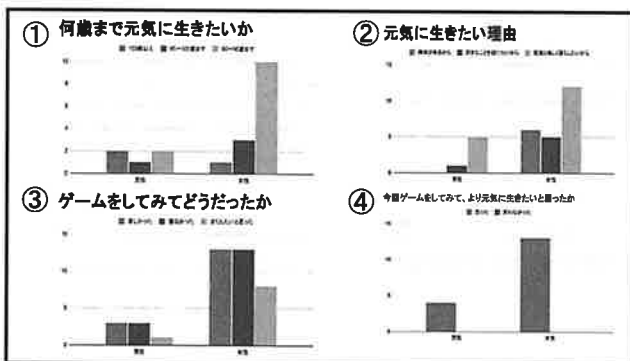
実際に白梅の丘に行き利用者の方に私たちが考えた脳トレをしていただいた

(サイコロゲームの様子)

(文字並べゲームの様子)



活動内容の3つ目として白梅の丘に行き、利用者の方々にサイコロを使ったゲームとペットボトルを使った文字並べゲームという私達が考えた2つの脳トレを実際に行っていただきました。



実際にどのくらいの方が長生きをしたいと思っているのかが分からなかったため白梅の丘で脳トレを実施後にアンケートを行いました。グラフ④の質問に対して全員がより元気に生きたいと回答している事が分かります。

まとめ

真庭市は高齢化がかなり進んでいる
認知症の割合は近年増加している

↓ 進行させないためには

健康づくりを行い
認知症を予防し、
長生きすることが大切

↓ 高齢者の方の将来の不安に繋がっている

↓ 解消するためには

若い世代の人たちが
地域活性化や貢献を行う

脳トレ実施 → 全員がより元気に生きたいと思うと回答
長生きをしたいと思うきっかけとなった

まとめとしては真庭市は高齢化がかなり進んでいて認知症の割合が増加しているという問題があるという事がわかりました。また、脳トレを実施しアンケートを行うと全員がより元気に生きたいと回答され、長生きをしたいと思うきっかけを作ることができました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

寺尾峰子さん【真庭市落合振興局 保健師】、ひまわりカフェの利用者さん、白梅の丘の利用者さん、池田恵子さん【白梅の丘事務長】、白梅の丘の職員のみなさん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(池田 啓人)</p> <p>①白梅の丘に自分たちで考えたアンケートと脳トレを高齢者の方と実際にして、様々なことを知ることができました。さらに、アンケートや脳トレを通して、高齢者の方とより自信を持って交流できるようになりました。</p> <p>②TRの活動を通して、地域の方と交流する機会が増えて1年生のときよりもコミュニケーションが上手に取れるようになりました。
そして、この活動を広めることによって真庭市だけでなく日本全体の高齢化から生まれる様々な問題を解決できると考えました。</p> | <p>(藤久 愛)</p> <p>①実際に振興局に話を聞きに行ったり、白梅の丘に行って高齢者の方と脳トレをしたりと実際に体験してみて色々を知る事ができて良かったです。そして、真庭市の高齢者の現状についてや認知症が増えていることも知り学ぶことができました。</p> <p>②TRの活動を通して、地域の方と関わる機会が増えて1年生の時よりコミュニケーションを多く取る事ができました。
そしてスライド作りも上達し、発表も詰まらずに言えるようになりました。</p> |
| <p>(香川 朔太郎)</p> <p>①真庭市の高齢者の現状など高齢化について学ぶことができ、脳トレをすることで認知症を予防することに気づきました。そして、白梅の丘に行って高齢者の方と脳トレの実践ができとても良かったです。</p> <p>②TRの活動を通して、地域の方と交流することが増え、コミュニケーションが1年生のときよりもうまくなりました。
そして、スライドなども工夫することで相手の人に見やすく作ることができました。</p> | <p>(東谷 結美佳)</p> <p>①振興局に行き真庭市の高齢化の現状を学びました。そこで高齢化が進んでいる事は高齢者の方の不安に繋がっているという事に気づく事ができました。さらに、認知症を進行させないためには脳トレなどを行うことが大切だということを知りました。</p> <p>②TRの活動を行う前は上手く高齢者の方とコミュニケーションを取れませんでした。TRの活動を通して今までよりも高齢者の方と交流する機会が増え、高齢者の方と上手にコミュニケーションをとることができるようになりました。</p> |

【担当教員 眞壁奈津子 講評】

5班と同様に医療・福祉をテーマに課題解決をしていくに当たって、まずは知ることから！ということ、落合振興局の方にお話を聞くという積極的なスタートでした。「認知症」に着眼し、企画し実践する事で、達成感を感じる事ができたと思います。クラス・学科を超えて集まったメンバーですが、最後には、協力してまとめ上げる事ができました。

『運動をして健康になろう』

5班 小林春翔 盛永啓太 新田陽菜 三澤華乃 宮本千愛

〈きっかけ〉

- ・高齢者の健康
- ・高齢者の筋力アップ
- ・スポーツを楽しんでもらう
- ・日々の生活の中にスポーツを入れてもらいたい



first dinner

活動しようと思ったきっかけは、高齢者の健康・高齢者の筋力アップ・スポーツを楽しんでもらう・日々の生活の中にスポーツを入れてもらいたいと思ったからです。SDGsとの関わりは3の「すべての人に健康と福祉を」です。

〈活動内容〉①

- ・落合振興局の方に話を聞く。
- ・高齢者の筋力アップDVDを見たり、パンフレットや資料を参考に内容を考える。



first dinner

活動内容は、落合振興局の方にお話を伺いました。そこで高齢者の筋力アップのパンフレットやDVDをもらい、高齢者が行っている体操やストレッチを覚えてもらい参考にしました。また、もらったDVDを参考にしました。

○総合センターで行っていること

- ・健康サロン(集いの場を広める活動)
→万歩計をつけて歩いたり、歩数の合計を競い合う
- ・ストレッチ
- ・検診→検診、介護サービスを使っていない200人ほどの自宅を訪問して調査しようとしている。
パンフレットを渡すなどの活動

真庭いきいきテレビで放送されて市内でも筋力やストレッチに力を入れている。

first dinner

総合センターでは、高齢者の健康・運動不足解消のために定期的に集まったり交流を深めたりしています。他には、理学療法士が高齢者の自宅を訪れて検診を行ったりするなど、高齢者の健康・運動不足解消のために積極的に活動をしています。

〈老健とは〉

- 医者・看護・介護からリハビリテーションまで、さらには栄養管理などのサービスを提供
- 利用者本人・ご家族が安定した在宅生活を続けられるよう支援し、介護保険で利用できる施設



老健とは医者・看護・介護からリハビリテーションまで、さらには栄養管理などのサービスを提供して利用者本人・ご家族が安定した在宅生活を続けられるよう支援し、介護保険で利用できる施設のことです。

〈活動内容〉②

11月24日に白梅の丘にお邪魔させていただきました。
安全！簡単！な、ストレッチと一緒にチャレンジ！



first dinner

11月24日に白梅の丘にお邪魔させていただきました。入所者の方と一緒に自分達が考えた椅子に座ってできる安全で簡単なストレッチをしました。司会・お手本・補助に分かれてしました。

〈まとめ〉

○高齢者が健康でいられるために○

- ✓定期的に検診に行く
- ✓集いの場を活用する
- ✓継続的にストレッチを行う



first dinner

この活動を通して高齢者の健康を維持させるためにどんな事が必要かを考えることが出来て、真庭市が行っている活動を知ることが出来ました。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願ひした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

池田恵子さん【白梅の丘事務長】、白梅の丘の職員の皆さん、白梅の丘の利用者さん
寺尾峰子さん【真庭市落合振興局 保健師】

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|---|--|
| <p>(宮本千愛)</p> <p>①真庭市は高齢者が多く健康サロンや検診、ストレッチを行っています。その中で毎日短時間で簡単なストレッチをすることで継続して出来ることがわかりました。高齢化率が上がっているからこそ、寿命が伸びるように真庭市全体で活動していることがわかりました。良かったことも課題が見つかったこともこれからの活動に生かしていきたいと思ひます。</p> <p>②5人に1人が後期高齢者だということを教えていただき、ストレッチを通して交流し楽しむことが出来ることを学ぶことが出来た。ストレッチをするだけでも健康につながるということがわかったのでこの活動で考えたストレッチを身近な人にも広めていきたいと思ひました。この活動を通してとてもいい経験がたくさん出来ました。</p> | <p>(小林春翔)</p> <p>①TRの活動を通して高齢者の健康維持についてたくさんの事を学ぶ事が出来ました。毎日継続してもらうために、座って出来る簡単なストレッチを自分達で考え、白梅の丘で実際に高齢者の方と一緒にやる事ができて良い点も悪い点も見つける事が出来ました。それに加えて高齢者と接する時に伝わりやすく話す事の大切さも学びました。</p> <p>②2年連続でTRのリーダーをして良い経験が出来ましたが、意見をまとめる力は全然無いのでこれから見付けていきたいと思ひます。そして、良い発表が出来た事はメンバーに感謝し、お疲れ様と伝えたいです。</p> |
| <p>(盛永啓太)</p> <p>①高齢化が進んでいる真庭市では、高齢者の方に健康で元気に暮らしてもらえるように様々な事を活発的に行っていることがわかった。また自分たちで考えたストレッチを実践し、ストレッチの感想などをいただくことができた。</p> <p>②真庭市は高齢化が問題になっていることは知っていたが、具体的な数値や取り組み内容は、知らなかった。若い世代の人が高齢者の方にできる手助けを考えたことがなかったため、この課題解決で高齢者の方との接し方を学ぶことが出来ました。この事をたくさんの場面で生かしていきたいです。</p> | <p>(新田陽菜)</p> <p>①真庭市では骨折防止や筋力低下の防止のために様々な取り組みをしていることがわかりました。考えたストレッチでは、誰でもできる座ってできるストレッチを考えたり、得られる効果を伝えるなどの工夫が必要だと学びました。</p> <p>②高齢者の方とストレッチをすることで動作を大きくすることやゆっくり話すことの大切さなどを学ぶ事ができて良い経験になりました。また、ストレッチの後に1人ひとりに感想を聞いたことでコミュニケーションも自然に取れていたことで成長できたと感じました。</p> |
| <p>(三澤樺乃)</p> <p>①真庭市の福祉についてほぼ知識がなかったため今回のTR活動を通して真庭市で高齢者の方のための集いの場やげんき☆輝きエクササイズを行っていること、自宅まで来てくれ、検診を受けられるという高齢者の方には便利で活用しやすいものがあるということを知りました。</p> | <p>②メンバーみんなと自分の意見を言い合ったり、手軽にできるストレッチを考えて、高齢者と一緒にするという体験までできたのはとても良い経験でした。また、人前に立つのが苦手でしたが、白梅の丘では、あまり緊張せず話す事ができたので、人前に立つことが苦手ではなくなったのかなと気づきました。</p> |

【担当教員 眞壁奈津子 講評】

4班と同様に医療・福祉をテーマに課題解決をしていくに当たって、まずは知ることから！と言うことで、落合振興局の方にお話を聞くという積極的なスタートでした。受け入れ先を見つけてる事に苦労していましたが、ねばり強く電話を掛けている姿勢がとても印象的でした。実践前は、白梅の丘さんとの打ち合わせや、リハーサルを行い、しっかりとまとめあげていました。成果発表会では、実践した体操を披露し、充実した成果発表になったと思ひます。

美容と地域の関わり

6班 門野七星 藤森美葵 毛利まり 森本妃音

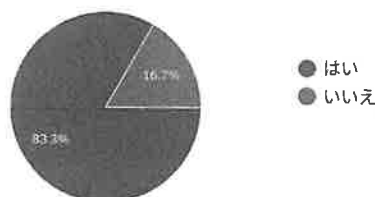
活動のきっかけ

私たちは将来、美容の仕事に就きたいと思っていて、地域の課題を解決するために私達にできることをしたいと思ったから。

私達4人は将来、美容の仕事に就きたいと思っていて、美容を通じて地域の課題を解決するために私達にできることをしたいと思ったからです。

アンケート結果

①現在、美容の面で困っていることはありますか



地域の課題を解決するために落合地域の子育て中のお母さんたち約200人にアンケートを取りました。美容の面で困っているというひとが約8割で、大半の方が困っていることがわかりました。

今回、美容の話聞くのにお世話になった方

サキナマネージャー: 和田久美子さん
(わだくみこ)



お母さんたちの悩みを解決するために、美容の専門の方に話を聞きに行きました。サキナマネージャーの和田久美子さんです。

教えてもらった美容法

- ・日焼け防止テクニック
- ・簡単なメイク法
- ・簡単なマッサージ法
- ・スキンケア時に気をつけること



今回教えてもらった美容法は、日焼け防止テクニック、簡単なメイク法、簡単なマッサージ法、スキンケア時に気をつけることの4つを教えてくださいました。肌のターンオーバーは28日周期だということも教えてもらい、いい勉強になりました。

アンケート結果2

①どのようなところが良かったですか？

- ・ファンデは気になる部分のみ部分塗りで良いというのは知らなくて勉強になった。
- ・箇条書きで簡潔にまとめてあるので、子供を抱っこしながらでも目を通しやすかった。
- ・美容に興味を持って下さった事、とても嬉しく思います。ただ、もう少し詳しく記事を書いたり、イラストなどがあれば見やすくなると思います。

和田さんから教わった内容を記事にして、お母さんたちに見てもらいました。記事にするときに、文字だけでなく、イラストをつけると見やすくなるという声もあって、次に活かそうと思いました。

まとめ

美容のことを聞いたり、自分たちで調べたりしていくうちに、今まで知らなかったことを知ることができた。

保護者の方にアンケートを取ったりして、困っていることを知れたり、お母さん世代の方たちとコミュニケーションをとることができた。

自分たちの夢と関連付けながら地域の方たちとコミュニケーションを取ることができました。

今回のTR活動で学んだことを活かして、今後の進路に役立てたいです。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

和田久美子さん【サキナ マネージャー】
 落合こども園・美川こども園・サポートあいの先生や保護者のみなさん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(門野 七星)</p> <p>①地域の方との関わりが増えて、とてもいい経験になり、今後も役に立てていきたいと思った。地域の方の意見はとても参考になり、スライドが作りやすかった。</p> <p>②以前より美容に興味があり、このTR活動を通して、今まで以上に興味が湧き、美容について積極的に調べることができました。また、協力することの大切さも学べました。</p> | <p>(藤森 美葵)</p> <p>①TRを通して、美容のことだけでなく、こども園の保護者の方とのコミュニケーションを取ることができ、地域の方と関わりをもつことができた。</p> <p>②班長という立場になって、自分のことだけを考えるのではなく、周りのことにも目を向けられるようになった。大人の外部の方と話すのは緊張して苦手だったが、関わった方たちが優しい方たちばかりで気楽に話せるようになった。</p> |
| <p>(毛利 まり)</p> <p>①今回のTRを通して、沢山の方々に協力していただいた。行動するためには沢山の人の協力が必要になることを知ることができた。権利と責任について考えながら活動することができた。美容について調べる中で肌の作りや、肌にとっての良いこと悪いことなどを知ることができた。実際にお母さん方にアンケートを取り、お母さん方が今抱えている問題について自分たちで行動して解決策を考えることができた。</p> <p>②前よりただ行動するだけでなく、自分たちで考えて行動することができるようになった。先のことを考えて行動することが思っていたより難しかった。今後、社会に出ていく中で必要なことが理解できた。今まで自分から進んで調べることはありませんでしたが、活動していく中で調べるのが楽しくなった。</p> | <p>(森本 妃音)</p> <p>①TRを通して、肌の仕組みや美容のことをもっと詳しく知ることができました。こども園の保護者の方にアンケートを取って悩みを知り、解決したり、地域の方とコミュニケーションを取ることができました。</p> <p>②もともと美容には興味があり、将来は美容関係の仕事に就きたいと思っています。今回、和田さんの話を聞いて、知らないこともたくさんあり、もっと興味が湧きました。今まではあまり調べたりしなかったけど、今回の活動をきっかけに美容のことを積極的に調べ、将来に繋げられるようにしたいです。</p> |

【担当教員 佐古和俊 講評】

この活動を通して4人が着実に成長してくれたことをとてもうれしく思っています。グループ内で気軽に意見交換するために親和的な雰囲気作りを心がけることができるようになったり、グループリーダーとして、まとめ役や司会進行で力を発揮できるようになったり、それぞれがこの1年間で協働性を身につけてくれました。また、グループで共有した考えを堂々と発表できる表現力も身につけてくれました。このTRで身につけた力が来年度の夢の実現に生かされることを信じています。

『郷土料理』

7班 近藤直哉 福嶋太一 中西美咲

郷土料理とは

各地域の産物を活用し、その地域独自の調理法で作られ食べられてきた、地域固有の料理です。また、地域の神仏や信仰、風習、気質などが結び付いて生まれたものもあります。郷土料理の特徴は、自然環境と社会環境が関連し合っていることです。

郷土料理という言葉は聞きますが、どのようなものが郷土料理に含まれるのか気になり調べてみました。

真庭の特産物

真庭では、「蒜山大根」「スイートコーン」「高原キャベツ」「桃太郎トマト」「ひるぜんジャージー牛乳」といった蒜山の野菜や牛乳。「銀飛沫」という勝山の山芋などがあります。



郷土料理は特産物も絡み合っているため、私たちが暮らしている真庭にはどのような特産物があるのか調べてみました。知っているものもありましたが知らないものもあり、特産品もあることがわかった。

仮説

仮説1

郷土料理を知っている若い世代は少なくなっているのでは？

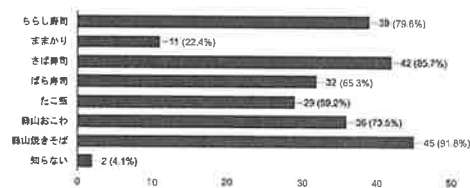
仮説2

郷土料理を美味しいと思う若者はいないのではないかな？



若者の地域離れなどが増加していたり、外食などで洋食や中華などを食べる機会が多くなっている。そのため、若い世代の人は郷土料理について知らないのではないかな、また知っていても美味しいと思わないのではと疑問に思い仮説を立ててみました。

郷土料理を知っていますか？知っているものすべてを選んでください。
49名の回答



アンケートを全校生徒に取って見た結果、郷土料理について知っている人が多いということがわかった。ここにはスライドがないが、郷土料理は美味しかったかという質問を取って見たが美味しいという回答が多く、仮説1と2は消えた。そのため、「郷土料理の作り方は知らないのではないかな」という新しい仮説を立てました。



岡山の郷土料理である「たこ飯」を作ってみました。とても簡単で私たちでも作ることができました。みなさんもぜひ、レシピを調べて作ってみてください。

SDGsとの繋がり

- ・地域の特産物を使い美味しく料理する
- ・皆と一緒に食べてその味を多くの人に知ってもらおう



地域の特産物を使い美味しく料理するは、SDGs1の「貧困をなくそう」、みんなと一緒に食べてその味を多くの人に知ってもらおうは、SDGs12の「つくる責任つかう責任」につながると考えた。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭高校生徒の皆さん

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

(氏名 福嶋太一)

①メンバーと一緒に一つの過程や目標を達成できるたびに大きな力が生まれて来たように感じました。自分の進路の選択肢の1つにすることができた1年間のTRになりました。そして、仮説を立てることで、自分たちの目標を決めることができ、その目標に向かってメンバー全員の理解を深めるきっかけにもなりました。

②僕は、あまり人前で発表や喋ることが緊張することがあり、発表があまり得意ではなかったのですが、メンバーの人が助けてくれてとても嬉しかったです。そして、スライドでどんな人が見ても面白かつ頭に残りやすいように工夫しました。メンバーみんなで笑った日もありました。

(氏名 近藤直哉)

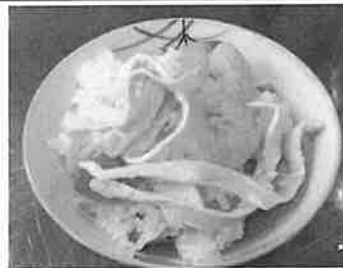
①メンバーが一丸となって一つの目標に向かっていけばいつもより大きな力を発揮できた気がしました。自分たちでアンケートを作って真庭高校の生徒の皆さんに答えてもらい、それをもとにして郷土料理の知名度を確認しました。その上で自分たちが知らなかった郷土料理もあり地域のことももっと知りたくなりました。

②今までの私は、人前で喋るのはあまり得意ではありませんでした。しかし、恥ずかしがるのではなく、どうせなら皆の記憶に残るような我々独自の発表をしてやろうと思い行動しました。聞いてくれた方々が楽しめる発表になったと思います。そのことが自信になり、今では人前で話す事が好きになりました。

(氏名 中西美咲)

①インターネットで調べたり、仮説を立てたり、アンケートで本当はどうなのか確かめたり、自分たちで作ってみたいすることで、新しい発見がたくさんありました。その活動を通して、郷土料理について理解を深めることができました。また、メンバーで一つの事柄について調べて、考えて、作り上げていくのは大変でしたが、達成感がありました。

②私は、発表のためのスライドを作ることが苦手でした。どのようにしたら見やすくなるのか、伝わりやすいスライドになるのかが、わからなかったからです。しかし、メンバーに相談したり、他の班の人の良いところを参考にしたり、先生から助言をいただいたりして訂正しました。そのため、より良いスライドを作り上げることができ、作り方の感覚を掴むことができました。



【担当教員 島田桃花 講評】

郷土料理をテーマに、自分たちで仮説を立てて探求をすることができましたね。アンケートを実施して、予想していた結果と違っても、諦めずに新たな仮説を立てて取り組むことができました。すばらしいです！成果発表会の代表に選ばれてからも、改善を重ねてよりよい発表に向けての準備をすることができました。みなさんの将来の夢に繋がる内容でもあったと思います。この経験を生かして夢に向かって頑張ってください。

『食べるは幸せ～食事制限されても楽しめる食事を～』

8班 藤井里名 平井夢来 谷本遥菜 山下裕花

課題・背景

- ・真庭市は高齢化が進んでいる
- ・高齢化に伴い基礎疾患を持つ方が増えている
- ・食事制限で食べたいものが食べられない
- ・看護師・栄養士を目指している



基礎疾患を持つ高齢者の方にも
美味しいご飯を食べてもらいたい

現在真庭市で高齢化が進んでおり、それに伴って基礎疾患を持つ方々が増えている。また疾患により食事制限がされ好きなものが食べられず、食事が楽しめていないのではないかと考えた。そこで、基礎疾患を持っている方々でも美味しく食事を楽んでもらいたいと考えメニュー開発に取り組んだ。

高血圧に伴ったメニュー開発

- ・酒粕を使ったお味噌汁
ペプチド カリウム
マグネシウム DHA
- ・舞茸とごぼうの炊き込みご飯
食物繊維



動脈硬化を予防し
高血圧を防ぐ

1つ目は酒粕を使ったお味噌汁。酒粕は血圧を低下させる作用を示し、酒粕を使うことで味にインパクトを与え、塩分を減らせると考えた。具として使われる豆腐は動脈硬化を予防、ほうれん草、鮭は血圧上昇を抑える作用がある。2つ目は舞茸とごぼうの炊き込みご飯を作った。きのこ類やごぼうの根菜は食物繊維が多く含まれナトリウムを吸着し体外へ排出してくれる。

舞茸とごぼうの炊き込みご飯



- レシピ
- ・お米 4合
 - ・ごぼう 1/2
 - ・舞茸 一袋
 - ・めんつゆ 大さじ4
 - ・塩 小さじ1
 - ・酒 大さじ2

舞茸とごぼうの炊き込みご飯では薄味にしても舞茸やごぼうの風味が付け足されおいしく感じられた。

アンケート結果



高齢者の方がどんな基礎疾患を持っているのか、真庭市上一瀬と落合垂水にあるいきいきサロンの方々にアンケートを行った。基礎疾患で一番多いのは高血圧であることが分かった。基礎疾患により制限されている食べ物は牛肉、うなぎ、刺し身、わかめ、青汁などがあつた。食事で気をつけていることは、野菜を食べる、減塩、薄味にする、バランスのよいものを摂るなどがあつた。

酒粕の味噌汁作り



- レシピ
- 108g→70g
- ・味噌 70g
 - ・酒粕 45g
 - ・人参 1個
 - ・鮭 2切れ
 - ・豆腐 1個
 - ・ほうれん草 2束
 - ・出汁(昆布 3枚、鰹節 ひとつかみ)
 - ・水 1200cc
 - ・ごま 少々

酒粕を使ったお味噌汁では通常108gの味噌を使うところが酒粕を入れることにより70gまで減らすことができた。人参や鮭、ほうれん草を入れることで色どりがよく、酒粕の風味が程よく香りコクがでており味噌の量が少なくても美味しいと感じられた。

関連するSDGs

3 すべての人に健康と福祉を



「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」



高齢化社会でも医療費を増大させないため、健康寿命を延ばしたり食生活の改善や運動習慣の定着等を目的とし、生活習慣病の早期発見、治療の促進や重症化防止のための情報提供を行う。

開発したメニューを多くの方に知っていただきたいと考え、レシピをいきいきサロンの方へ配布した。高血圧の方に動脈硬化を防ぐ食事メニュー開発することで悪化を予防でき健康でいる事ができると考えたため、SDG s 3「すべての人に健康と福祉を」につながると思った。



■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭落合校地の全校生徒、真庭上一瀬と落合垂水のいきいきサロンの方々

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どうしたことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|---|
| <p>(山下裕花)</p> <p>①基礎疾患に伴い多くの方が、減塩や薄味などの食事制限が多い中でも、味が濃いものが食べたいと考えている高齢者の方が多いことを知った。メニュー開発では味噌汁の味噌を減らし、酒粕のような風味など特徴のあるものを入れることで薄いと感じることなく食事を楽しめる工夫ができることが分かった。また、動脈硬化を防ぐ食材を取り入れることで予防もでき、より効果的に食事ができることを学んだ。</p> <p>②メンバーが看護師や栄養士など、食とを結びつけた活動目標を見つけることができた。また、その目標を達成するために、協力してメニュー開発をし、問題解決をすることができた。</p> <p>また、探究活動の中で外部の方々との交流も積極的に行けるようになった。</p> | <p>(平井夢来)</p> <p>①私の周りには高血圧の方がいなくてどうしたら食事を楽しめるのか知識がなかったが、沢山のの人にアンケートにご協力いただき、牛肉や刺身など私達が普段食べているものが制限されており、食べるころができていないことに気づいた。メニュー開発では味噌汁の味噌を減らし、酒粕を入れることにより味にインパクトがあり血圧低下させる作用があることや野菜を使用し動脈硬化を予防しつつ食事を楽しめることを学んだ。</p> <p>②普段は周りに任せてばかりだったが、人数が少ないこともあり、看護の授業で学んだ栄養や疾患のことについて自主的に勉強して、より深く学ぶことができた。そして、どうすると味が薄くならず美味しいメニューを開発できるかをメンバーと試行錯誤し、問題解決に向けて協力することができた。</p> |
| <p>(藤井里名)</p> <p>①基礎疾患について地域の方々にアンケートに協力してもらった結果、高血圧の方が多いことが分かった。それに伴ってメニュー開発をするために高血圧に効果がある食材を調べると、普段よく食べている野菜や魚などがあることが分かった。減塩をしているので薄味になってしまうが、コクを出してくれる酒粕や彩りを意識して具材をたくさん入れることによって満足できる味になり、これなら高血圧の方でも食事を楽しめると思った。そして、食事を楽しむためには味だけでなく見た目も大事だということもこの活動を通して学んだ。また、このレシピを広く知ってもらうことができ、様々な意見も知ることができた。</p> <p>②最初は高血圧に良い食材を使用して、減塩をして作れば良いと思っていたけど、それだけでは味が薄くなり食事も楽しめないなど感じた。そして、アンケートに協力してもらったり、実際にその場所に行き交流したりしたことにより地域の方々について知ることができた。</p> |   |

【担当教員 高橋 舞子 講評】

実際に真庭市のいきいきサロンに参加し、地域の方々と交流することで、食事や健康への思いを聞きとることができました。地域の方に向けてメニューを考え、調理・提案するなど多くの経験が活動を通して出来たと思います。積極的かつ、和やかにグループで意見を出し合い、自分たちで役割を決め活動ができている姿に成長を感じました。これからも進路実現に向けて身につけて力を発揮してください。

『家庭でも作れる栄養食』

9班 西山怜依奈 沼桃香 奥田華奈

～なぜ栄養食？～

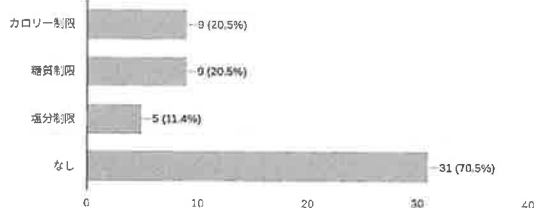
一年生のときに栄養のある食べ物や実習で病院食を見て、学んだりしたので、家庭でも作れる栄養食を考える。

栄養食は、1食分で1日に必要な栄養素の1/3を摂取できる食品。生命を維持したり、子どもたちが健やかに成長し、人々が健康で幸福な生活を送るために欠くことのできない営みであると思い、病気を持っている人が健康に満足に食べれるような食事を考える。

栄養食について研究しようと思った理由は、授業で栄養について学んだり実際に実習に行き病院食をみて家庭でも作れる栄養食を考察することにしました。

～アンケート結果～

食生活で気をつけていることはなんですか？（複数回答可）
44件の回答



真庭高校生に食生活で気をつけていることがあるかアンケートをとり制限している人達でも食べることでできる食事を作りました。

～豚しゃぶサラダ～ 糖質9.6g

材料

- ・豚バラ・・・75g
- ・レタス・・・1/2個
- ・トマト・・・1個
- ・砂糖・・・小さじ1/2
- ・醤油・・・大さじ1/2
- ・酢・・・大さじ1/2
- ・いりごま・・・小さじ1/2
- ・ごま油・・・大さじ1/2
- ・おろしにんにく、生薑・・・少々



糖質制限をしている人に向けて豚しゃぶサラダを作りました。普通の食事では1食約40gですが、私達は9.6gで作ることができました。糖質を制限することで血糖値の上昇を抑えることができます。

～玄米とサバ缶で炊き込みご飯(4人前)～ 331kcal

材料

- ・玄米・・・2合
- ・サバ缶水煮・・・1缶
- ・人参・・・1/4本
- ・しめじ・・・1/4パック
- ・醤油・・・大さじ1.5
- ・みりん・・・大さじ1
- ・酒・・・大さじ1
- ・生薑チューブ・・・2cm
- ・薬味ネギ・・・お好みで



カロリー制限をしている人に向けてサバの炊き込みご飯を作りました。玄米は白米に比べ、食物繊維が多く含まれているためダイエットに効果的です。玄米を使うことでより健康な食事を摂ることができます。

～レシピを見ての感想～

良かった点

- ・栄養バランスや彩りがしっかり考えられていて、美味しそうだった。
- ・どれも作り方が簡単で美味しそうだった。
- ・材料、作り方がポイント的にわかりやすかった。
- ・自分でも頑張れば出来そうだった。

改善点

- ・幼児や高齢者などターゲットを明確にした方が良い。
- ・地域の特産品を使うという視点が あるといい。
- ・糖質や塩分、カロリーが減るのか 具体的な数値があると分かりやすい。
- ・クックパッドのように動画を使い紹介するとより分かりやすい。

アンケートをとり、レシピを見てもらった結果、良かった点と改善点がわかりました。

～まとめ・SDGsへの繋がり～

病院で見た献立や授業で学んだことを活かし、糖質制限・塩分・カロリー制限のある人や健康な人が家庭で簡単に作って食べれるような献立を考えることができました。

また、すべての活動を通して、一人ひとりが何をすればいいか考えるようになりTRの内容がより深まりました。これから、健康に意識をしてもらって、規則正しい食事にももらえるようにしたい。



今後の課題は一週間分のメニューの献立を考え、食生活を改善してもらいたいです。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭高校の生徒・教師

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

(奥田 華奈)

①栄養食を作るうえでアンケートをとり、食事制限をしている人が気をつけていることは糖分や塩分を摂りすぎない、野菜中心の食事をする、カロリーが高いものを食べないことだとわかりました。

メニュー開発では、酢やにんにくを入れることで味にインパクトを付け、なおかつトマトやレタスなどの野菜を取り入れることで、ヘルシーで美味しく作れることがわかりました。また、ご飯も白米でなく玄米を使うことで食物繊維が含まれるなど、食材に工夫することで健康的なご飯が作れることを学びました。

②食事を作るときに食材や調味料を工夫することで制限がある人でも食べることができるということを知り、健康な食事をするために意識して食材を選んだり調理するようになりたいと思いました。

(西山 怜依奈)

①最初は、どんな食材を使って料理を作れば良いのかわからなくて困っていましたが、食事の制限をしている人のことを考えながら、メニューを作成したり、TRで活動をしていく中で、どんな食材を使えばいいのか、調味料はどのくらい入れたらいいのかなど、制限がある人にとって美味しく感じられる料理を作ることが大切だとわかりました。

②食事制限がある人のことを考えながら、料理やメニューを作成することができました。食事制限がある人に対して、自分は好き嫌いしてはいけないと考え方が変わりました。

(沼 桃香)

①今回は、病院で見たことや授業で学んだ知識のみで塩分制限、カロリー制限、糖質制限がある人の献立を考えました。最初に真庭高校生や先生たちにアンケートをとり、ほとんどの人は食生活で気をつけていることはなかったものの、その中で制限をしてしている人が気をつけていることもあり、その人が食事を通して健康でいられるように使用する食材から考え、味付け、盛り付けをすることができました。

②今までは食生活についてはあまり関心もなく何も気にしていませんでしたが、今回の活動を通して、健康でいるために糖質や塩分やカロリーのをこれからは気をつけたり、自分だけでなく家族の人たちにも今回のように献立を考えたりしていきたいと思いました。



【担当教員 島田桃花 講評】

ただ、「体にいい食材を使った栄養食」ではなく、「健康にも配慮しながら美味しい栄養食」のレシピを考案することができましたね。さらには、1. 2品で満足をするのではなく、計4品のレシピを考案することができ、自分たちで調理をする中での発見も多く見つけることができたのではないのでしょうか。3人の思いがこもったメニューになりました！ここで満足をするのではなく、このレシピを発信したり、人に食べてもらったり、研究を続けてほしいです。この活動がみなさんの力になることでしょう。

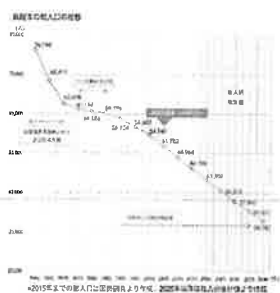
「真庭市の魅力紹介」

10班 山中愛望 中村綾那 松永知子 平井歩未

●テーマの理由

私たちの住んでいる真庭市の人口が年々少なくなっている。

<https://www.city.menwa.lg.jp/u/ploaded/attachment/22522.pdf>



私達はデザインで自分たちの住んでいる真庭市の魅力を伝えるというテーマでwebサイトを作っています。テーマの理由は真庭市は年々人口が減少しています。そこでwebサイトを作成し真庭市の魅力を伝え、海外、県外の人達が気軽に来れる場所だと伝え、それがきっかけで移住してくれる人が増えてほしいと思いこのテーマにしました。

1. まにちゃん

- ・蒜山の牛がメイン
- ・角は落合羊羹
- ・岡山の有名なデニム
- ・真庭の豊かな自然



一人目はまにぞうのような観光キャラクターをならい作成した蒜山の牛がメインで角が落合羊羹でできているまにちゃんです。岡山県はデニムで有名な県なので「ジージャン」を取り入れました。牛が葉っぱを食べているところから真庭市の自然の豊かさをイメージしました。

3. 木山寺・木山神社

秋になると紅葉が綺麗。今年で創建1207年と歴史のあるお寺で木山神社は木山寺の少し下にあります。毎年多くの人を訪れる。夜に平和をもたらし、情深い加護をくださる神として広く信仰されている。



真庭市の有名な観光地の中の木山寺・木山神社について紹介しました。木山神社は真庭市木山にあり、秋になると紅葉がとても綺麗です。今年で創立1207年になります。毎年多くの人を訪れます。

真庭の観光キャラクター

“まにぞう”にならない、真庭のキャラクターを考えました。



私達はキャラクターデザインでも真庭市の魅力を伝えられると思い、キャラクター制作をはじめました。真庭市の観光キャラクター「まにぞう」にならない真庭市のキャラクターを考えたり、他にも真庭市の特産物や観光地などをモチーフに擬人化をさせたキャラクターなども考えました。

湯原温泉

湯原の場所は中国山地の真ん中で盛んにたたら製鉄が行われていました。

たたら製鉄などを伝えた人(温羅)・桃太郎伝説では鬼をモチーフにしました。



二人目は観光地を擬人化して作成しました。湯原温泉の場所は中国産地の真ん中で盛んにたたら製鉄が行われていました。たたら製鉄などを伝えた人を温羅といい、桃太郎伝説では鬼とされているので、鬼をモチーフにしました。

●まとめ

①観光地や特産物の歴史を知り、人に伝わるように工夫することができた。

②人に親しまれ、真庭市の魅力が伝わるデザインを目指す。

まとめは、真庭市の観光地、特産物の歴史を知り、人にうまく伝えられるように工夫することができました。今後も人に親しまれ、真庭市の魅力が伝わるデザインを目指します。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

なし

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういうことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

(山中 愛望)

①どうすれば真庭市に、外国人や県外の人達が訪れてくれるのか考えました。そこで、自分たちだけで真庭市を紹介するためのサイトを作りました。より分かりやすく、伝わりやすいサイトにするためには、どうすれば良いのかを考えてサイトを作りました。真庭市の魅力をイメージしてキャラクターを制作し、真庭市の紹介に利用しました。キャラクターデザインは難しく、真庭市の魅力や観光地など、すべての要素を取り入れながら制作するのは大変でしたが、良い経験になりました。

②今までは、キャラクターを何人も作成したことがなかったので、とても大変でしたが作成することができました。よりわかりやすく伝えるためには見た目だけで、どれだけモチーフを伝えられるかが重要になると、改めて学びました。

(中村 綾那)

①それぞれの観光地の特色や特産物をwebサイトで紹介し、写真やイラストにすることで海外の人や、県外の人でも目に入りやすいことを目標に活動を進めました。自分たちで考えたキャラクターを使うことで、どの年代の人に対しても分かりやすく伝えることができました。案が浮かばず、困ったこともありましたが、PRしたいことを取り入れたり、色の使い方を工夫したりして、キャラクターを考えることは良い経験になりました。この活動が、自分の将来に役に立つように今後活かしていきたいです。

②今まで、オリジナルのキャラクターを作成したことはなかったのですが、モチーフを加えることや見た目に気をつけて制作することができました。活動を通して、改めて真庭市の魅力を知ることができました。自分にとっても新しい発見に繋げることができました。

(松永 知子)

①当初はwebデザインをテーマにしていたのですが、真庭を知ってもらうことを考えると、より興味を惹くものが良いと感じ、キャラクターを利用する方針に変えました。キャラクター作りを通して、キャラクターの服装や見た目、持ち物などには、一つ一つに意味が込められており、キャラクター自身にも役割があることがわかりました。今後、地域のPRなどに更にキャラクターが増えていくと面白いのではないかと思います。

②キャラクターを作ることを通して、ただ描くのではなく、モチーフや持ち物の意味などPRのためのものなら尚更、見る人に伝わりやすいものにするのが重要だと気づきました。キャラクターを作る上でのモノの見方が変わり、様々な視点から深く考えられるようになったと思います。

【担当教員 高田健一 講評】

物事に対する考え方は、言語でまとめようとしても微妙に似ていたりあるいは全く異なっていたりして、実に様々です。ですから、彼女たちの、文字ではなく、視覚に訴える情報のキャラクター化は戦略的に成功していると言わざるを得ないでしょう。合格！

『空き家について』

11班 河井集夢 山本巧波 酒井厚揮 杉山恭悠 松尾陸 藤井智己

なぜ空き家について探求しようと思ったか

- ・去年最後までやり遂げられなかったから
- ・登校する際に空き家をよく見かけるから



真庭市には空き家が多くあり、登下校中にも見かけるほどである。昨年、空き家活用についての探求を行ったが、中途半端なままに終わったため、今年度も引き続き活動を続けることにした。

放置空き家をもたらす問題

- ・老朽化による倒壊
- ・景観の悪化
- ・放火等による火災



管理されていない空き家を放置すると、老朽化による倒壊や、景観の悪化、放火等の火災が問題になることがある。

空き家が増える主な原因

少子高齢化

- ・自宅を所有する高齢者が老人ホームや高齢者住宅に転居することで、家が残ってしまい空き家になってしまうことが多い。



空き家が増えてしまう原因としては、高齢者が老人ホームや高齢者住宅に転居することで、家だけが残ってしまい空き家になってしまうことがある。所有者はいるが、実質的に管理されていない「空き家」となるのである。

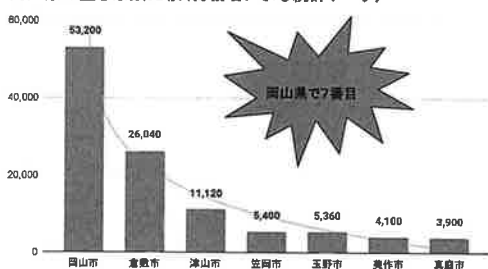
真庭市の空き家数

- ・真庭市のアパート等を含んだ空き家数 3,900戸
- ・日本全国(市区町村別)で484番目に多い
- ・岡山県で7番目に多い



真庭市の空き家数は3900戸で、日本全国の自治体で484番目、岡山県内で7番目となっている。マンションやアパートの空き室までふくめているため、都市部ほど空き家数は多くなる。真庭市は、管理されていない空き家が問題となっている。

岡山県の空き家数比較(総務省による統計データ)



今年度の活動では、空き家の実態に関して真庭市の交流定住推進課にお話を伺った。また、久世地域で空き家の有効活用をしている人の講演会を聞いたり、一部の活動に参加させていただいた。

SDGsとの繋がり

- ・空き家をなくし街の外見をよくする



管理されていない空き家を有効活用することで、街の外観がよくなり、住みやすいまちづくりが可能となると思う。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

河野文雄さん(合同会社わっしょいボヘミアンCEO)

■各自の振り返り

①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと

②今年のTR活動を通して感じた自分の変化

(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(杉山 恭悠)</p> <p>①真庭市に多くの空き家があることで衛生問題が起きたりする。そのため、河野さんが行っている空き家のリノベーションという活動は、地域にとって良い活動であることがわかった。空き家活用について学ぶことはとてもよい経験になった。</p> <p>②前回のTRの活動に比べて、スライドが多くなったため、スライドを見やすくするため創意・工夫を行った。空き家を調べていくうちに空き家もたらず問題や、他の市がどういった活動をして空き家を減らしているか多く知ることができた。</p> | <p>(松尾 陸)</p> <p>①真庭市には多くの空き家がある。多くの人が空き家を有効活用して、真庭市を盛り上げようと思って、活動をしていたことに気づいた。そして、真庭市の空き家の多さに驚いた。</p> <p>②活動を通して真庭市の空き家の数の多さや、真庭市の空き家を有効活用している人たちがいることに気づけた。外観は同じでも内装が違う家を建てて、空き家をなるべく減らそうとしている人たちが多くいることを知ることができた。</p> |
| <p>(山本 巧波)</p> <p>①真庭市は岡山県で7番目に空き家が多いことを知った。また、空き家が生まれてしまう原因や空き家がもたらず問題について知ることができた。講演を聞きに行き、空き家問題を解決しようと活動をしている人がたくさんいることが分かった。</p> <p>②講演を聞きに行くなど、昨年より積極的に活動に参加できた。TRの活動を通して空き家問題をはじめとした、地域の様々な事に興味を持つことができた。</p> | <p>(藤井 智己)</p> <p>①今年のTR活動を通して、空き家が増える主な原因や真庭市の空き家の数について知ることができた。真庭市の空き家の数は岡山県で7番目に多いことにも驚いた。</p> <p>②実際に河野さんの講演に行ったりなどして、昨年よりも活動に対する積極性が高まっていると感じた。空き家問題だけでなく、真庭市の他の課題にも目を向けられるようになった。</p> |
| <p>(酒井 厚揮)</p> <p>①真庭市では、多くの人が地域のために活動していることに気づきました。久世地区では、空き家を有効活用することで、地域を盛り上げようとする人がいました。地域を盛り上げている人の活動はSNS等を通じて、多くの人に真庭市について知るきっかけを作っていることがわかりました。</p> <p>②活動を通して、昨年と比べていろいろなことに積極的に参加できるようになったと感じました。また、地域活性をはじめとした、真庭市の様々な課題に興味を持つようになった。</p> | <p>(河井 集夢)</p> <p>①自分はまだまだ真庭市について知らないのだと知った。真庭市には、空き家問題だけでなく色々な問題、課題があると知ることができた。真庭市の問題を解決するために活動している人が多くいるのだと知ることができ、TR活動で空き家問題について探求して良かったと思う。</p> <p>②色々な人に空き家問題や河野さんの活動に興味を持ってもらおうと、積極的にイベントに参加した。今までは、空き家に対して興味がなかったがTR活動を通してどうすれば真庭市を変えられるかを考えるようになった。</p> |

【担当教員 乙部博章 講評】

昨年度からの引き継ぎの活動でしたが、自らイベントや講演会に参加するなど、昨年と比べて積極性という点で成長を強く感じました。空き家問題について調べる際は、真庭市についてだけではなく、他の地域と比較するなど、調べ方にも工夫が見られて良かったと思います。

「防災ノート」

12班 草地志帆 宮島世莉羽 竹原諒 池本優生

○ノートの内容

- 1 ハザードマップ(真庭市)
- 2 真庭市で起こりやすい災害
- 3 災害時に作れる防災グッズ
- 4 簡単にできる防災食
- 5 応急手当の仕方
- 6 災害時のトイレ・洗濯
- 7 地震が起こったときの行動
- 8 防災グッズチェック表
- 9 家族情報

ノートの内容は

- 1 ハザードマップ(真庭市) 2 真庭市で起こりやすい災害
- 3 災害時に作れる防災グッズ 4 簡単にできる防災食
- 5 応急手当の仕方 6 災害時のトイレ・洗濯
- 7 地震が起こったときの行動 8 防災グッズチェック表
- 9 家族情報

災害時でも簡単に作れる防災グッズ

・スリッパ

1.新聞紙を半折って縦向きに置く 2.真ん中に向かって右から左に一度折る横向きに置く 3.同じ方向にもう一度右から左へ折る 4.新聞紙を高さして3分の1の幅で右から左に向かって折る

5.さらに左から右に折る 6.折った片方を、もう片方の中に折り入れる 7.頂点を三角に折って内側に折り入れる 8.完成

スリッパのメリット
災害時に物が散乱しているガラスの破片が飛び散っていたりする可能性があるため、その時に素足を守ることが出来る。

このページから9ページ目までは災害時に紙でできる防災グッズについて記載しています。私達自身が実際に作った時の写真を使っており、作ったとき難しかったところや説明がわかりにくいと感じたところには理解しやすくするために写真に記号や赤い線で補足しています。

応急手当の仕方

止血方法

- 1 止血しているところを完全に包み隠す大きなガーゼや布でやや強く押さえ止血
- 2 患部を清潔に保ち、包帯などを巻く
- 3 直に血液に触れないようにビニール・ゴムを利用する

やけど

- 1 流水で患部を冷やすのが一番いいが、水が出ないときは水で濡らした清潔なガーゼやタオルを頻りに当てて冷やす。
- 2 水ぶくれは破らない
- 3 清潔なガーゼかきれいな布をあて包帯をする

地震や火災時に想定される主な怪我は、破損したガラスによる出血や落下物による、打撲・骨折、点灯したストーブからの出火によるやけどなどがあります。なのでノートには止血方法、やけどの処置、骨折の応急処置の仕方を調べ、簡単に記載しています。

真庭市で起こりやすい災害

洪水

洪水を防ぐ簡易対策

1. ゴミ袋を使った簡易水のうを作る。
2. 簡易止水板で家屋へ流入する水をせき止める。
3. 雨水ますの上・ベランダの排水口をこまめに清掃
4. 雨水ますの上に物を設置しない。
5. ハザードマップで危険な区域・避難場所をチェックしておく。



こんな対策をしよう!



真庭市で起こりやすい災害である洪水についてのページで洪水が起こった際の簡易的な対策について記載しています。

他にも真庭市で起こりやすい災害の2つ目の例である土砂災害発生時に注意することやその対策などを記載しており、文章だけでは伝わりづらいことを写真などでわかりやすくしています。

簡単にできる防災食

ご飯

用意するもの

- ・ 無洗米 100cc
- ・ 水(ペットボトル) 120cc
- ・ ポリ袋 3枚

作り方

- 1 ポリ袋を三重にして、無洗米を入れて水を加えて30分漬す。
- 2 鍋に火を入れ、火にかけ沸騰したところへ、お皿を被めて(鍋とポリ袋が直接当たってポリ袋が焼けぬようにするため)ポリ袋のポリ袋の口を結び1をお皿の中に入れ、15分煮る。
- 3 火を止め、蓋をして15分予熱で加熱する。
- 4 鍋からポリ袋を取り出し5分置きます。
- 6 ポリ袋の口を開け、ご飯をすくい器によそう。

10ページ目は簡単にできる防災食について記載しています。災害時でもポリ袋と水と鍋さえあればお米やパスタを作ることができます。その他にもサバ缶を使ったカレーやカンパンとマシュマロでできるカンパンマシュマロバーのレシピを記載しています。レシピはどれも簡単で最小限のものでできて美味しい料理を選んでいきます。

防災グッズチェック表

| |
|-----------------------------|
| 食料(そのまま食べられるものや簡単に調理出来るもの) |
| 飲料水(1人3リットルが目安 3日分) |
| 救急グッズ(絆創膏・包帯・買置薬・持病の薬) |
| 非常用持ち出しカバン |
| 身を守る物(ヘルメット・帽・手袋・懐中電灯) |
| 衛生グッズ(マスク・消毒液・ティッシュペーパー) |
| 情報を得るためのもの(ラジオや携帯の充電器) |
| 衣服(なるべく動きやすい服・雨具) |
| 防塵具(毛布・カイロ) |
| 乳用グッズ(簡易トイレ・ビニール袋・ライター・タオル) |

18.19ページからは、防災グッズチェック表や家族の連絡先などが書けるようになっていきます。日頃から、家庭内で不足している防災グッズの確認や、家族と災害時についての話し合いをしておくことが大切です。

■関わった人たち

(担当以外の先生・メンバー以外の生徒・他学年の生徒・アンケートやインタビューなどお願いした方・大学の先生方・地域の方々・その他の方々)

真庭落合振興局の方々・消防署の方々

■各自の振り返り

- ①今年のTRを通して自分が学んだことや気づいたこと
- ②今年のTR活動を通して感じた自分の変化
(どういふことを通して、それまでどうだった自分が、どのように変わったか)

| | |
|--|--|
| <p>(草地志帆)</p> <p>①本を自分たちだけで作り上げることはとても大変だった。文字の大きさやイラストなどを使って、見やすいノートを作ることを意識して取り組んだ。消防署見学では、車両見学や放水、防火衣を着させてもらったり貴重な体験ができた。</p> <p>②防災ノートを通じて災害時に役立つことを知ると同時に防災意識を高めることができた。また、落合振興局に置かせていただき、地域の方々に広められ、役に立ててもらえることができて嬉しい。</p> | <p>(宮島世莉羽)</p> <p>①一から防災ノートを作るのは難しかった。災害時に持ち出しやすいように大きさを工夫した。大人から子どもまで見やすいようにイラストや文字の色を変えた。自分だけじゃなくて見る人の立場になって考え作ることの大切さがわかった。消防署見学は、消防士の仕事を体験することで、社会に出て働く大変さなどを知ることができた。</p> <p>②防災ノートを作ることによって自分の防災への意識も変わった。この活動で得たものを、自分の周りの人にも伝えようと思った。防災ノートが多くの人に広まり、防災意識を高めることができたなら嬉しい。</p> |
| <p>(竹原諒)</p> <p>①防災ノートを作ったことで地域の防災についてより詳しくなることができた。自分たちの地域でどんな災害が起こりやすくてどんな対策を取る必要があるのかをわかりやすくノートにすることはとても難しかった。また消防署を見学したり、探究の発表など普段できないことを体験することができた。</p> <p>②自分の文章が他の人には難しかったり、わかりづらかったりする事がわかった。しかし、その内容をさらに調べたり、文字以外で補足することによってかなり伝わりやすいノートを作ることができた。そのノートが地域の方々に使ってもらえることになり本当に作ってよかったと思えた。</p> | <p>(池本優生)</p> <p>①防災ノートを通して防災への意識や対策を深く知ることができた。ノートはイラストや文字の大きさや色や写真などを使って使う人、全員が一目見ると何をすればいいのかわかるように試行錯誤を重ねて作ることができた。スライドの発表では防災ノートを観客の方々に配り、落ち着いて発表ができました。</p> <p>②災害時に何をすべきかを即時に判断することができるようになり、自分たちが作った防災ノートが地域や市役所の方々の人に使ってもらえることができ地域の役に立っているという実感を持てるようになりました。今後の行動や活動に役立てていこうと思えるようになった。今後の防災活動のためになると嬉しいです。</p> |

【担当教員 山口 明 講評】

災害時に何が必要かを考え、オリジナルな災害ノートを作成することができました。色使いや大きさもちょうどよく、家に置いておくと、日頃から災害を意識する事ができると思います。落合振興局で配布したり置いてもらうことができ、地域にも貢献できてとても良かったです。



第3学年

⇒ 麻田・井上・下山・栗木・川嶋・花谷・青野



令和4年度 普通科3年生 真庭トライ&リポート(TR) 年間活動計画

【生徒配付・教室掲示】

| No. | 月 日 | プロセス | 評価 | 内 容 | | | 形 態 | 活動場所 | 担当者 | |
|-----|--------|-----------|---------------|--|-------------------------------|----------------------------------|---|------|-------|--|
| | | | | 進学チャンネルA
@進路指導室(講義室) | 進学チャンネルB
@電算室(3-2) | 就職チャンネル
@進路資料室・大講義室(3-1) | | | | |
| 1 | 4月18日 | (1)テーマ導入 | 評価Ⅰ | ■昨年度成果冊子配布、今年度ガイダンスとチャンネル希望調査 | | | 3年
普通科
全体 | 講義室 | 花谷 | |
| 2 | 4月25日 | (2)テーマ設定 | | ■テーマ設定①[志望理由]手帳・付箋紙を使って3年間の活動洗い出し(フレンストーミング) | | | | | | |
| 3 | 5月9日 | | | ■テーマ設定② DVD視聴『テストの花道-AO推薦対策:志望理由書』 | | | | | | |
| 4 | 5月23日 | (3)探究活動計画 | 評価Ⅱ
Ⅲ | 進路研究・志望校調べ | 志望校調べ | 志望業種・公務員調べ | 各チャンネル
※指定場所
以外の時は
花谷まで
ご一報を。
※特に図書
室
使用は事前
に中田さん
に申し出る
こ
とをお忘れ
なく!
※PC使用時
は電算室 | 各担当者 | | |
| 5 | 5月30日 | (4)探究活動 | | 志望校調べ、面接ノート概要説明、受験レポート印刷配布 | 志望校調べ、面談、「①推薦Aの入試受験願」記入上の注意説明 | 採用試験調べ | | | | |
| 6 | 6月6日 | | | 木曜補習希望調査、市長と話そう準備 | 志望校調べ、面談 | 求人票から労働条件を考える。 | | | | |
| 7 | 6月13日 | | | 「市長と話そう」事前学習講師CEO 平田勉先生 | 志望する理由の整理、面談 | 真庭警察署から職業についての話を聞く | | | | |
| 8 | 6月20日 | | | 面接ノート作成(大学所在地、試験内容・試験日程、アドミッションポリシー、志望理由など) | 志望する理由の文章化、面談 | 志望する理由の文章化、面談 | | | | |
| 9 | 6月27日 | | | | 面接頻出事項の文章化、面談 | 面接頻出事項の文章化、面談 | | | | |
| 10 | 7月11日 | | | 「市長と話そう」太田界氏来校 | 出願書類作成、面接練習 | 就職先の絞り込み。公務員は出願先を決める。 | | | | |
| 11 | 9月12日 | | | 各自
大学入試に向けた対策・準備
・出願書類作成
・小論文練習
・志望理由書作成
・プレゼン準備
・面接練習
・教科学習
・適宜担任面談
など | 出願書類作成、面接練習
今後の活動計画作成 | 就職は直前指導。
公務員は面接対策。 | | | | |
| 12 | 9月26日 | | | | <未決定者> | 就職は事後指導。
公務員は面接対策。 | | | | |
| 13 | 10月3日 | | | | ・出願書類作成
・面接練習 | 就職は事後指導。
公務員は面接対策。 | | | | |
| 14 | 10月17日 | | | | ・特招生入試等の学習
・出願書類作成 | 事後指導 | | | | |
| 15 | 10月24日 | | | | <決定者> | 事後指導 | | | | |
| 16 | 10月31日 | | | | ・受験レポートの作成
・先輩へのメッセージ作成 | 事後指導、公務員は専門学校の出願指導。 | | | | |
| 17 | 11月7日 | | | | ・専門分野研究、資格取得などの進路学習 | 事後指導 | | | | |
| 18 | 11月21日 | | | | 評価Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ | ■先輩へのメッセージ作成(入試を控えている生徒は入試対策に専念) | | | | |
| 19 | 11月28日 | | | | | ■TR振り返りgoogle 入力、先輩へのメッセージ作成 | | | | |
| 20 | 12月12日 | | | | | ■TR振り返りgoogle 入力、先輩へのメッセージ作成 | | | | |
| 21 | 12月19日 | | (7)フィードバック・総括 | ■TR振り返りgoogle 入力、先輩へのメッセージ作成 | | | 全体 | 電算室 | 花谷・麻田 | |

※月曜日休日のため、期末考査後の時間割や夏季補習でTRを加えることが予想されます。

※担当教員や活動場所などは希望調査の後修正する可能性もあります。

※3年団:井上・下山・栗木・川嶋・青野・麻田・花谷(岡本先生・臼井先生にも可能な範囲で医療看護系志望生徒の指導サポートをさせていただく)

■形態:学年単位とし、3年間を通して段階的に発展していく。3年間の見通しをもって、『総合的な探究の時間(真庭トライ&リポート)』を計画する。

【第1学年】「HOW TO LEARN」(ものごとを調べ、まとめる方法を学ぶ)課題別グループ学習[興味・関心を広げる]

【第2学年】「WHAT TO LEARN」(自分で課題を設定し、調べる)進路別課題学習・看護臨床実習における看護研究[知識・理解を深める]

【第3学年】「HOW TO LIVE」(進路実現・卒業後の生活のために学ぶ)進路別課題学習[具体的な自身の進路実現]

■月曜日6限。12月までで終了。2月4日成果発表会は1・2年生のみ。(1学期中間考査以降月曜日7限木曜日7限補習(16:00~16:45)スタート予定)

■探究活動における7つのプロセス: (1)テーマ導入、(2)テーマ設定、(3)探究活動計画、(4)探究活動、(5)まとめ、(6)発表、(7)総括・フィードバック

■評価:上記7つのプロセスを3つ(1, 2, 3/4, 5, 6, 7)に分けて、各担当教員がABCで評価する。(出欠はクラス担任)

■3年生(F):『自分の進路』という柱から【テーマ設定】を行う。※体験の質・量の向上。『SDGs』の視点。『地域とつながる』視点。チャンネル内では個人で活動することを原則とする。(1・2年時はグループ)

| | | | |
|--|-----|----------------------|----------------|
| <p>■①■進学チャンネルA (国公立4年大公立短大私立大学短大 進学を目指す生徒)
GW・夏休みでのオープンキャンパスに向けた取り組み(予約・注意事項・面接)
各自狙いとする総合型選抜・学校推薦型選抜を挙げ、それに向けた取組(コンテスト・コンクール応募、聞き書きなど)</p> | 13名 | 進路指導室
集合
(講義室) | 井上
栗木
川嶋 |
| <p>■②■進学チャンネルB (専門学校 進学を目指す生徒)
GW・夏休みでのオープンキャンパスに向けた取り組み(予約・注意事項・面接)
受験校決定・決定後には徹底研究(入試の内容に応じた学習・活動)に取り組む。
合格後には、プレゼンテーション・PC活用講座(進学後に必要な分野の学習)に取り組む。</p> | 10名 | 電算室
集合
(3-2) | 花谷
麻田 |
| <p>■③■就職チャンネル (就職を目指す生徒)
求人票の見方、SPI2攻略、適性検査・一般常識トレーニング、面接、真庭地域産業調べ(落合羊羹・真庭市の変化・真庭市のしごと・衣食住)、資格調べ(危険物OFFICE検定就職試験トレーニング)。
内定獲得後には、社会人マナー講座(ネクタイ・化粧)、礼状、年賀状など。</p> | 12名 | 進路資料室
(3-1) | 青野
麻田
下山 |

※各チャンネルに複数教員を割り当て、出張休暇等に柔軟に対応する。(不在予定はチャンネル内教員に事前連絡を。)

※活動場所【HR】【図書室】【電算室PC】【4-1】など校外も含めて考える。

※『こちら真庭高校市民課防災係』(通称:こち防)の取組(3年生別途希望者)

※大学公開講座やコンテスト(愛媛大学社会共創コンテスト、福知山田舎力甲子園など)、岡山県ボランティアアワード、専門学校ネイル甲子園など



